

分布調査報告書(17)

1990年

山形県教育委員会

分布調査報告書 (17)

平成元年度以降農林土木事業他関係遺跡
国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡
埋蔵文化財包蔵地基礎調査

平成2年3月

山形県教育委員会

序

本報告書は、山形県教育委員会が平成元年度に実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の進展に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財とのかかわりが増加する傾向にありますが、埋蔵文化財は本来土地に密着したものでありますから、保護にあたっては国民がその特性を十分認識し、周到な配慮をもって対処することが望まれています。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり、今後も埋蔵文化財の適切な保護と活用のため努力を続けていく所存です。

本調査にご協力いただきました関係各位、地元の方々に感謝申しあげるとともに、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

平成2年3月

山形県教育委員会

教育長 木場 清耕

例 言

- 1 本書は、平成元年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成元年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治(埋蔵文化財主査)・佐藤庄一(埋蔵文化財係長)・野尻 侃(主任技師)・佐藤正俊(主任技師)・名和達朗(主任技師)・渋谷孝雄(技師)・阿部明彦(技師)・長橋 至(技師)・安部 実(技師)・黒坂雅人(嘱託)・伊藤邦弘(嘱託)・軽部文雄(嘱託)・斉藤主税(嘱託)の13名が担当した。
- 3 本書の編集は、渋谷孝雄・安部 実が担当し、全体については、佐々木洋治が総括した。
- 4 第一章に遺跡一覧、第二章に個々の遺跡の内容を記した。
- 5 挿図の縮尺は不統一であり、その都度各々にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用し、第II章2以下についてはこれをさらに縮尺して使用した。遺跡地名表の番号は当該事業内の位置図の番号に一致する。
図版内の遺物は2分の1、3分の1を原則とした。異なるものは図版中に示した。
挿図及び文中の記号は、黒丸・T・TT・TP—試掘地点、赤丸—遺構・遺物検出地点、RP—土器、SB—掘立柱建物跡、SK—土壙、SD—溝、SP・EP—柱穴、EB—掘り方を示す。土器実測図で断面白ヌキは土師器、点描は赤焼土器、黒ヌキは須恵器を示す。
- 6 調査にあたっては、各関係機関、市町村教育委員会及び地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過

- 1 調査の目的、方法 1
- 2 調査の経過 1

II 調査の概要

1 調査遺跡地名表

- (1) 県営ほ場整備事業関係遺跡 6
- (2) 農免農道・広域農道関係遺跡 12
- (3) 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡 18
- (4) 国道改良事業関係遺跡 20
- (5) 県道改良事業関係遺跡 24
- (6) 河川改修・ダム建設事業関係遺跡 32
- (7) 団地造成・土地区画整理事業関係遺跡 34
- (8) 酒田地区基礎調査 36
- (9) 朝日村基礎調査 38
- (10) 尾花沢・新庄地区基礎調査 38
- (11) 寒河江・大江・西川地区基礎調査 40
- (12) 小国町東部地区基礎調査 48

2 試掘調査の概要

- (1) 西海淵遺跡 52
- (2) 二口遺跡 54
- (3) 大坪遺跡 56
- (4) 中田浦遺跡 58
- (5) 東田遺跡 60
- (6) 囲地田遺跡 64
- (7) 新町後遺跡 66
- (8) 平根遺跡 68
- (9) 当岳遺跡 70
- (10) 猪野沢横台遺跡 72
- (11) 横山C遺跡 74

(12) 山海窯跡群	76
(13) 山谷新田遺跡	82
(14) 山楯楯跡	84
(15) 重倉遺跡	90
3 記録保存調査・立会調査の概要	
(1) 仁田田遺跡	92
(2) 大坪遺跡	100
(3) 前田遺跡	108
(4) 地ノ内遺跡	118
(5) 大東遺跡	122
(6) 後田遺跡	126
(7) 月記遺跡	132
(8) 大道下遺跡	140
(9) 畑田遺跡	144
(10) 中野遺跡	152
(11) 東田遺跡	154
III まとめ	162
附表－1 調査工程表	2
附表－2 平成元年度 分布調査遺跡一覧	3

挿図目次

第1図	県営ほ場整備事業関係遺跡位置図(1).....	8
第2図	県営ほ場整備事業関係遺跡位置図(2).....	11
第3図	農免農道・広域農道関係遺跡位置図(1).....	14
第4図	農免農道・広域農道関係遺跡位置図(2).....	15
第5図	県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡位置図.....	18
第6図	国道改良事業関係遺跡位置図(1).....	20
第7図	国道改良事業関係遺跡位置図(2).....	21
第8図	国道改良事業関係遺跡位置図(3).....	22
第9図	県道改良事業関係遺跡位置図(1).....	26
第10図	県道改良事業関係遺跡位置図(2).....	27
第11図	県道改良事業関係遺跡位置図(3).....	28
第12図	県道改良事業関係遺跡位置図(4).....	29
第13図	河川改修事業関係遺跡位置図(1).....	32
第14図	河川改修事業関係遺跡位置図(2).....	33
第15図	ダム建設事業関係遺跡位置図.....	34
第16図	団地造成・土地区画整理事業関係遺跡位置図.....	34
第17図	酒田地区基礎調査遺跡位置図.....	36
第18図	朝日村基礎調査遺跡位置図.....	38
第19図	尾花沢・新庄地区基礎調査位置図.....	38
第20図	寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(1).....	42
第21図	寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(2).....	43
第22図	寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(3).....	44
第23図	小国町東部地区基礎調査遺跡位置図.....	50
第24図	西海瀨遺跡概要図.....	52
第25図	二口遺跡概要図.....	54
第26図	大坪遺跡概要図.....	56
第27図	中田浦遺跡概要図.....	58
第28図	東田遺跡概要図.....	61
第29図	閑地田遺跡概要図.....	64

第30図	新町後遺跡概要図	66
第31図	平根遺跡概要図	68
第32図	当岳遺跡概要図	70
第33図	猪野沢横台遺跡概要図	72
第34図	横山C遺跡概要図	74
第35図	山海窯跡群位置図	76
第36図	山海窯跡群概要図	77
第37図	山谷新田遺跡概要図	82
第38図	山楯楯跡土層柱状図・位置図	84
第39図	庄内地方の主な中世城館跡	85
第40図	山楯楯跡概要図	86
第41図	山楯楯跡縄張り概略図	87
第42図	重倉遺跡概要図	90
第43図	仁田田遺跡概要図	92
第44図	仁田田遺跡位置図	93
第45図	仁田田遺跡遺構配置図	94
第46図	仁田田遺跡建物跡	95
第47図	仁田田遺跡柱穴・土壇	96
第48図	仁田田遺跡S K11出土土器実測図	98
第49図	大坪遺跡位置図	100
第50図	大坪遺跡概要図	102
第51図	大坪遺跡遺構配置図	104
第52図	前田遺跡概要図	108
第53図	前田遺跡遺構配置図	109
第54図	前田遺跡検出遺構(1)	110
第55図	前田遺跡検出遺構(2)	111
第56図	前田遺跡出土遺物(1)	114
第57図	前田遺跡出土遺物(2)	115
第58図	地ノ内遺跡概要図	118
第59図	遺構集中区域平面図	119
第60図	地ノ内遺跡出土遺物	120
第61図	大東遺跡概要図	122

第62図	大東遺跡T-1・T-2遺構平面図	123
第63図	大東遺跡T-4遺構平面図	124
第64図	後田遺跡概要図	126
第65図	後田遺跡検出遺構(1)	128
第66図	後田遺跡検出遺構(2)	129
第67図	後田遺跡出土遺物	130
第68図	月記遺跡概要図	132
第69図	月記遺跡河川跡(Eトレンチ西端)	134
第70図	月記遺跡出土土器(1)	136
第71図	月記遺跡出土土器(2)	137
第72図	大道下遺跡概要図	140
第73図	大道下遺跡検出遺構	141
第74図	畑田遺跡概要図	144
第75図	畑田遺跡Bトレンチ検出遺構	147
第76図	畑田遺跡出土土器実測図	149
第77図	中野遺跡概要図	152
第78図	東田遺跡位置図	154
第79図	東田遺跡概要図	155
第80図	東田遺跡Bトレンチ38・41区出土土器集中部および土層断面図	156
第81図	東田遺跡B・Dトレンチ遺構全体図	157
第82図	東田遺跡出土遺物	158

図版目次

図版 1	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (1) …… 6	図版18	県道改良事業関係遺跡 (4) …… 32
図版 2	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (2) …… 7	図版19	県道改良事業関係遺跡 (5) …… 33
図版 3	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (3) …… 9	図版20	河川改修事業関係遺跡 (1) …… 34
図版 4	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (4) …… 10	図版21	河川改修事業関係遺跡 (2) …… 35
図版 5	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (5) …… 12	図版22	ダム建設事業関係遺跡 …… 35
図版 6	県営ほ場整備事業 関係遺跡 (6) …… 13	図版23	団地造成・土地区画整理 事業関係遺跡 …… 35
図版 7	農免農道・広域農道 関係遺跡 (1) …… 15	図版24	酒田地区基礎調査 …… 37
図版 8	農免農道・広域農道 関係遺跡 (2) …… 16	図版25	朝日村基礎調査 …… 39
図版 9	農免農道・広域農道 関係遺跡 (3) …… 17	図版26	尾花沢・新庄地区基礎調査 …… 38
図版10	県営かんがい排水事業他 農林事業関係遺跡 (1) …… 19	図版27	新庄・尾花沢地区基礎調査 …… 39
図版11	県営かんがい排水事業他 農林事業関係遺跡 (2) …… 20	図版28	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (1) …… 44
図版12	県営かんがい排水事業他 農林事業関係遺跡 (3) …… 21	図版29	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (2) …… 45
図版13	国道改良事業関係遺跡 (1) …… 22	図版30	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (3) …… 46
図版14	国道改良事業関係遺跡 (2) …… 23	図版31	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (4) …… 47
図版15	県道改良事業関係遺跡 (1) …… 29	図版32	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (5) …… 48
図版16	県道改良事業関係遺跡 (2) …… 30	図版33	寒河江・大江・西川地区 基礎調査 (6) …… 49
図版17	県道改良事業関係遺跡 (3) …… 31	図版34	小国町東部地区基礎調査 …… 51
		図版35	西海淵遺跡 …… 53
		図版36	二口遺跡 …… 55
		図版37	大坪遺跡 …… 57
		図版38	中田浦遺跡 …… 59
		図版39	東田遺跡 (1) …… 60

図版40	東田遺跡 (2)	62	図版65	前田遺跡 (4)	117
図版41	東田遺跡 (3)	63	図版66	地ノ内遺跡 (1)	119
図版42	囲地田遺跡	65	図版67	地ノ内遺跡 (2)	120
図版43	新町後遺跡	67	図版68	地ノ内遺跡 (3)	121
図版44	平根遺跡	69	図版69	大東遺跡 (1)	123
図版45	当岳遺跡	71	図版70	大東遺跡 (2)	124
図版46	猪野沢横台遺跡	73	図版71	大東遺跡 (3)	125
図版47	横山C遺跡	75	図版72	後田遺跡 (1)	127
図版48	山海窯跡群 (1)	79	図版73	後田遺跡 (2)	131
図版49	山海窯跡群 (2)	80	図版74	月記遺跡 (1)	134
図版50	山海窯跡群 (3)	81	図版75	月記遺跡 (2)	135
図版51	山谷新田遺跡	83	図版76	月記遺跡 (3)	138
図版52	山楯楯跡 (1)	88	図版77	月記遺跡 (4)	139
図版53	山楯楯跡 (2)	89	図版78	大道下遺跡 (1)	142
図版54	重倉遺跡	91	図版79	大道下遺跡 (2)	143
図版55	仁田田遺跡 (1)	97	図版80	畑田遺跡 (1)	145
図版56	仁田田遺跡 (2)	99	図版81	畑田遺跡 (2)	146
図版57	大坪遺跡 (1)	101	図版82	畑田遺跡 (3)	147
図版58	大坪遺跡 (2)	103	図版83	畑田遺跡 (4)	148
図版59	大坪遺跡 (3)	105	図版84	畑田遺跡 (5)	150
図版60	大坪遺跡 (4)	106	図版85	畑田遺跡 (6)	151
図版61	大坪遺跡 (5)	107	図版86	中野遺跡	153
図版62	前田遺跡 (1)	112	図版87	東田遺跡 (1)	159
図版63	前田遺跡 (2)	113	図版88	東田遺跡 (2)	160
図版64	前田遺跡 (3)	116	図版89	東田遺跡 (3)	161

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成2年度以降に実施予定となる大規模な開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとり、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部は前年度の調査結果に基づき、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A調査(現地確認踏査・表面踏査)

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査(試掘調査)

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査(記録保存のための発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の保存状況が良好でない場合や、開発事業に係る面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施行に立会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

(5) 埋蔵文化財包蔵地基礎調査

「山形県遺跡地図」(昭和53年版)に登録された遺跡、及びその後に発見・登録された遺跡の内容の補筆を行い、合わせて、遺跡の有無を確認し、将来の各種開発計画に備えることを目的とする調査。調査方法は表面踏査である。

2 調査の経過

山形県教育委員会では毎年7～8月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、9月中旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討している。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成元年5月11日から平成元年12月8日まで表-1の工程で、表-2に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度に新たに発見されて、登録した遺跡は43遺跡である。

表一 調査工程表

	調査区分	平成元年度												平成2年 1~3月	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年				
(1) 平成元年度以降 農林土木事業他	A		■				■		■	■	■	■	■		
	B		■				■		■	■	■	■	■		
	C				■				■	■	■	■	■		
(2) 国営農地開発事業 鳥海南麓地区	A									■		■			
	B									■		■			
(3) 埋蔵文化財包蔵地 基礎調査	A											■	■		
(4) 立会い調査						■			■			■	■		
(5) 報告書作成															■

表-2 平成元年度 分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
1	県営ほ場整備事業	月光川左岸地区	東田遺跡	○	○		○
	"	"	宮田樋跡	○			
	"	月光川右岸地区	仁田田遺跡			○	
	"	"	大坪遺跡	○	○		
	"	高瀬川地区	堂田遺跡	○	○		
	"	"	中田浦遺跡	○	○		
	"	"	竹ノ花遺跡	○			
	"	"	1番割遺跡	○			
	"	"	南川向遺跡	○			
	"	"	下山崎遺跡	○			
	"	月光川下流地区	上高田・木戸下道内A・B遺跡	○			
	"	"	古屋敷遺跡	○			
	"	砂越地区	福島遺跡	○			
	"	中平田西地区	土崎遺跡	○			
	"	"	船止遺跡	○			
	"	"	熊手島遺跡	○			
	"	"	大多遺跡	○			
	"	鶴岡西部地区	地ノ内遺跡				○
	"	"	大東遺跡				○
	"	"	後田遺跡				○
"	"	月記遺跡				○	
"	"	大道下遺跡				○	
"	"	畑田遺跡				○	
"	"	中野遺跡				○	
"	"	囲地田遺跡	○	○			
"	富並地区	西海淵遺跡	○	○			
2	県営かんがい排水事業	月光川地区	東田遺跡	○	○		○
	"	"	弊掛遺跡	○			
3	農免農道整備事業	飛島地区	葡萄崎遺跡	○			
	"	"	蕨山遺跡	○			
	"	"	船見沢A遺跡	○			
	"	"	船見沢B遺跡	○			
	"	玉川地区	小出沢A遺跡	○			
"	"	小出沢B遺跡	○				
"	河北西部地区	山の神遺跡		○			
4	広域農道整備事業	村山東部地区	上貫津I遺跡	○			
	"	"	山崎C遺跡	○			
	"	"	山崎D遺跡	○			

	遺 跡 名	事業地区名	遺 跡 名	調 査 区 分			
				A	B	C	立会い
4	広域農道整備事業	村山東部地区	御阿弥陀窠跡	○			
	〃	〃	新城遺跡	○			
	〃	〃	渡戸遺跡	○			
	〃	庄内東部Ⅲ期	森遺跡	○			
5	県営土地改良総合整備事業	善阿弥堰地区	二口遺跡	○	○		
	〃	羽黒地区	桜ヶ丘遺跡	○			
	〃	〃	小野木山遺跡	○			
6	県営農地保全事業	川清水地区	東光寺遺跡	○			
7	県営緑農住区基盤整備事業	新庄南部地区	駒場 A 遺跡	○			
	〃	〃	駒場 B 遺跡	○			
	〃	〃	新町後遺跡	○	○		
8	国道 287 号線道路改良		広表南遺跡	○			
	〃		廻り屋遺跡	○			
	国道 345 号線道路改良		野瀬遺跡	○			
	〃		徳田山遺跡	○			
	〃		飛鳥神内遺跡	○			
9			飛鳥遺跡	○			
	県道十里塚・遊佐線		丸ノ内館跡	○			
	県道酒田・遊佐線		前田遺跡	○		○	
	主要地方道新庄・戸沢線		向名高遺跡	○			
	〃		津谷遺跡	○			
	県道古口(T)・肘折線		平根遺跡	○	○		
	県道新庄・次年子・村山線		境ノ目遺跡	○			
	〃		本飯田赤石遺跡	○			
	県道東根・長島線		浦遺跡	○			
	主要地方道尾花沢・関山線		当岳遺跡	○	○		
	県道田麦野・行沢線		猪野沢横台遺跡	○	○		
	主要地方道山形・天童線		豊里 1 号塚	○			
	〃		押切遺跡	○			
	〃		古井戸遺跡	○			
	〃		柏木遺跡	○			
	〃		下柳 B 遺跡	○			
主要地方道山形・南陽線		向畑 C 遺跡		○			
県道米沢・大塚線		大塚城跡		○			
県道岳谷・上屋地線		高造路遺跡		○			
県道下新田・土尾線		堤田遺跡	○				
〃		入道畑遺跡	○				
10	米沢へりポート(公共)整備事業		横山 C 遺跡	○	○		

II 調査の概要

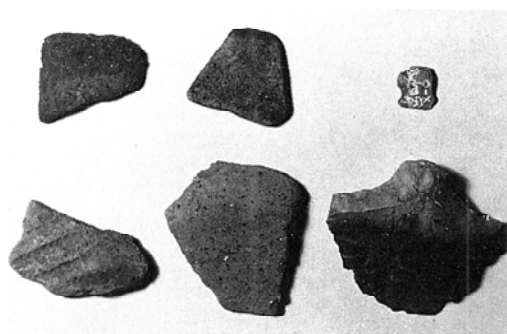
I 調査遺跡地名表

(I) 県営ほ場整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地 城館跡	みや 宮 田 だて 楯	鮑海郡遊佐町大字宮田 字堀ノ内、古楯 外	縄文時代 平安時代 中世	平地 (6m)	宅地 水田 畑地
2	包蔵地	ふる や しき 古 屋 敷	鮑海郡遊佐町大字吉出字古屋敷	平安時代	平地 (10m)	水田
3	散布地	かみ なか だ みちうち 上 高 田、道内 A・B、木戸下	鮑海郡大字富岡字高田 道内、木戸下、前田	平安時代	平地 (9m)	水田 畑地 宅地
4	散布地	たけ の はな 竹 ノ 花	鮑海郡遊佐町大字当山字竹ノ花	平安時代	平地 (5m)	畑地 水田
5	散布地	いち ばん おり 一 番 割	鮑海郡遊佐町大字直世字一番割	平安時代	平地 (4m)	水田
6	散布地	みなみ かわ むかい 南 川 向	鮑海郡遊佐町大字直世字南川向	縄文時代 平安時代	平地 (4m)	水田
7	散布地	しも やま ぎき 下 山 崎	鮑海郡遊佐町大字北目字下山崎	平安時代	平地 (4m)	水田
8	散布地	どう だ 堂 田	鮑海郡遊佐町大字北目 字堂田11・30・31	平安時代	平地 (7m)	畑地 水田
9	散布地	ふく しま 福 島	酒田市大字本川字福島	平安時代 鎌倉時代	平地 (6m)	水田
10	散布地	つち ぎき 土 崎	酒田市大字土崎	鎌倉時代 ～近世	平地 (5m)	水田 畑地
11	散布地	ふな と 船 止	酒田市大字漆曾根	平安時代 鎌倉時代	平地 (3m)	水田
12	散布地	くま て しま 熊 手 島	酒田市大字熊手島	平安時代	平地 (5m)	水田
13	散布地	おお た 大 多	酒田市大字大多新田	鎌倉時代 ～近世	平地 (6m)	水田



宮田楯跡遠景(南西から)



宮田楯跡採集遺物

図版 I 県営ほ場整備事業関係遺跡(1)

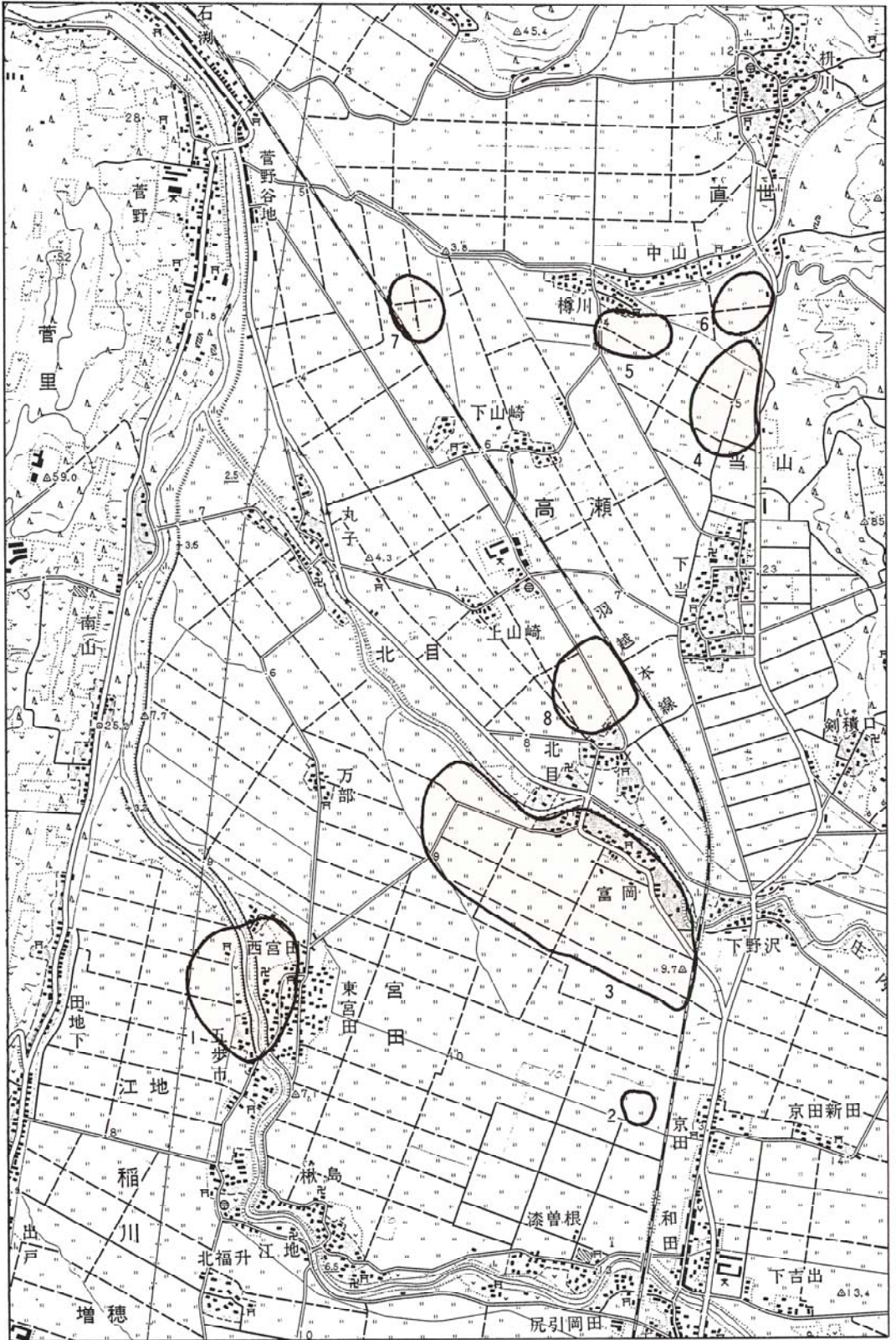
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
月光川の左岸と右岸に跨っており、楕の範囲は明確ではないが、東西400m・南北600mの範囲に遺物の散布がある。	石匙・土師器・赤焼土器	No.2197
京田集落の西方 600mの水田中に位置し、以前水路工事の際、墨書土器が出土している。遺物の散布は未確認であり、範囲は不明。		No.2136
高瀬川左岸、羽越本線の西に大きく広がる遺跡で周知の4遺跡を包み込む 東西1,300m・南北500mの範囲内に多数の遺物が散布している。	土師器・須恵器・赤焼土器	No.2080～2083
下当集落の北800mの山麓の平地に立地する。東西250m・南北450mの範囲に若干の遺物の散布が認められる。	須恵器・赤焼土器	新規（平成元年度）
樽川集落のすぐ南側の水田中に立地する。遺跡の範囲は東西300m・南北150m程度と推定される。	赤焼土器	新規（平成元年度）
樽川集落の東側の水田中に立地する。遺跡の範囲は東西200m・南北250m程度と推定され、若干の遺物が散布している。	フレイク・赤焼土器	新規（平成元年度）
下山崎集落の北西 約500mの水田中に立地する。範囲は東西200m・南北300m程度と推定され、若干の遺物が散布する。	赤焼土器	新規（平成元年度）
北目部落北側の畑に遺物が散布する。周辺の水田中にも遺跡域が広がるものと予想されるが、試掘の結果では線路東側までには及んでいない。	須恵器・赤焼土器（いずれも流れ込み?）、近世陶器若干	No.2085
酒田市東部本川集落の西側に位置し、水田転作による耕地起しにより全面に遺物の散布が認められる。	須恵器・赤焼土器・中・近世陶磁器	新規（平成元年度）
酒田市東部、土崎集落の東側一帯を囲むようにして確認。集落沿いの畑地上に遺物の散布が顕著に確認できる。	中・近世陶器、瓦器	No.2027
酒田市街地北東部、新井田川右岸の自然堤防上に立地。水田面上に多量の土器片が散布する。	須恵器・赤焼土器・中世陶器	No.2023
酒田市街地南東部、熊手島集落の中平田小学校西側水田一帯に遺物の散布が認められる。	須恵器・赤焼土器	新規（平成元年度）
酒田市街地東部、大多新田集落の東側水田地域に広範囲に広がる。新井田川右岸の自然堤防上に立地する。	中・近世陶磁器、瓦器	新規（平成元年度）



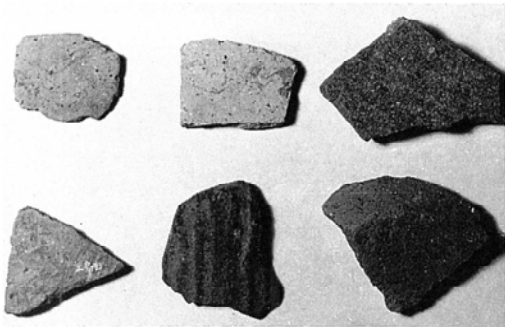
古屋敷遺跡遠景(北西から)



上高田遺跡・木戸下遺跡・道内A・B遺跡遠景(南から)



第1図 県営ほ場整備事業関係遺跡位置図(1)



上高田遺跡・木戸下遺跡・道内A・B遺跡採集遺物



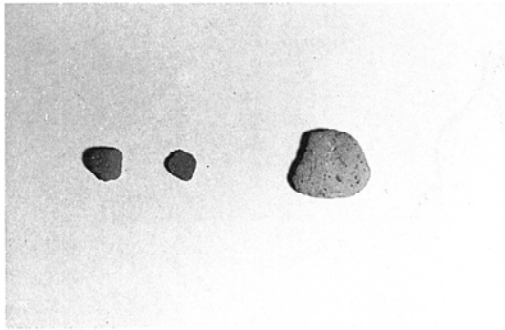
竹ノ花遺跡・南川向遺跡遠景（西から）



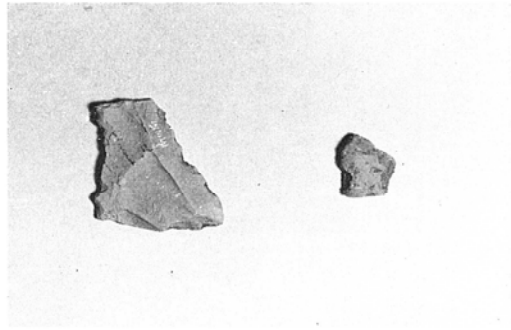
竹ノ花遺跡採集遺物



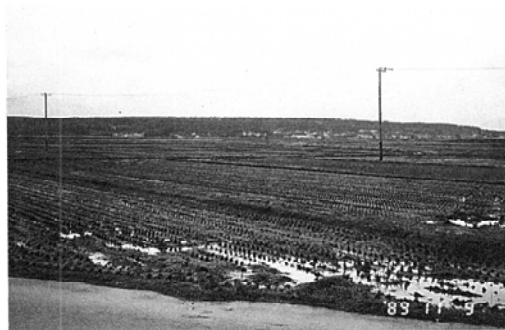
一番割遺跡遠景（南から）



一番割遺跡採集遺物



南川向遺跡採集遺物



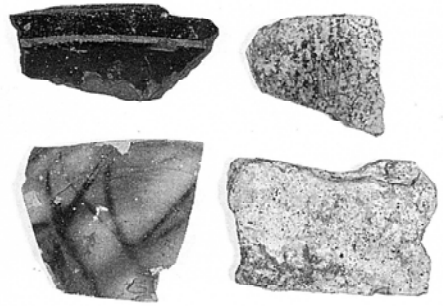
下山崎遺跡遠景（東から）



下山崎遺跡採集遺物



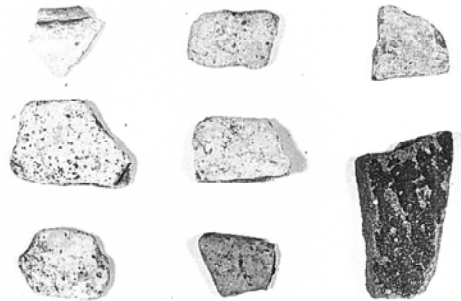
堂田遺跡調査風景（東から）



堂田遺跡採集遺物



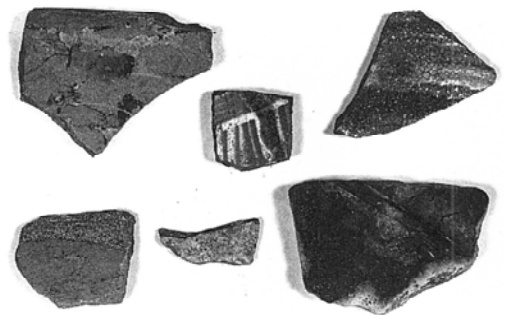
福島遺跡近景（南から）



福島遺跡採集遺物



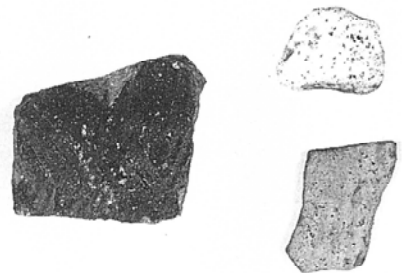
土崎遺跡近景（南から）



土崎遺跡採集遺物

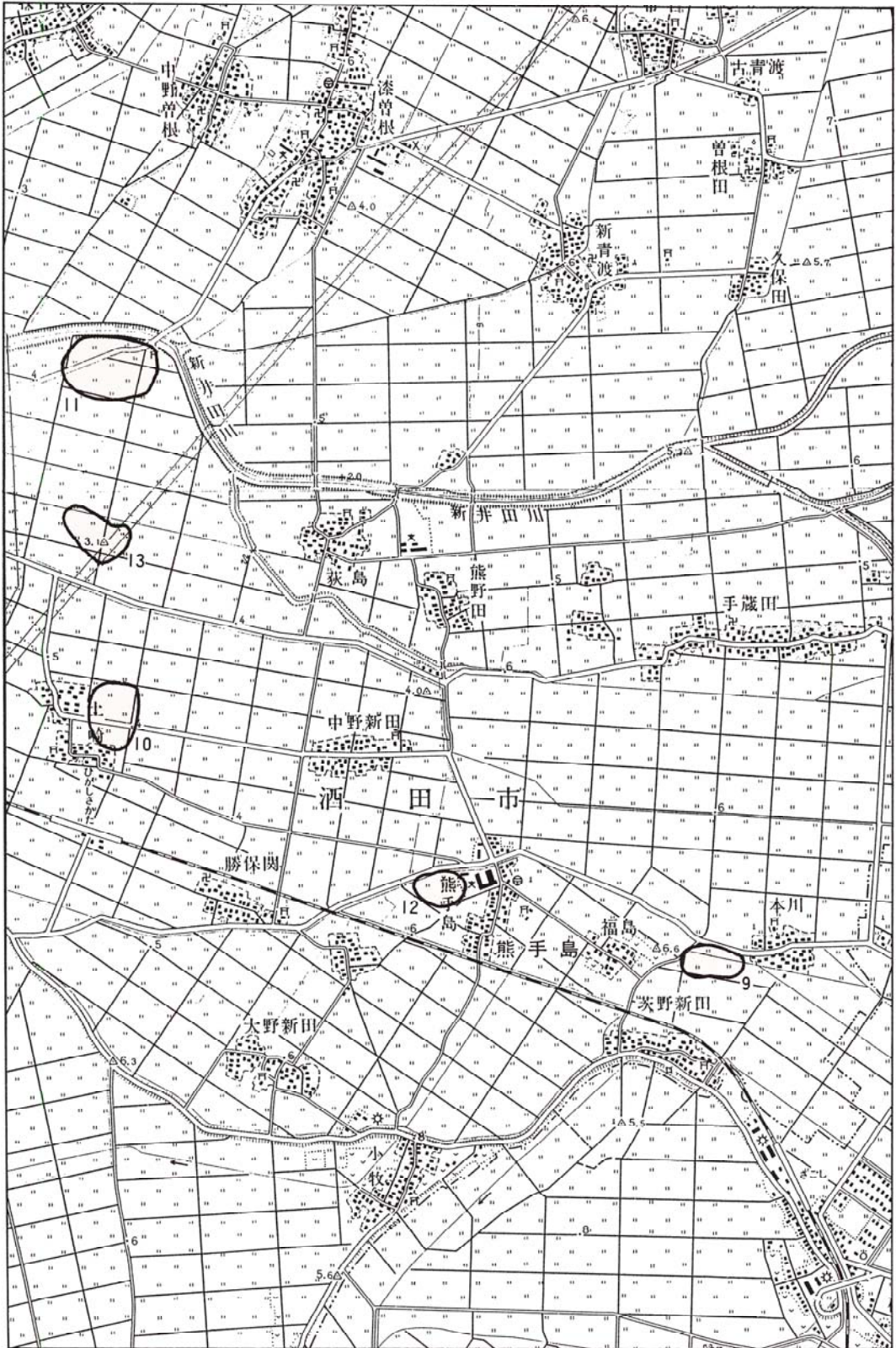


船止遺跡近景（東から）



船止遺跡採集遺物

図版4 県営ほ場整備事業関係遺跡(4)



第2図 県営ほ場整備事業関係遺跡位置図(2)



熊手島遺跡遠景（南から）



熊手島遺跡採集遺物

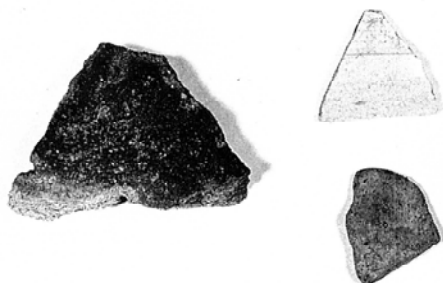
図版 5 県営ほ場整備事業関係遺跡(5)

(2) 農免農道・広域農道関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	ぶ とう ぎき 崎	酒田市飛島字勝浦	縄文時代	台地 (45m)	畑地 荒地
2	集落跡	わらび 山	酒田市飛島字勝浦	縄文時代 (中期)	台地 (45m)	畑地 荒地
3	散布地	ふね 見 沢 A	酒田市飛島字勝浦甲	縄文時代	台地 (45m)	畑地 果樹園
4	散布地	ふね 見 沢 B	酒田市飛島字勝浦甲	縄文時代	台地 (45m)	畑地
5	散布地	かみ ぬく づ 1	天童市大字貫津	平安時代	山麓 (190m)	畑地 果樹園
6	散布地	やま ぎき 崎 C	天童市大字貫津字山崎	平安時代	山麓 (130m)	畑地 果樹園
7	散布地	やま ぎき 崎 D	天童市大字貫津字山崎	縄文時代	山麓 (130m)	果樹園
8	窯跡	おん あ み だ 御阿弥陀窯跡	天童市大字貫津字和田	平安時代	山麓 (170m)	果樹園
9	散布地	しん 新 じょう 城	天童市大字貫津字新城	縄文時代	山麓 (200m)	畑地 果樹園
10	散布地	わた 渡 と 戸	天童市大字山口字坊所	縄文時代 (後-晩期)	段丘 (185m)	畑地 果樹園
11	散布地	もり 森	天童市大字山口字森	縄文時代 (晩期)	段丘 (207m)	果樹園
12	包蔵地	こ いて きわ 小 出 沢 A	羽黒町手向小出沢34-14	縄文時代 (晩期)	丘陵 (130m)	山林
13	包蔵地	こ いて きわ 小 出 沢 B	羽黒町手向小出沢7-120	縄文時代 (晩期)	丘陵 (130m)	山林
14	散布地	やま の 山 神	河北町下沢畑	縄文時代 (前期)	山麓 (145m)	畑地 山林



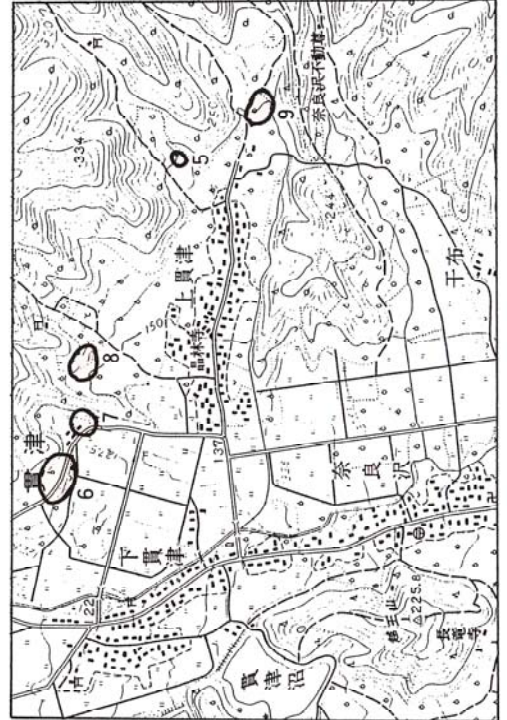
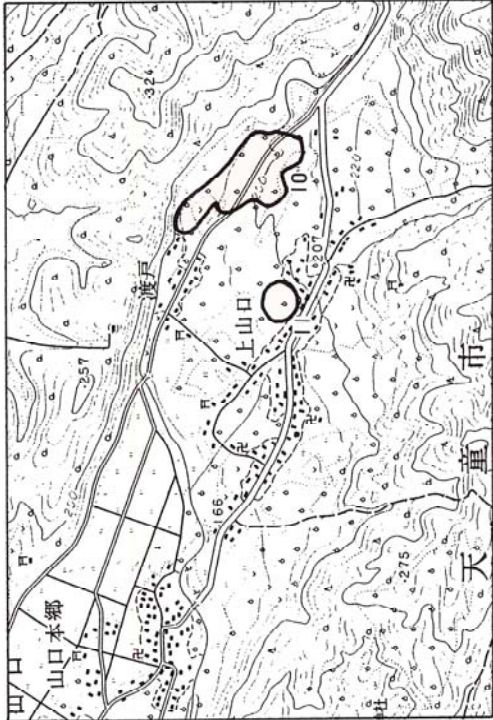
大多遺跡近景（南から）



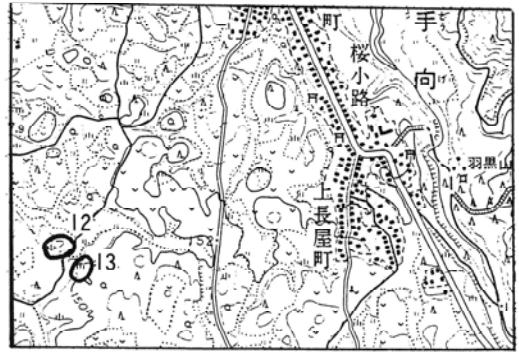
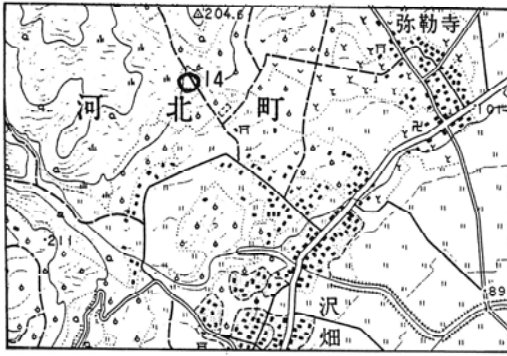
大多遺跡採集遺物

図版 6 県営ほ場整備事業関係遺跡(6)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
蔵山遺跡北側、宮谷のタブの木原生林を挟み近接する。東西180m・南北240mの広がりをもつ。今回は、遺物の散布は未確認。		No.2704 1961年調査(「飛島の考古学」1962)
飛島南部、飛島港の西側台地上に立地する。東西300m・南北150mの広がりをもつ。遺物の散布は極めて濃密である。	縄文土器 フレイク・チップ	No.2703 1961年調査(「飛島の考古学」1962)
船見沢の南側台地上に立地する。南側で小沢を挟み飛島B遺跡と隣接する。東西100m・南北70mの広がりをもつ。	フレイク	新規(平成元年度)
南側で葡萄崎、北側で飛島A遺跡と小沢を挟んで隣接する。遺物は遺跡北側で多く採取された。	フレイク	新規(平成元年度)
上貫津集落の北東 約300mに位置する。貫津川支流の上流沢沿いに立地し、周囲より一段低い畑地に遺物が散布する。	赤焼土器	新規(平成元年度)
花毛集落の西側山麓に位置する。東西 約285m・南北 約150mの範囲に遺物が散布する。遺跡範囲は、さらに広がる可能性をもつ。	須恵器・赤焼土器	No.309
花毛地内山麓に位置する。以前に採取された石鏃で知られるが、今次調査では、遺物の散布が認められず、遺跡範囲も不明である。		No.310
花毛地区東の山麓に位置する。以前に須恵器片が出土し、登り窯として知られる。今次調査では、位置確認ができなかった。		No.313
上貫津集落の東 約500mに位置し、貫津川上流左岸の山麓に立地する。東西約75m・南北約60mの範囲に遺物が散布する。	縄文土器・石器	No.317
押切川左岸の河岸段丘中位に立地し、遺物散布の集中する区域が数ヶ所に存在する。台帳記載の範囲より大きく広がる。	縄文土器・石鏃 フレイク	No.335
押切川左岸の河岸段丘上位に立地する。遺跡地内が果樹畑地となっており、遺跡未確認。		No.334
出羽山地・羽黒山系よりのびる南北の台地丘陵先端部に立地し、以前畑地として利用していたが、現在杉林となっている。	フレイク	No.1805
出羽山地・羽黒山系よりのびる南北の台地丘陵先端部に立地し、小出沢A遺跡の対丘陵部に位置する。杉林となっている。		No.1806
河北町役場の北西 約4kmの山麓に立地する。かつて、石器が採集されている。遺跡の周辺部の試掘を行ったが、遺物・遺構とも未検出。		No.471 平成元年度県教委試掘調査実施。



第3図 農免農道・広域農道関係遺跡位置図(1)



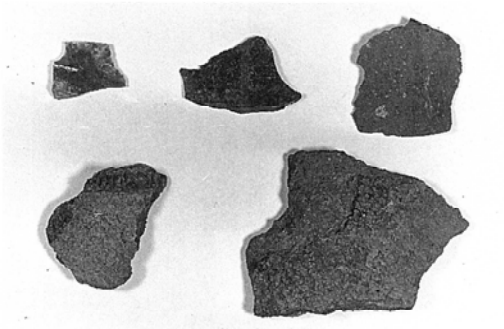
第4図 農免農道・広域農道関係遺跡位置図(2)



葡萄崎遺跡近景 (西から)



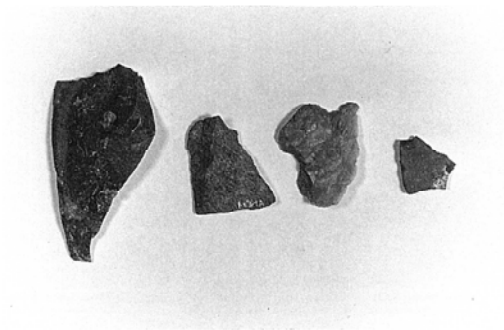
蕨山遺跡近景 (西から)



蕨山遺跡採集遺物



船見沢 A 遺跡近景 (北から)

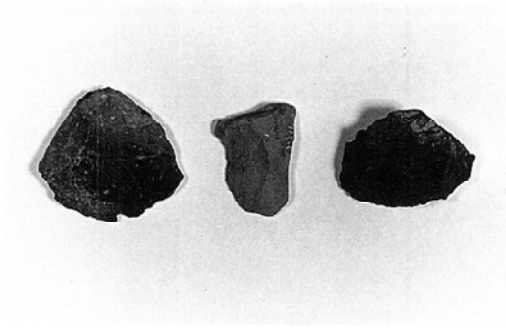


船見沢 A 遺跡採集遺跡



船見沢 B 遺跡近景 (北から)

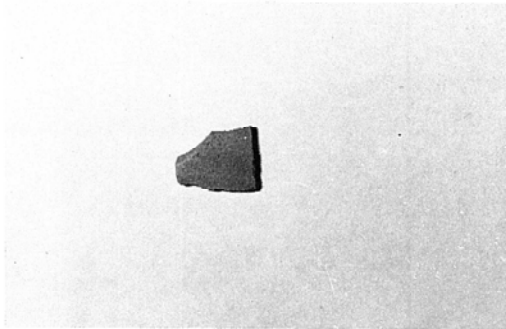
図版 7 農免農道・広域農道関係遺跡(1)



船見沢 B 遺跡採集遺物



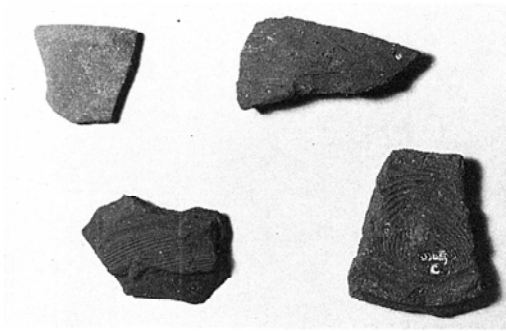
上貫津 I 遺跡近景 (南から)



上貫津 I 遺跡採集遺物



山崎 C 遺跡遠景 (南から)



山崎 C 遺跡採集遺物



山崎 D 遺跡遠景 (南から)



御阿弥陀窯跡遠景 (南西から)



新城遺跡近景 (西から)

図版 8 農免農道・広域農道関係遺跡(2)



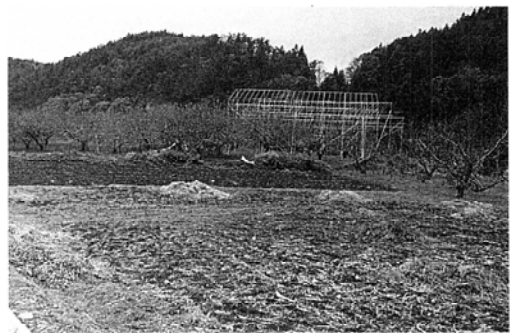
新城遺跡採集遺物



渡戸遺跡近景（南西から）



渡戸遺跡採集遺物



森遺跡近景（南西から）



小出沢A遺跡近景（南東から）



小出沢A遺跡採集遺物



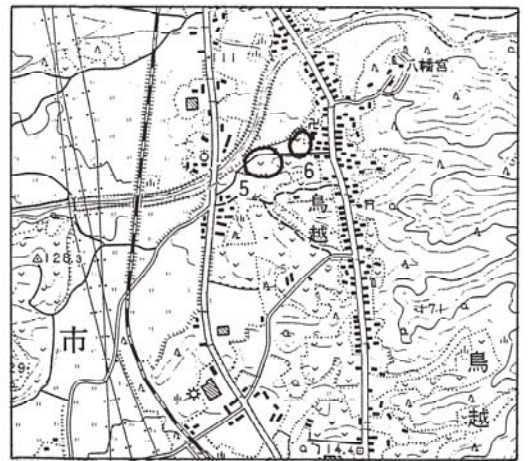
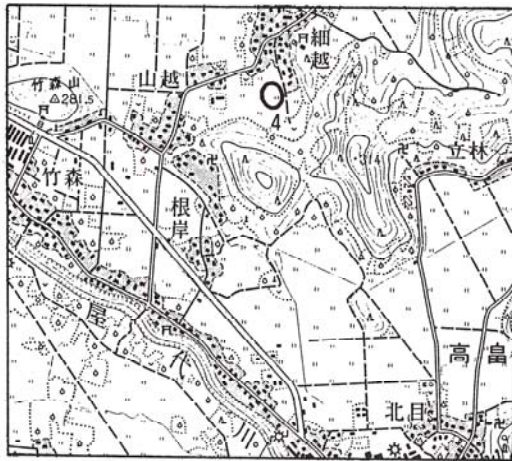
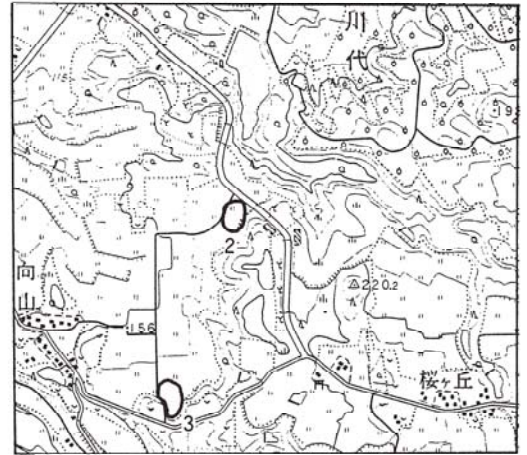
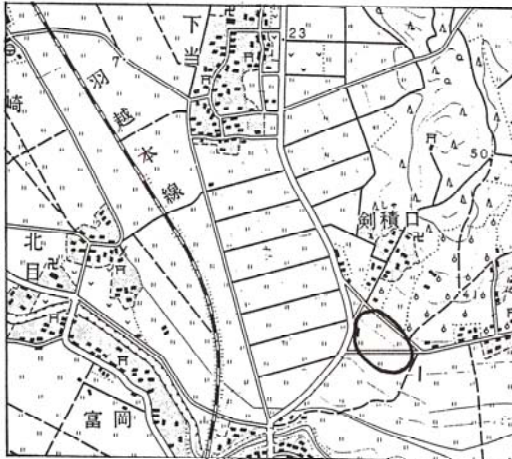
小出沢B遺跡近景（南東から）



山の神遺跡近景（東から）

(3) 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	のぎ幣 かけ掛	鮑海郡遊佐町大字当山字幣掛	縄文時代 平安時代	山麓 (25 m)	水田 畑地
2	包蔵地	さくらヶ つか丘	羽黒町川代西増川山99	縄文時代 (晩期)	山麓 (110 m)	水田
3	包蔵地	おのぎ木 やま山	羽黒町川代小野木山49	縄文時代 (中期)	山麓 (110 m)	水田
4	散布地	とう光を地	東置賜郡高畠町大字竹森 字東光地902 外	平安時代	平地 (215 m)	水田
5	散布地	こま駒 ば場 A	新庄市大字鳥越字駒場	縄文時代	段丘 (114 m)	畑地 宅地
6	散布地	こま駒 ば場 B	新庄市大字鳥越字駒場	縄文時代	段丘 (115 m)	畑地 宅地 墓

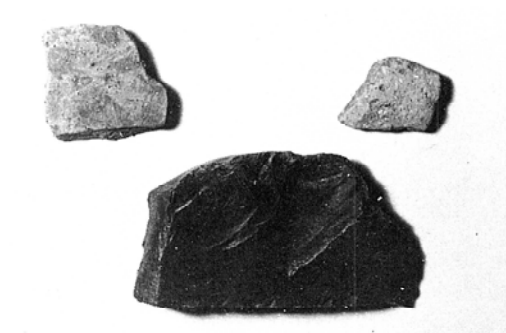


第5図 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡位置図

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
剣竜神社鳥居の南東の山麓に立地し、畑地に若干の遺物が散布する。遺跡の範囲は東西 200 m・南北150 mと推定されるが、破壊を受けている。	フレイク・赤焼土器	No.2100
昭和47・48年度実施の県営ほ場整備事業による開田工事により、遺跡は破壊されている。		No.1843
昭和47・48年度実施の県営ほ場整備事業による開田工事により、遺跡は破壊されている。	フレイク	No.1844
国道113号線から、日向洞窟方向へ約600m入った地点。細越地区南側の水田より遺物を採取。	須恵器	新 規（平成元年度）
新田川の左岸に位置し、西側に張り出す台地上の平坦部に立地する。	昭和56年度 分布調査で縄文土器・フレイクを表採しているが今回は未表採。	昭和56年度登録
新田川の左岸に位置し、西側に張り出す台地上の平坦部に立地する。駒場A遺跡の北東側に隣接する。	昭和56年度の分布調査でチップを表採しているが、今回は未表採。	昭和56年度登録



幣掛遺跡近景（西から）



幣掛遺跡採集遺物

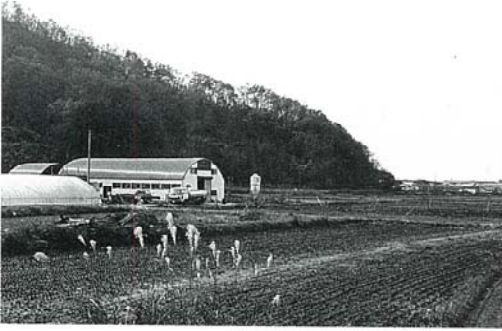


桜ヶ丘遺跡遠景（西から）



小野木山遺跡近景（西から）

図版10 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡(1)



東光地遺跡近景（北から）

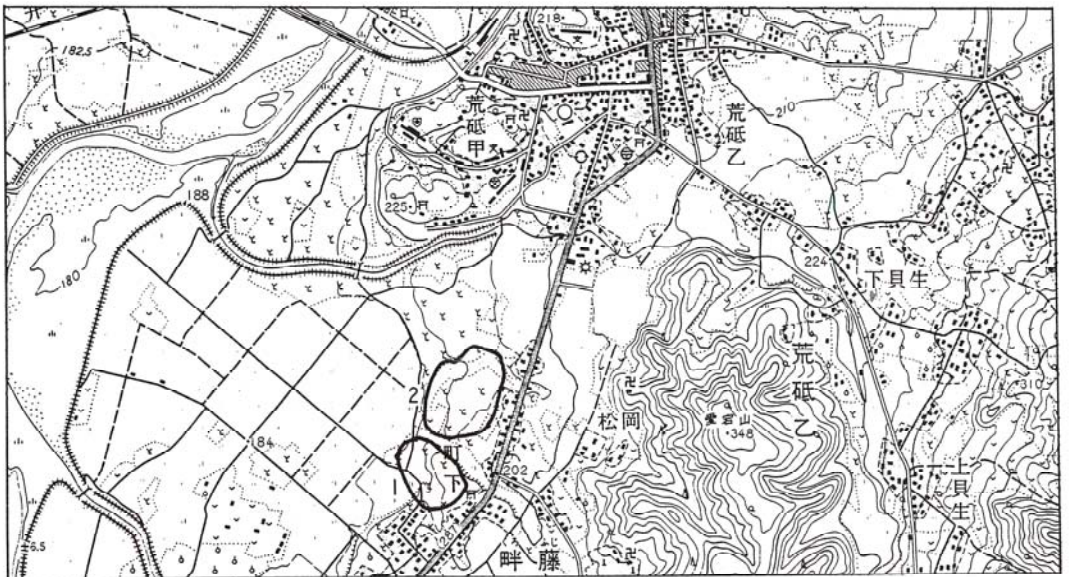


東光地遺跡採集遺物

図版11 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡(2)

(4) 国道改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	ひろおして みらみ南	西置賜郡白鷹町大字畔藤字広表南	縄文時代 平安時代	段丘 (195m)	畑地
2	散布地	めぐり や屋	西置賜郡白鷹町大字石那田字廻り屋	縄文時代 平安時代	段丘 (193m)	畑地 水田
3	散布地	の野 せ瀬	飽海郡遊佐町大字北目字野瀬	平安時代	平地 (4m)	水田 畑地 宅地
4	散布地	とく だ田 やま山	松山町大字徳田九福134	縄文時代	丘陵 (25m)	水田 畑地 荒地
5	散布地	あす か鳥 じん ない内	平田町大字飛鳥神内25	平安時代 鎌倉時代	沖積地 (13m)	水田 畑地
6	散布地	あす か鳥	平田町大字飛鳥神内	平安時代 鎌倉時代	沖積地 (13m)	水田 畑地



第6図 国道改良事業関係遺跡位置図(1)



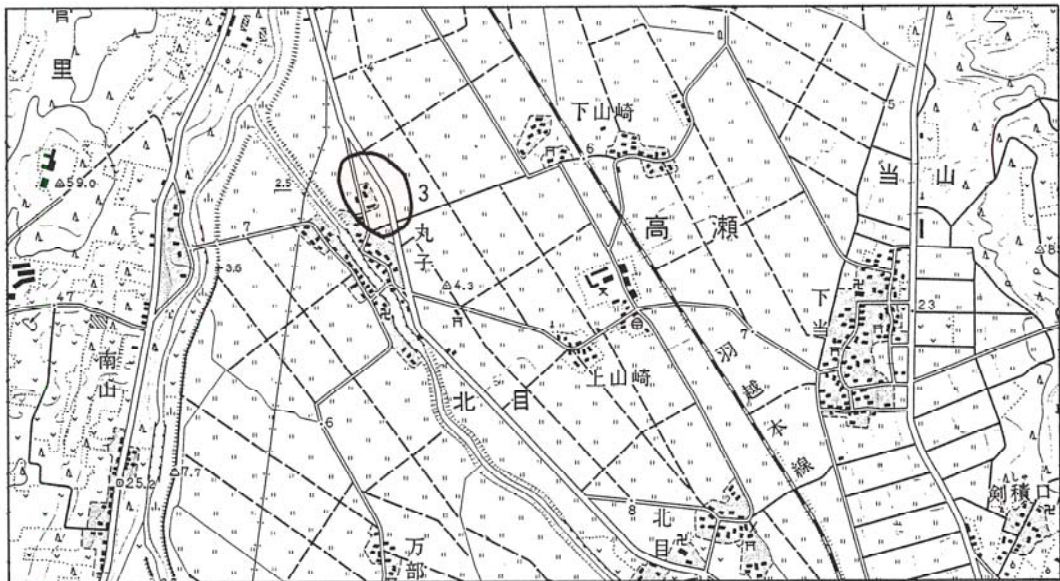
駒場A遺跡近景（東から）



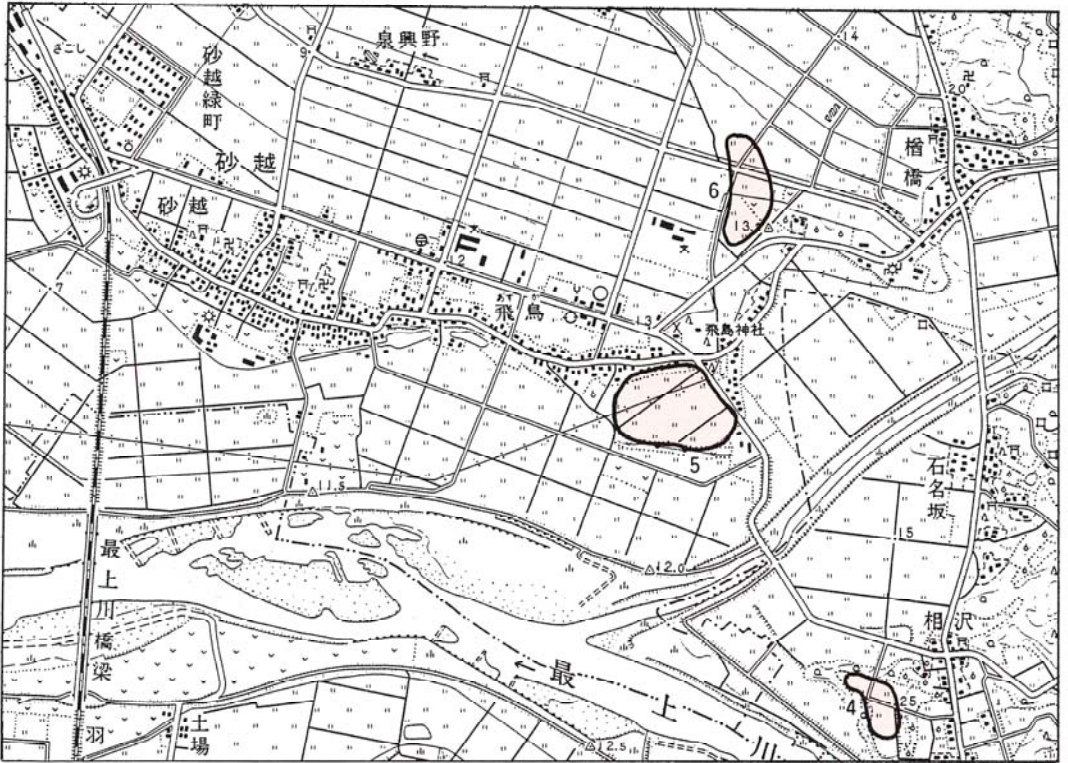
駒場B遺跡近景（東から）

図版12 県営かんがい排水事業他農林事業関係遺跡(3)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
荒砥駅の南北 1.5kmの最上川右岸の段丘上に立地し、畑地に若干の遺物が散布する。範囲は東西200m・南北250mと推定される。	剥片 須恵器	新規（平成元年度）
広表南遺跡と沢を挟む北側の段丘上に立地する。畑地内に若干の遺物が散布する。範囲は東西200m・南北240mと推定される。	剥片 須恵器・赤焼土器	新規（平成元年度）
丸子集落の北部から北の水田中に位置する。東西250m・南北350mの範囲と推定され、畑地水田中に若干の遺物が散布する。	須恵器・赤焼土器	新規（平成元年度）
最上川右岸の松山町相沢地区丘陵上に位置し、丘陵上の開田で確認された遺跡である。水田や畑地上に遺物が散布する。	縄文土器・石べら・フレイク	No.2286
飛鳥神社の西側、飛鳥集落の南側水田・畑地上に広範囲に広がる。	赤焼土器・須恵器・中世陶器	No.2296
飛鳥神社の北側、相沢川の右岸水田・畑地上に立地し、畑地上には遺物が密に散布する。	赤焼土器・須恵器・中・近世陶磁器	新規（平成元年度）



第7図 国道改良事業関係遺跡位置図(2)



第8図 国道改良事業関係遺跡位置図(3)



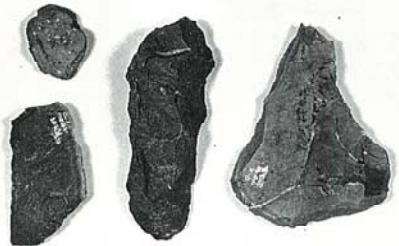
野瀬遺跡遠景(北から)



野瀬遺跡採集遺物



徳田山遺跡遠景(北西から)



徳田山遺跡採集遺物

図版13 国道改良事業関係遺跡(1)



飛鳥神内遺跡近景（東から）



飛鳥神内遺跡採集遺物



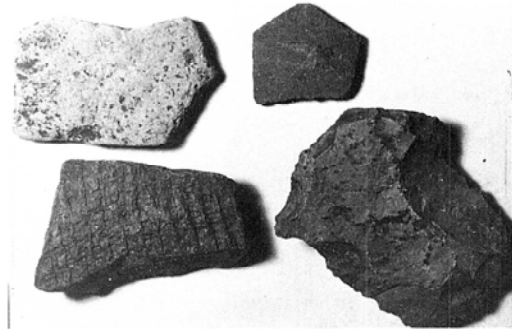
飛鳥遺跡近景（北西から）



飛鳥遺跡採集遺物



広表南遺跡遠景（北から）



広表南遺跡採集遺物



廻り屋遺跡遠景（北から）

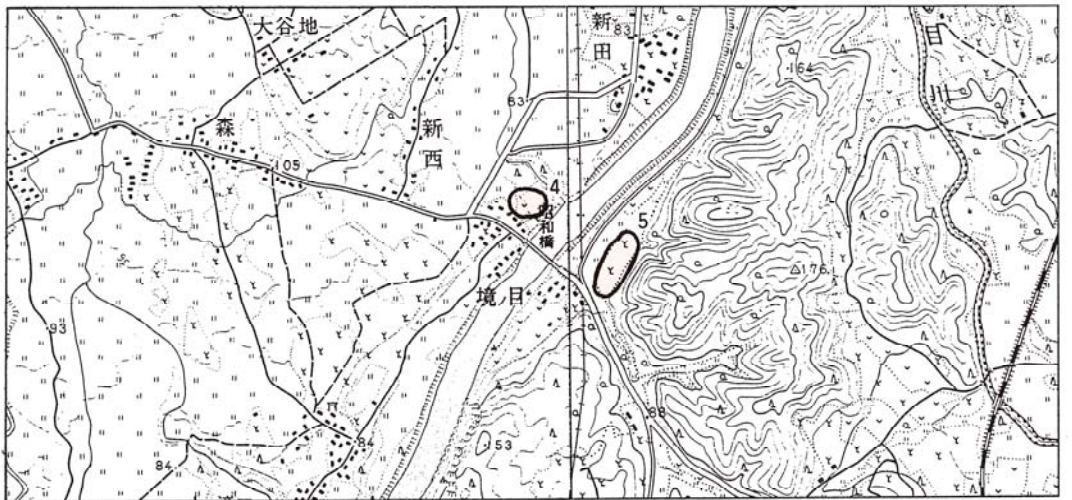
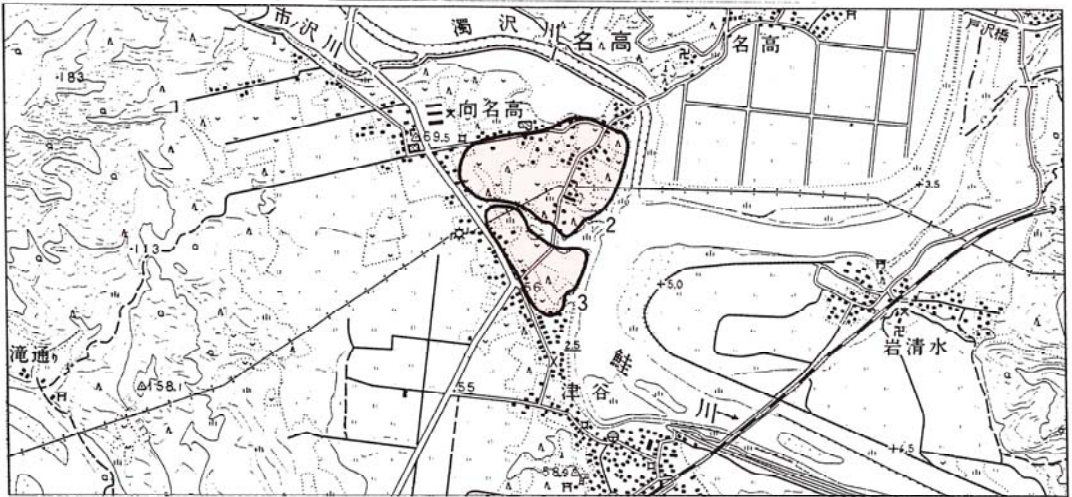


廻り屋遺跡採集遺物

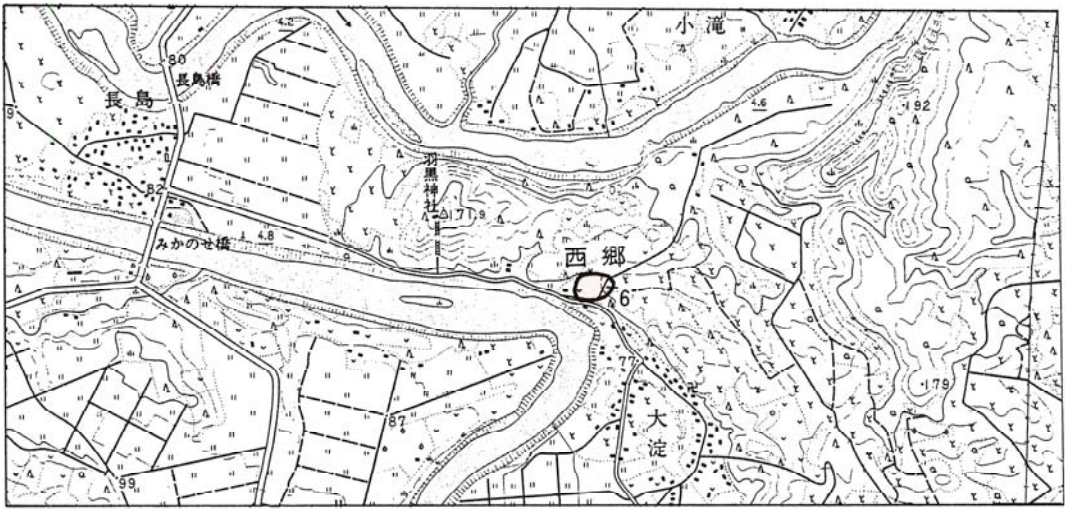
(5) 県道改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	まるノ内館	飽海郡遊佐町大字遊佐町字丸ノ内	江戸時代	平地 (10m)	宅地 畑地
2	散布地	むかい名高	最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野	縄文時代	段丘 (52m)	畑地 宅地
3	散布地	つ津谷	最上郡戸沢村大字津谷 字鞭打野1,330 外	旧石器時代 縄文時代	段丘 (55m)	畑地 宅地 水田
4	散布地	さかいノ目	村山市大字富並字境ノ目4585	縄文時代	段丘 (85m)	畑地
5	散布地	ほん飯田赤石	村山市大字本飯田字赤石1470～1474	縄文時代 平安時代	段丘 (78m)	畑地
6	散布地	うら浦	村山市大字大淀字浦896	縄文時代	段丘 (100m)	畑地
7	積石塚	とよさと 1号塚	天童市大字天童字豊里	不明	扇状地 (104m)	果樹園
8	散布地	おし押しきり切	天童市大字高木字押切	平安時代	扇状地 (104m)	畑地 果樹園
9	散布地	ふる古井戸	天童市大字久野本字古井戸	平安時代	扇状地 (102m)	畑地 果樹園
10	散布地	かしわき木	天童市大字久野本字柏木2147-9	縄文時代 平安時代	扇状地 (102m)	宅地
11	墳墓	しもやなぎ柳 B	山形市下柳	室町時代	扇状地 (108m)	水田
12	散布地	にゅう入とう道 ぼた畑	西置賜郡小国町大字足野水字入道畑	縄文時代 (後期)	段丘 (168m)	畑地 山林
13	散布地	つつみ堤 だ田	西置賜郡小国町大字足野水字堤田	縄文時代 (前期)	段丘 (160m)	畑地 荒地
14	散布地	たか高ぞう造ろ路	西置賜郡飯豊町大字高造路	縄文時代	段丘 (423m)	畑地
15	集落跡 古墳塚	むかい ぼた畑 C	南陽市大字小滝字向畑	縄文時代 古墳時代 中世?	段丘 (430m)	山林 畑地 宅地
16	城館跡	おおつか じょう城あと跡	東置賜郡川西町大字大塚 字町拾貳1529 外	室町～ 安土桃山	段丘 (210m)	宅地 畑地

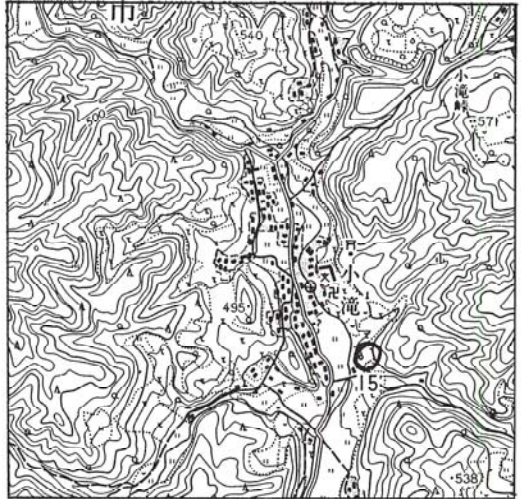
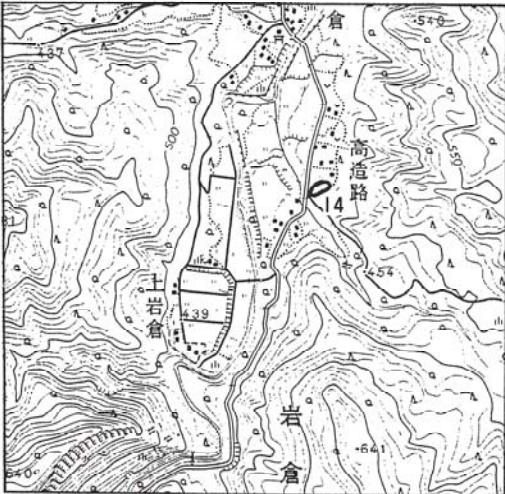
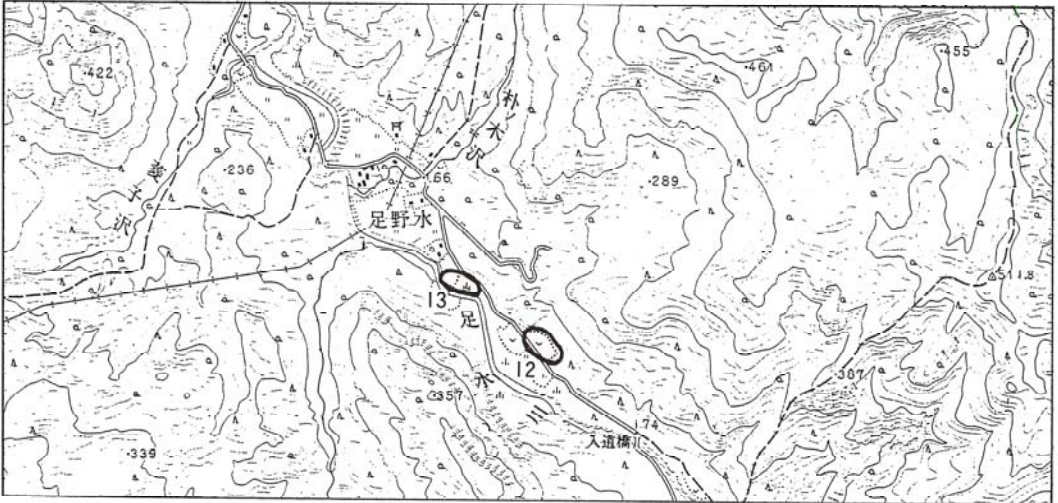
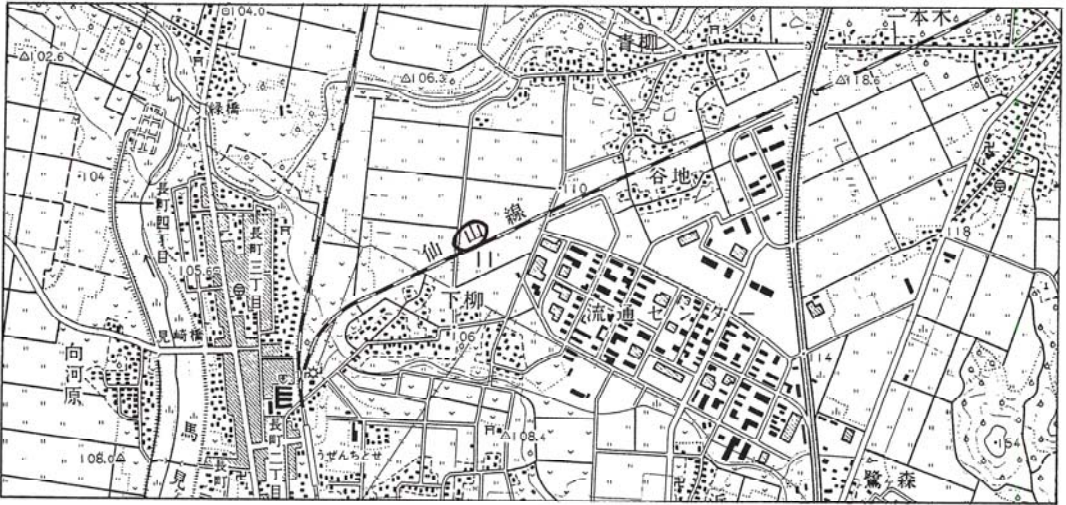
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
宅地化が進んでおり、館の範囲は不明確である。遺構も堀跡が一部で確認されるだけで、今回の調査では遺物の散布も確認できなかった。		No.2077
J R陸羽西線津谷駅の北方 約1.2kmの鮭川段丘上に立地する。東西500m・南北400mの舌状台地の畑地内に多くの遺物が散布する。	フレイク・石核	昭和63年度登録 遺跡範囲修正
向名高遺跡と沢を挟んですぐ南側の舌状台地に立地する。東西100m・南北500mの範囲と推定され、北寄りの畑地に多数の遺物が散布する。	フレイク・石核	No.1108 遺跡範囲修正
最上川左岸の段丘上に立地する。境ノ目地区北側の畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器(早期)	No.622
最上川右岸の段丘上に立地する。昭和橋の北東 約100mの畑地縁辺部に遺物の散布がみられる。	縄文土器・須恵器・赤焼土器	新 規 (平成元年度)
最上川左岸の段丘縁辺に立地する。市道大淀危険物処理線沿いの畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器・フレイク	新 規 (平成元年度)
乱川左岸の扇状地に立地する。奥羽本線みだれがわ駅の西 約600mの果樹園に所在する。		新 規 (平成元年度)
乱川左岸の扇状地に立地する。柏木遺跡の北約250mの畑地に遺物の散布がみられる。	須恵器	新 規 (平成元年度)
乱川左岸の扇状地に立地する。柏木遺跡に北接して立地する。	赤焼土器・土師器	新 規 (平成元年度)
乱川左岸の扇状地に立地する。遺跡所在地はほとんどが宅地で、その範囲は不明である。		No.274
昭和39年度の耕地整理で墳丘部破壊。仙山線踏切北側に所在していたといわれていたが、所在確認はできなかった。		No.153
堤田遺跡の南東200mに位置し、県道下新田土尾線の北東の畑地に土器片・剥片が若干散布する。範囲は東西90m・南北100mと推定される。	縄文土器・フレイク	昭和63年度登録
足野水の集落の南東 約300mの足水川右岸段丘上に立地し、畑地に土器片・石器が散布する。範囲は東西150m・南北20mと推定される。	縄文土器・石鏃・フレイク	新 規 (平成元年度)
高造路の集落の南端に位置する。山麓の畑地に若干の遺物が散布し、試掘調査の結果、範囲は東西20m・南北70mと推定される。	フレイク	昭和63年度登録 遺跡範囲修正
吉野川左岸段丘上に立地する。畑地に縄文の遺物が散布する。試掘調査で石器1点、及び宅地側に1基位置する伝経塚の盛土を確認する。	篋状土器	昭和62年度登録 平成元年度県教委発掘調査実施。
フラワー長井線西大塚駅の南東約1.7kmに位置する。試掘調査により、柱穴・土塁等が検出された。城内には大きな土塁が2ヵ所残存する。	青磁	新 規 (平成元年度) 平成元年度県教委発掘調査実施。



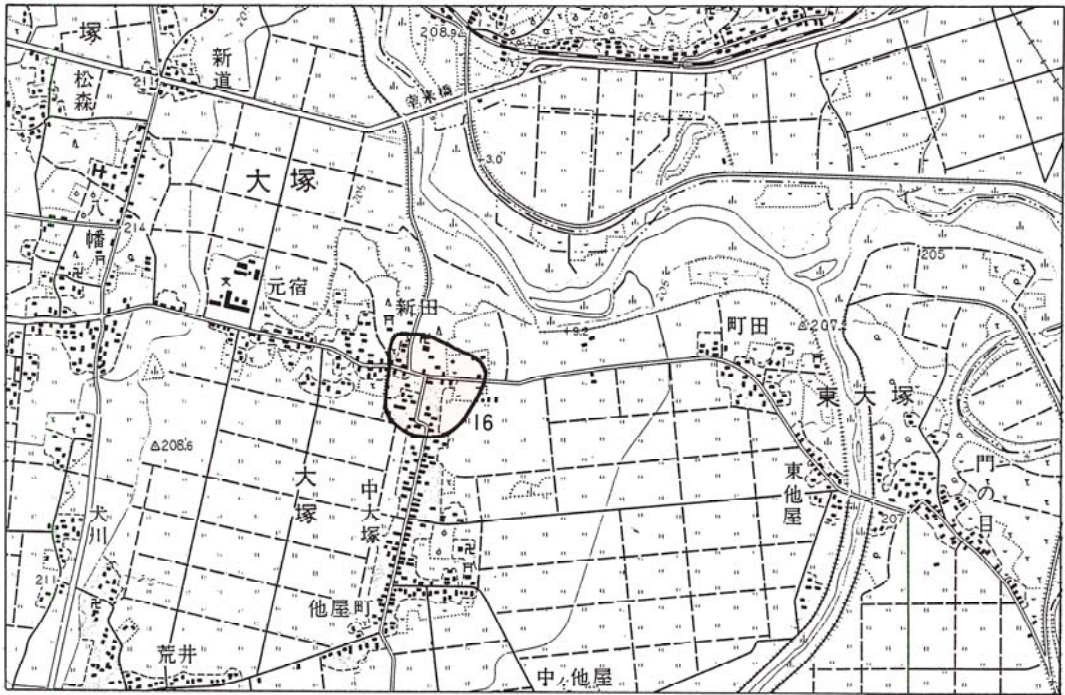
第9図 県道改良事業関係遺跡位置図(1)



第10図 県道改良事業関係遺跡位置図(2)



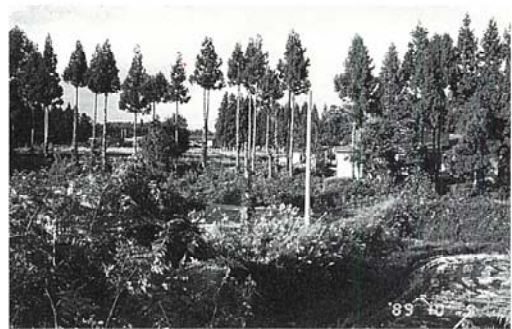
第11図 県道改良事業関係遺跡位置図(3)



第12図 県道改良事業関係遺跡位置図(4)



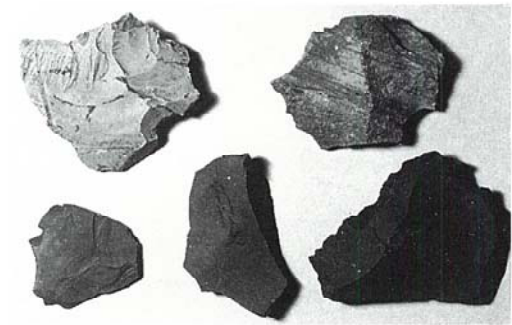
丸ノ内館近景(西から)



向名高遺跡遠景(南西から)



津谷遺跡近景(南から)



向名高・津谷遺跡採集遺物

図版15 県道改良事業関係遺跡(1)



境ノ目遺跡近景（東から）



境ノ目遺跡採集遺物



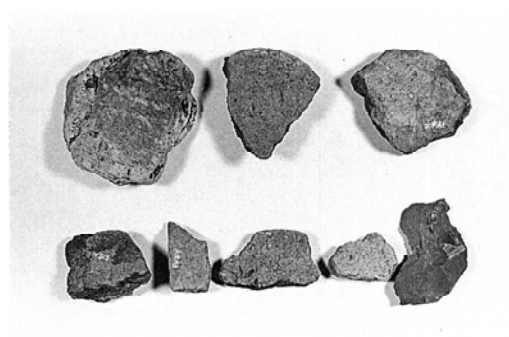
本飯田赤石遺跡近景（南東から）



本飯田赤石遺跡採集遺物



浦遺跡近景（西から）



浦遺跡採集遺物



豊里1号塚遺跡近景（東から）



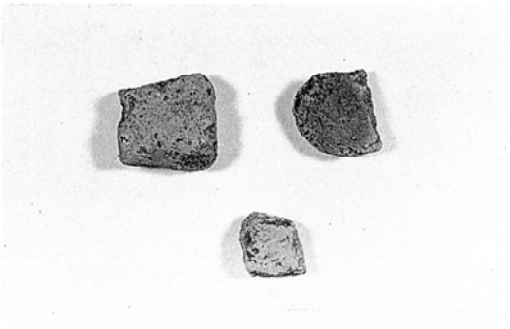
押切遺跡近景（南から）



押切遺跡出土遺物



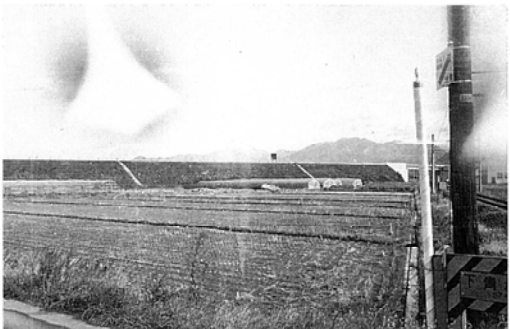
古井土遺跡近景（西から）



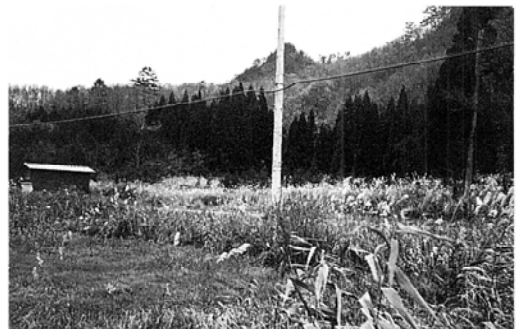
古井戸遺跡採集遺物



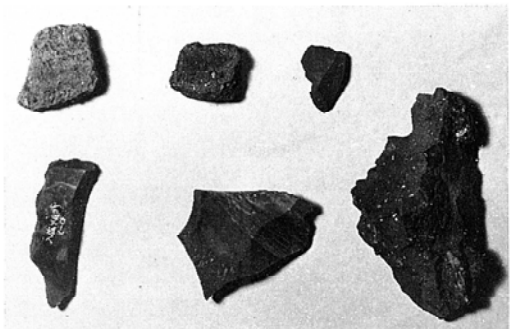
柏木遺跡近景（南から）



下柳B遺跡遠景（西から）



入道畑遺跡近景（南から）



入道畑遺跡採集遺物



堤田遺跡近景（南東から）



堤田遺跡採集遺物



高造路遺跡遠景（西から）



高造路遺跡近景（西から）

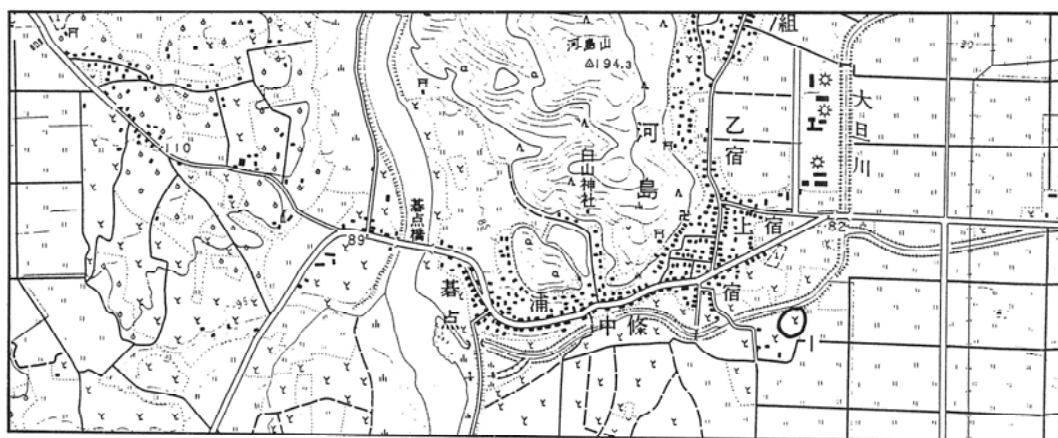


高造路遺跡採集遺物

図版18 県道改良事業関係遺跡(4)

(6) 河川改修・ダム建設事業関係遺跡

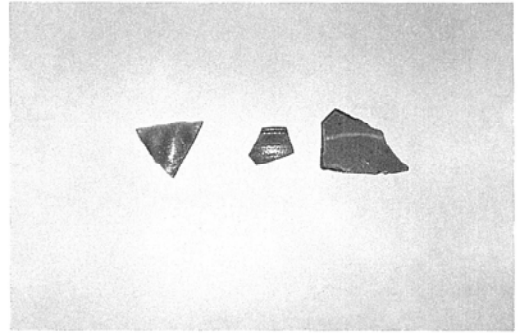
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	シク	村山市大字元杉島字シク	縄文時代 平安時代	段丘 (80m)	畑地
2	散布地	なかじゅうおう 中十王 1	西置賜郡白鷹町大字十王字中十王	縄文時代 (中期)	段丘 (260m)	畑地 水田
3	散布地	かみす 鳥が川	米沢市大字籾沢字砥沢向84 外	縄文時代	段丘 (464m)	畑地



第13図 河川改修事業関係遺跡位置図(1)



大塚城跡近景（北から）



大塚城跡出土遺物



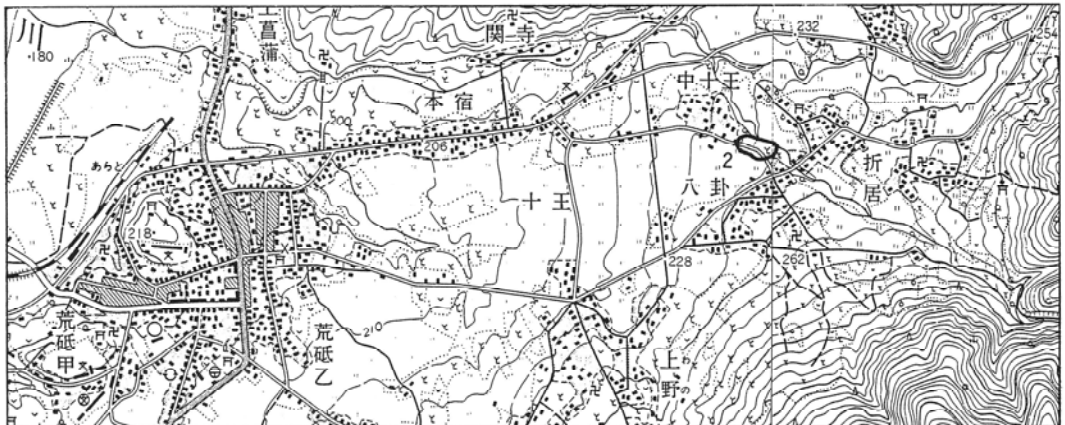
向畑C遺跡近景（西から）



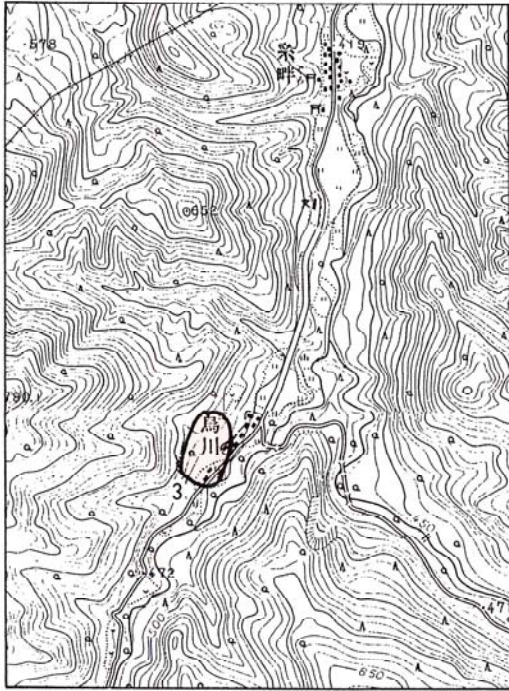
向畑C遺跡出土遺物

図版19 県道改良事業関係遺跡(5)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
大旦川左岸段丘上の微高地に立地する。河島橋の東 約150mの畑地に遺物の散布がみられる。	フレイク1点・須恵器・土師器	新規（平成元年度）
荒砥駅の東方 約2.1kmに位置し、米沢川左岸の段丘上に立地する。範囲は東西210m、南北60mと推定され、畑地内に遺物が散布する。	縄文土器・フレイク	No.1454
鳥川左岸の小規模な段丘上に位置する。米沢市教育委員会の調査で、石器片が確認されている。		昭和60年度登録 「米沢市遺跡地図」掲載（昭和61年）



第14図 河川改修事業関係遺跡位置図(2)



第15図 ダム建設事業関係遺跡位置図



シク遺跡遠景 (西から)

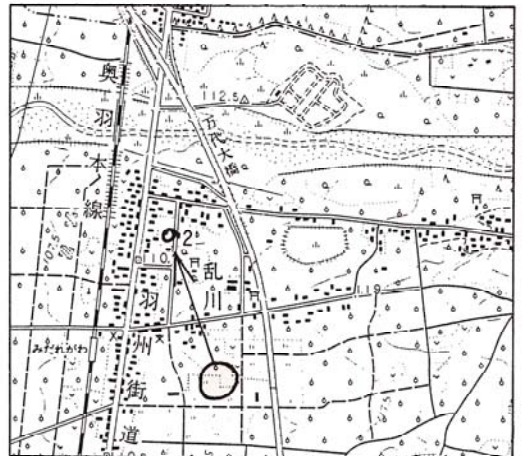


シク遺跡採集遺物

図版20 河川改修事業関係遺跡(1)

(7) 団地造成・土地区画整理事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	とうのこし腰	鶴岡市大字井岡字塔の腰・大字番田字南田・大字高坂字村東	平安時代 鎌倉時代	段丘 (19m)	畑地
2	墳墓	あらかわのぼ	天童市大字乱川字元屋敷1352	平安時代	扇状地	畑地

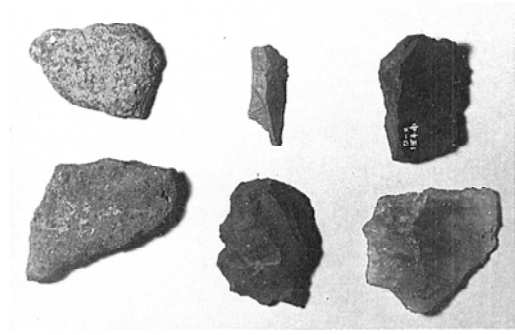


第16図 団地造成・土地区画整理事業関係遺跡位置図



中十王 I 遺跡遠景 (南西から)

図版21 河川改修事業関係遺跡(2)



中十王 I 遺跡採集遺物



烏川地区近景 (北から)



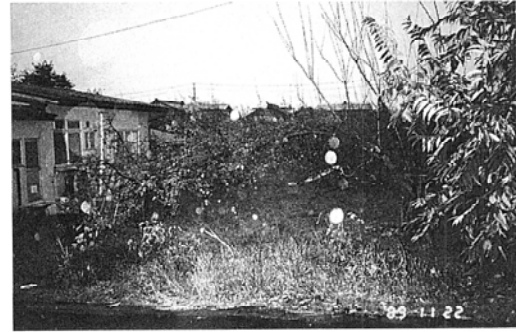
烏川遺跡近景 (北から)

図版22 ダム建設事業関係遺跡

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
青龍寺川左岸の河岸段丘上に立地する。試掘調査は遺跡範囲東側で実施したが、赤焼土器片1点の出土にとどまり、遺構は未検出である。	赤焼土器	昭和63年度登録 平成元年度県教委試掘調査実施。
乱川左岸の扇状地に立地する。乱川公民館の南東 約50mに所在する。		No.340 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正



塔の腰遺跡近景 (北から)

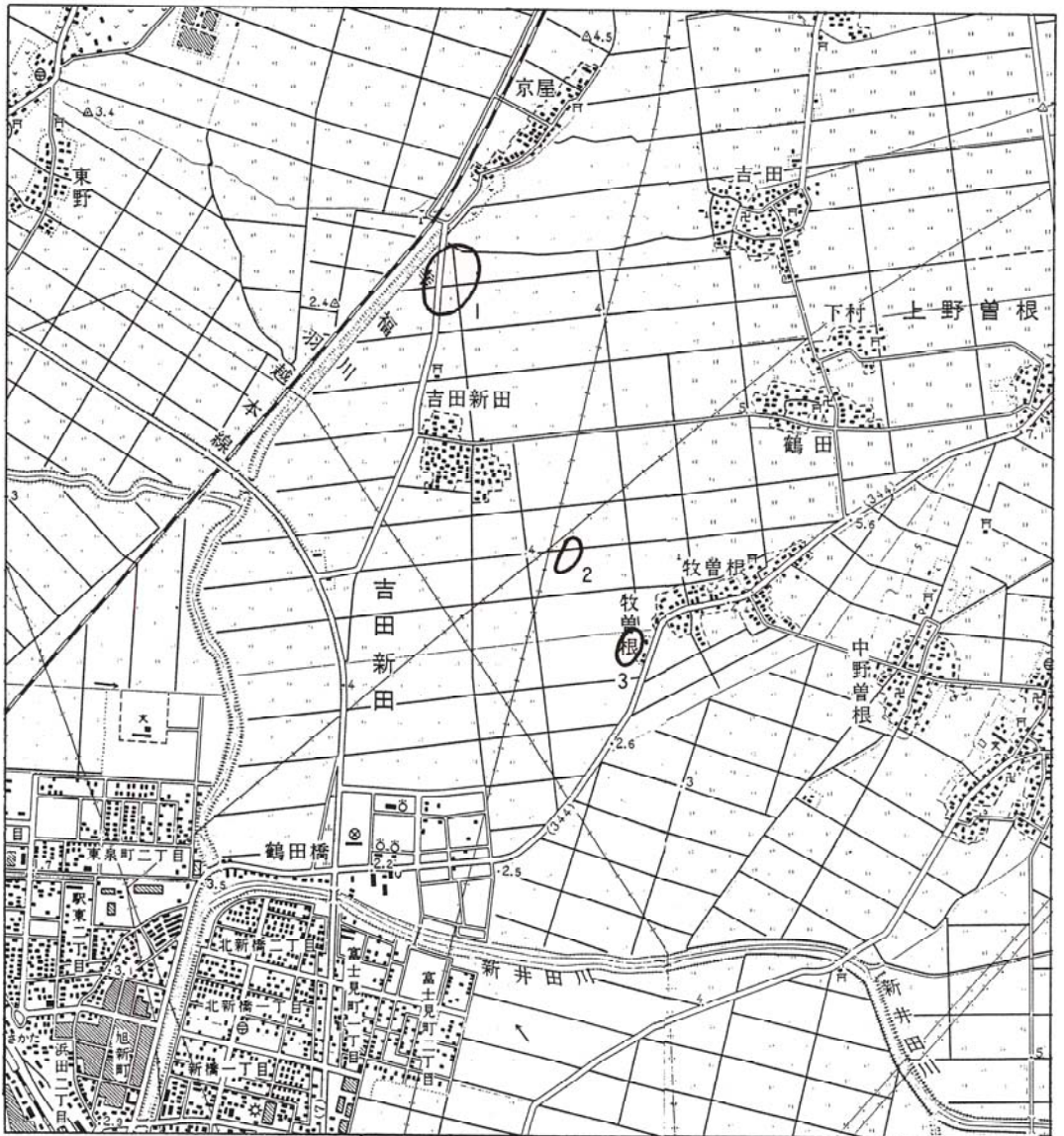


乱川 I 号墳墓遺跡近景 (東から)

図版23 団地造成・土地区画整理事業関係遺跡

(8) 酒田地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	なかべ谷お地	酒田市大字吉田字中谷地1～3外	平安時代 鎌倉時代	平地 (3m)	水田
2	散布地	ほんてんづか塚	酒田市大字牧曾根字梵天塚9～16外	平安時代 鎌倉時代	平地 (3m)	水田
3	散布地	ひがし東わり割	酒田市大字吉田新田字東割17-1外	平安時代 鎌倉時代	平地 (4m)	水田

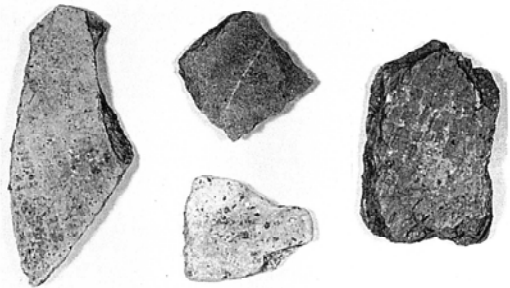


第17図 酒田地区基礎調査遺跡位置図

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R羽越本線京屋踏切の南西水田上に広範囲に散布が認められる。副川右岸の自然堤防上に立地する。	須恵器、赤焼土器、中・近世陶磁器	新規（平成元年度）
酒田市街地北東部、牧曾根集落の南西部に位置し、暗渠工事の掘削土より遺物を検出。遺跡は広範囲に広がるものと推測される。	須恵器、赤焼土器、中世陶器	新規（平成元年度）
酒田市街地北東部、吉田新田集落と牧曾根集落との中間地域に位置し、水田畦畔・水路・水田面上に遺物の散布が認められる。	須恵器、赤焼土器、中・近世陶磁器	新規（平成元年度）



中谷地遺跡近景（北西から）



中谷地遺跡採集遺物



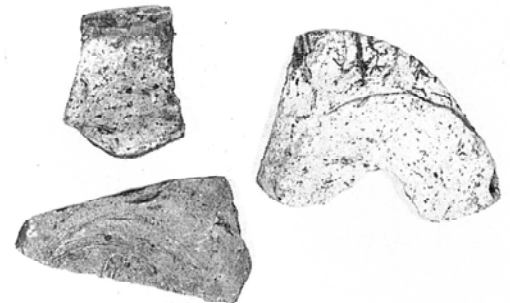
梵天塚遺跡近景（南東から）



梵天塚遺跡採集遺物



東割遺跡近景（北から）



東割遺跡採集遺物

(9) 朝日村基礎調査

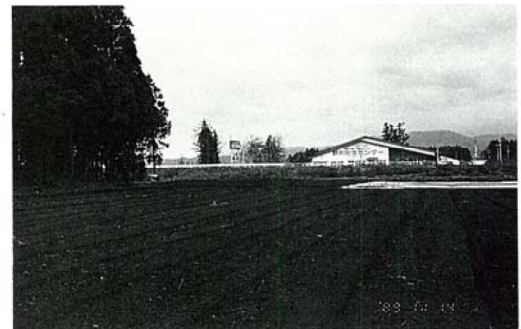
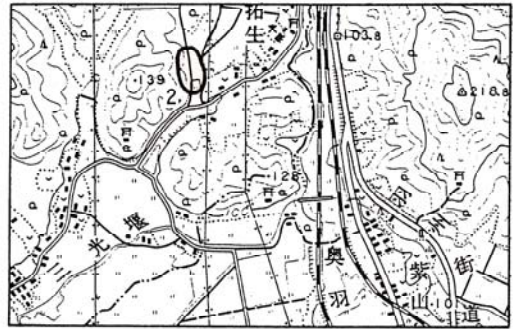
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	えっちゅうやま 越中山遺跡群	朝日村大字越中山字中入	旧石器時代 縄文時代	段丘 (100m~ 140m)	畑地



第18図 朝日村基礎調査遺跡位置図

(10) 尾花沢・新庄地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	しもか 下川原	尾花沢市大字萩袋字下川原	縄文時代	段丘 (85m)	畑地 畑宅
2	散布地	みなみさやま 南沢山神沢	新庄市大字鳥越字南沢山神沢	縄文時代	丘陵 (110m)	畑地 荒地
3	積石塚	もとみや 本宮後	新庄市大字鳥越字本宮後1006-3 外	中世?	丘陵 (100m)	荒地



下川原遺跡近景 (東から)

第19図 尾花沢・新庄地区基礎調査位置図

図版26 尾花沢・新庄地区基礎調査(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
赤川の上流、梵字川と大鳥川の合流点に位置し、右岸の段丘上畑地に立地する。段丘南側に遺物が散布する。	石刃・フレイク	No.1092・1094・1097 昭和63年度遺跡範囲修正。



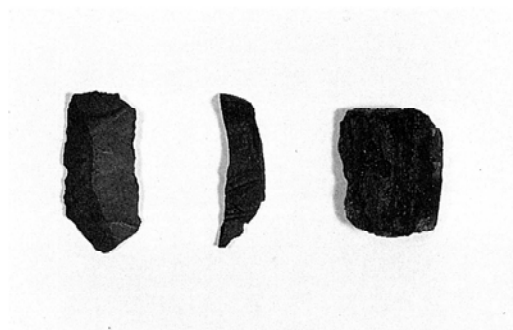
越中山遺跡近景（南東から）



越中山遺跡採集遺物

図版25 朝日村基礎調査

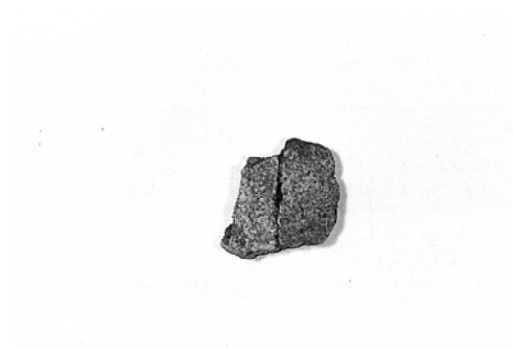
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
丹生川右岸の段丘上に立地する。国道13号線バイパス東側の畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器(中期)・フレイク	新規(平成元年度)
J R陸羽東線南新庄駅より南方1 km、拓生地区の東 約250mの丘陵上に立地する。農道沿いの畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器(早期)	新規(平成元年度)
新田川の形成した扇状地上の独立丘陵に位置する。丘陵頂部10mの範囲に径20cm前後の礫が集中する。	遺物の散布は認められず、時期は不確定であるが中世の石塚または経塚と思われる。	昭和63年度登録



下川原遺跡採集遺物



南沢山神沢遺跡近景（南東より）



南沢山神沢遺跡採集遺物



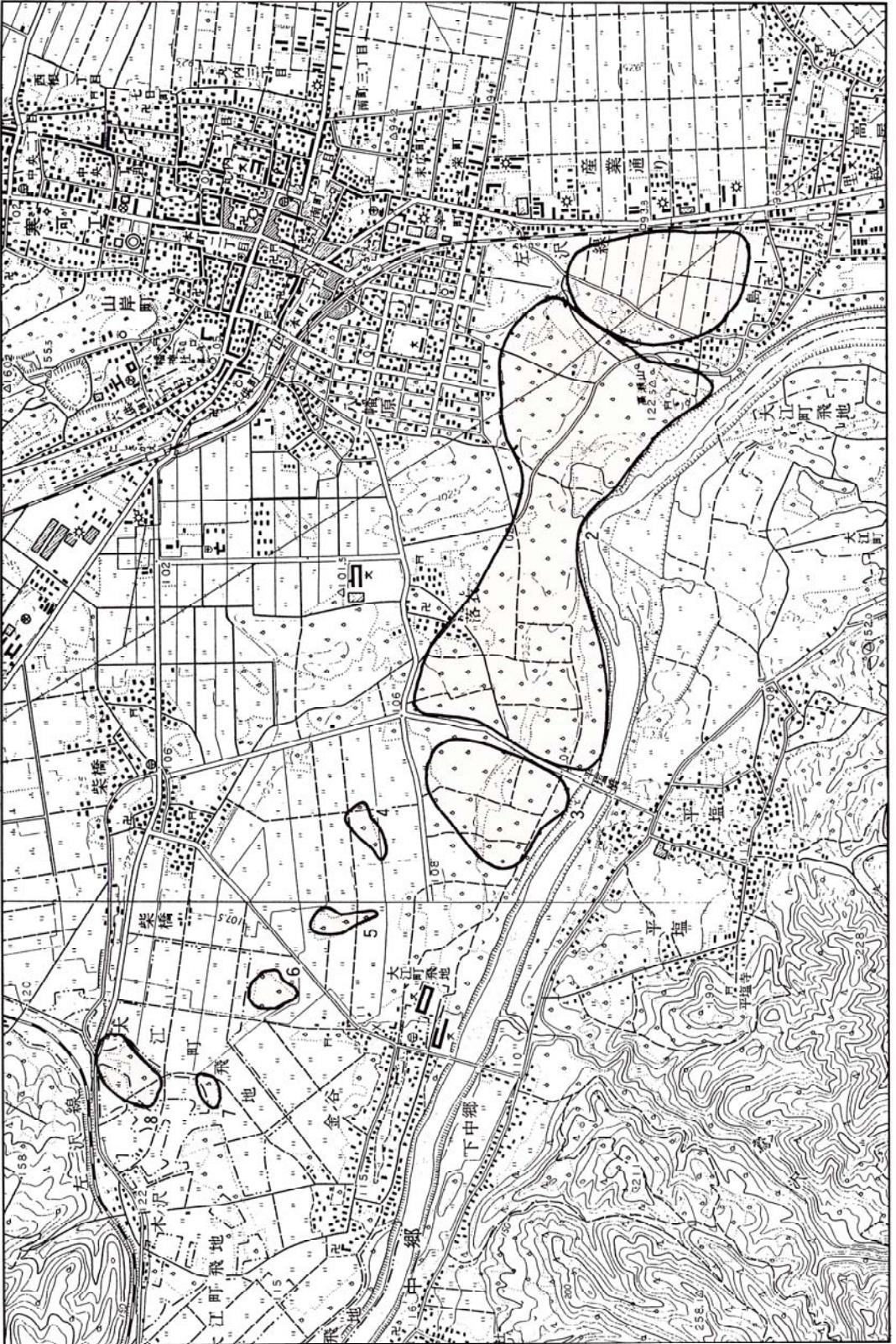
本宮後遺跡遠景（南西より）

図版27 新庄・尾花沢地区基礎調査

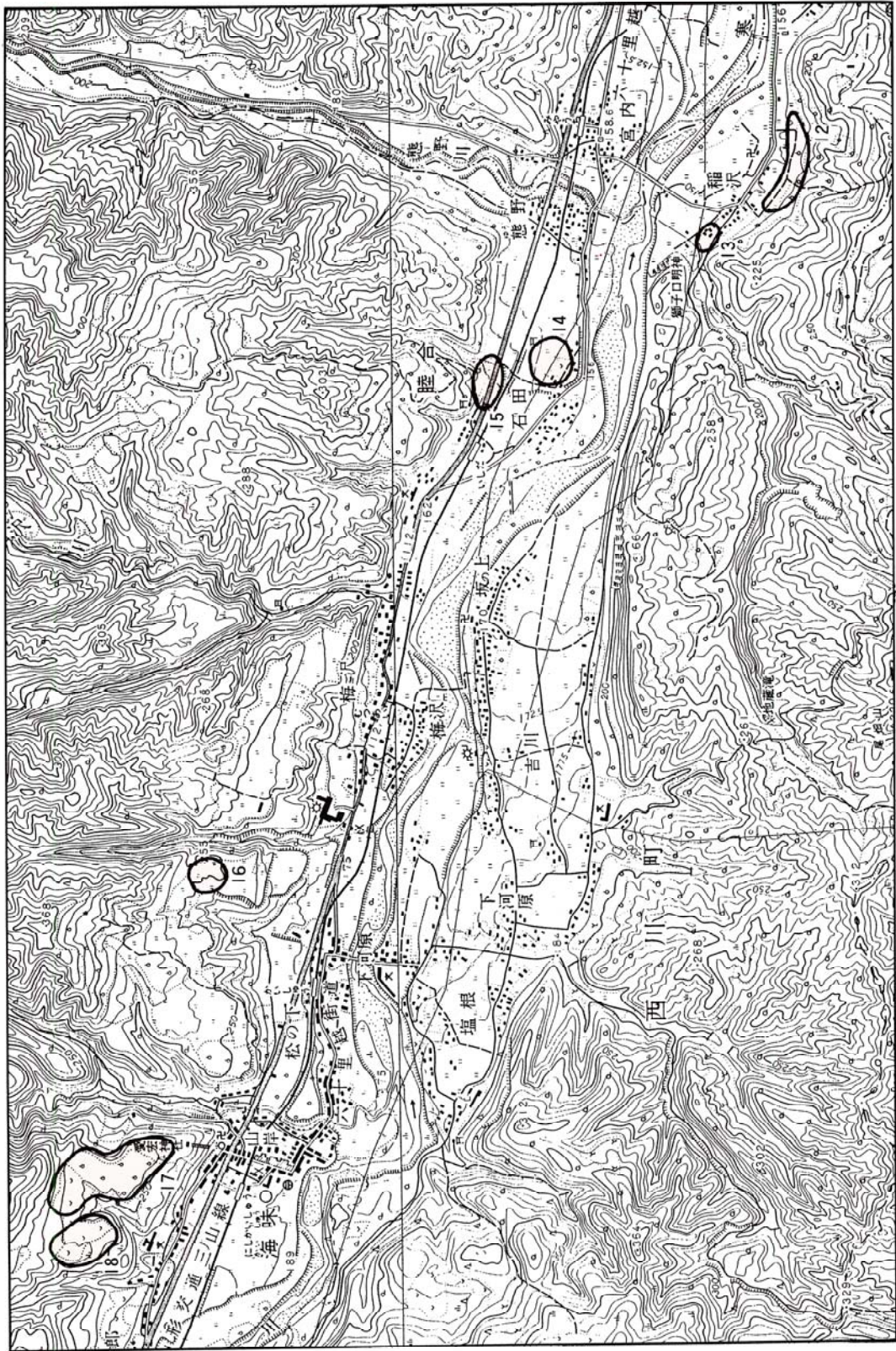
(11) 寒河江・大江・西川地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	きん三 じょう条	寒河江市大字寒河江字三条 外	弥生時代 平安時代	平地 (95m)	水田 畑地 墓地
2	集落跡 古墳 竪穴	たかせやまいせきぐん 高瀬山遺跡群	寒河江市大字 島・寒河江・高瀬山・柴橋	旧石器時代 ↓ 中世	段丘 (112m)	果樹園 畑地 水田
3	散布地	おともしょうじや やしき 落衣長者屋敷	寒河江市大字柴橋字落衣	平安時代 ↓ 中世	段丘 (105m)	果樹園 畑地 水田
4	散布地	たかまつ I 高松	寒河江市大字柴橋字高松	縄文時代 平安時代	微高地 (106m)	果樹園 畑地
5	散布地	たかまつ II 高松	寒河江市大字柴橋字高松	縄文時代	微高地 (108m)	果樹園 畑地
6	散布地	たかまつ III 高松	寒河江市大字柴橋字高松	縄文時代 平安時代	微高地 (109m)	果樹園 畑地
7	散布地	たかまつ IV 高松	寒河江市大字柴橋	平安時代	段丘 (114m)	畑地 水田
8	竪穴	ひらのやまこようおとぐん 平野山古竪穴群 第12地	寒河江市大字柴橋	平安時代	段丘 (115m)	果樹園 畑地 水田
9	城館跡	あでら ざわ じょう 左沢城 (楯山)	西村山郡大江町左沢字楯山	南北朝 ↓ 元和年間	丘陵 (222m)	山林 果樹園
10	散布地	と富 やま 富山	寒河江市大字谷沢字富山	旧石器時代	山腹 (185m)	果樹園 畑地
11	散布地	つ っ じ やま 躑躅山	寒河江市大字谷沢字躑躅山	縄文時代	段丘 (200m)	果樹園 栗林
12	散布地	いな ざわ みなみ 稲沢南	西村山郡西川町大字吉川字稲沢	縄文時代	段丘 (170m)	果樹園 畑地 水田
13	散布地	いな ざわ 稲沢	西村山郡西川町大字吉川字稲沢	縄文時代	段丘 (160m)	宅地 畑地 境内
14	散布地	ふき あげ おつ 吹上乙	西村山郡西川町 大字睦合吹上乙103 外	縄文時代	段丘 (165m)	宅地 畑地 境内
15	集落跡	いし た 石田	西村山郡西川町大字睦合	縄文時代 (早期) 平安時代	段丘 (170m)	宅地 畑地 水田
16	散布地	しも やま I 下モ山	西村山郡西川町大字海味字下モ山	縄文時代	段丘 (250m)	水田 畑地
17	散布地	お ばやし I 小林	西村山郡西川町大字海味字小林	縄文時代	段丘 (265m)	果樹園 畑地
18	散布地	お ばやし II 小林	西村山郡西川町大字海味字小林	縄文時代	段丘 (267m)	果樹園 畑地

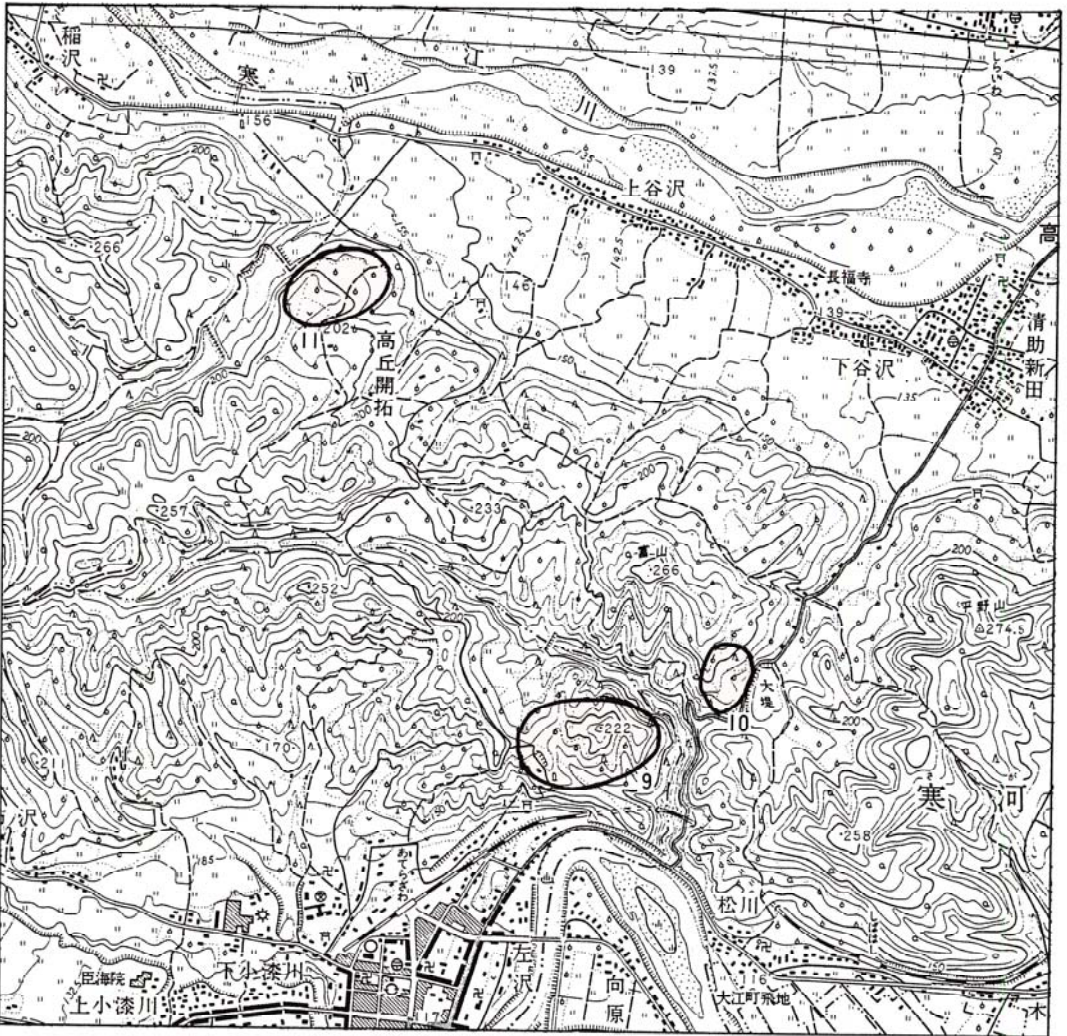
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 左沢線南寒河江駅の北西方に位置し、東西400m・南北800mの範囲に遺物が散布し、特に遺跡西部の畑地は保存状況が良い。	須恵器・赤焼土器	No423 昭和55年県教委立会い調査実施。
寒河江市街の南方、最上川左岸の段丘上に立地する東西1,600m・南北600mに及び大複合遺跡。畑地で遺物の散布が確認できる。	石刃・フレイク 須恵器・土師器・赤焼土器	No.429～432 昭和56年～平成元年度市・県教委発掘調査。
「長生園」の南方の沖積段丘に立地する。東西400m・南北600mの範囲内に若干量の遺物が散布する。この一部には館跡が所在する。	須恵器・赤焼土器	No.433
J R 左沢線寒河江駅の南西2.5kmに位置し、水田面と1mほどの比高差のある微高地上に立地。東西280m・南北100mの範囲に遺物が散布。	フレイク・赤焼土器	新規（平成元年度）
高松Ⅰ遺跡の南西400mに位置する。水田面と1mの比高差をもつ微高地上に立地。東西60m・南北250mの範囲に若干の遺物が散布する。	フレイク	新規（平成元年度）
高松Ⅱ遺跡の西方400mに位置する水田面と1.5mの比高差をもつ微高地上に立地する。東西300m・南北120mの範囲に若干の遺物が散布。	フレイク 須恵器・赤焼土器	新規（平成元年度）
J R 左沢線柴橋駅の北東1kmに位置する。段丘崖近くの畑地に若干の遺物が散布する。	須恵器	新規（平成元年度）
高松Ⅳ遺跡の北に隣接し、平野山古窯跡群の最南端に位置する。東西200m・南北300mの範囲内の畑地・水田・用水路内に遺物が散布する。	須恵器・赤焼土器	No.440
左沢集落の北方丘陵上の要塞の地にあり、空堀・土塁・腰郭等の遺構が明瞭に残っている。範囲は東西400m・南北200m。		日本城郭大系3(新人物往来社 1981年)所収。
左沢城の北を限る沢を挟む丘陵の北東斜面に立地し、東西150m・南北100mの範囲に剥片が多数散布している。	フレイク	新規（平成元年度）
県立寒河江高校農業校舎実習地内の果樹園内と、その上位の段丘に立地する。遺跡の範囲は東西240m・南北400mと推定される。	フレイク	新規（平成元年度）
稲沢集落の南側のゆるやかな斜面に立地する。東西500m・南北100mの範囲内に遺物が散布するが、水田部は破壊を受けた。	フレイク	新規（平成元年度）
稲沢集落の北部に位置し、北に張り出す舌状段丘上に立地する。東西130m・南北50mの範囲と推定され、畑地内に遺物の散布が認められる。	フレイク	新規（平成元年度）
睦合小学校の南東 約800mの寒河江川左岸の沖積段丘に立地する。範囲は東西220m・南北260mと推定され、畑地に遺物が散布する。	石鏃	新規（平成元年度）
吹上乙遺跡の北に隣接し、一段高い段丘の末端部に立地する。範囲は東西300m・南北130mに広がると推定され、畑地内に遺物が散布する。	フレイク	No.484 昭和55年度に町教委が発掘調査。
西川町役場の北東約1kmの高位段丘に立地する。開田によって大半は破壊された。残った範囲は東西30m・南北45m程度である。	フレイク	新規（平成元年度）
西川町役場の北西 約500mの高位段丘上に立地する。沢によって限られた東西200m・南北300mの範囲と推定され、畑地で遺物の散布を確認。	フレイク	新規（平成元年度）
小林Ⅰの沢を挟んで西の台地に位置する。東西130m・南北260mの範囲と推定され、畑地に多数の剥片が散布している。	フレイク	新規（平成元年度）



第20図 寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(1)



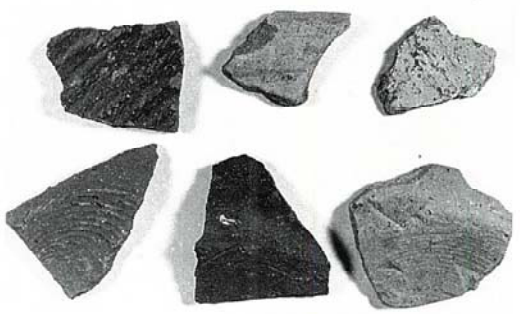
第21図 寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(2)



第22図 寒河江・大江・西川地区基礎調査遺跡位置図(3)

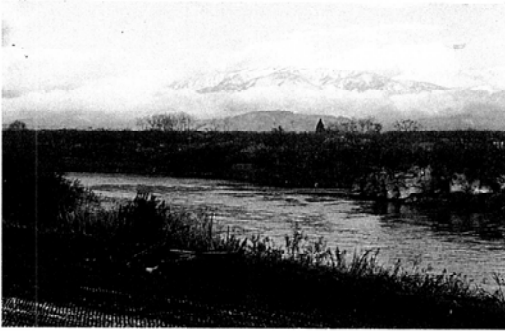


三条遺跡遠景(東から)

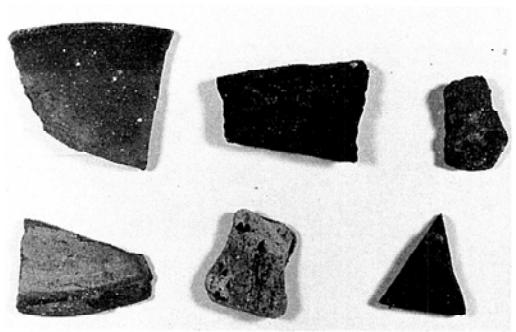


三条遺跡採集遺物

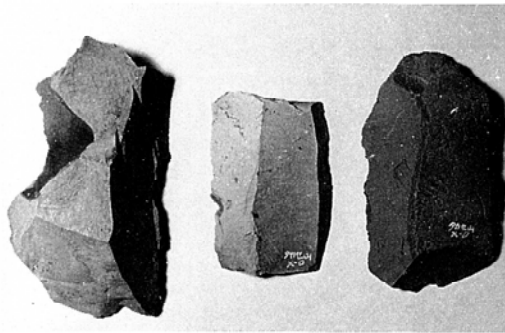
図版28 寒河江・大江・西川地区基礎調査(1)



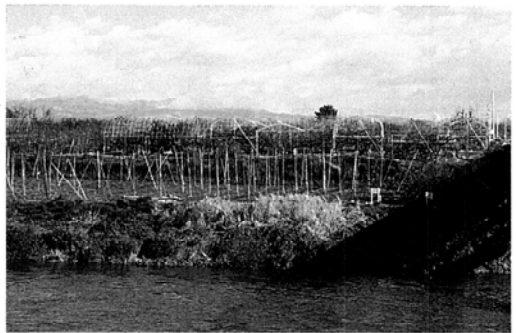
高瀬山遺跡群遠景（南東から）



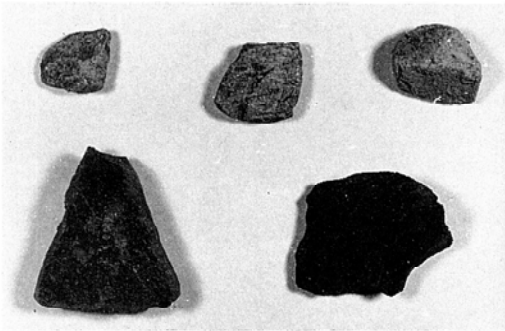
高瀬山遺跡群採集遺物



高瀬山遺跡群採集遺物



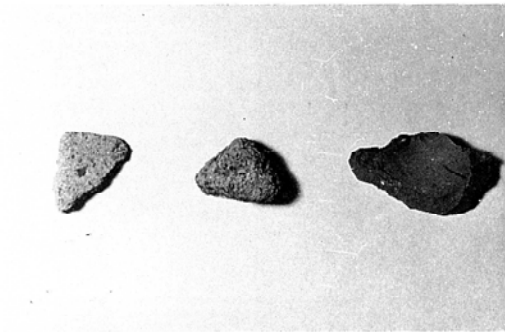
落衣長者屋敷遺跡遠景（南から）



落衣長者屋敷遺跡採集遺物



高松 I 遺跡遠景（南東から）



高松 I 遺跡採集遺物



高松 II 遺跡遠景（南東から）



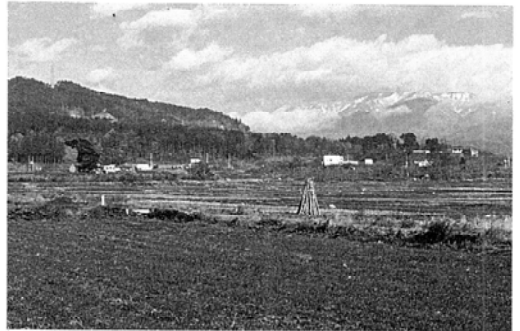
高松II遺跡採集遺物



高松III遺跡遠景（南東から）



高松III遺跡採集遺物



高松IV遺跡遠景（東から）



高松IV遺跡採取遺物



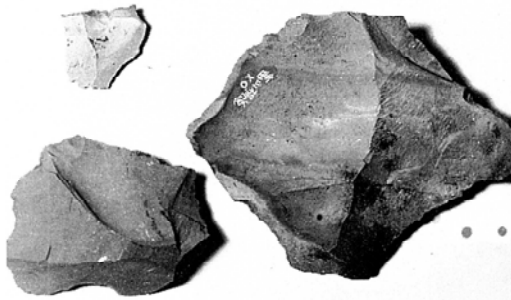
平野山古窯跡群第12地点標柱（南東から）



平野山古窯跡群採集遺物



左沢城跡遠景（北から）



富山遺跡採集遺物



躑躅山遺跡遠景（北から）



躑躅山遺跡採集遺物



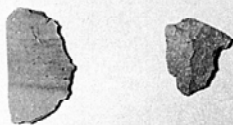
稲沢南遺跡遠景（北東から）



稲沢南遺跡採集遺物



稲沢遺跡遠景（北西から）



稲沢遺跡採集遺物



吹上乙遺跡・石田遺跡遠景（東から）



吹上乙遺跡採取遺物



石田遺跡採集遺物



下モ山 I 遺跡遠景 (南から)



下モ山 I 遺跡採取遺物

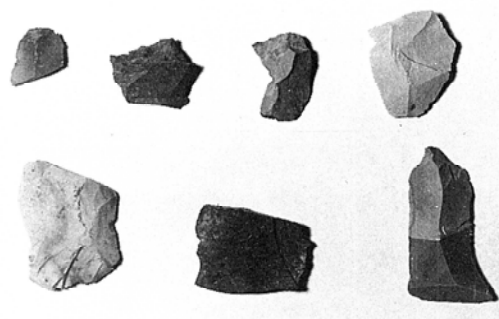
図版32 寒河江・大江・西川地区基礎調査(5)

(12) 小国町東部地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	小 叶 水	西置賜郡小国町大字叶水字小叶水	縄文時代	段丘 (270m)	水田 畑地
2	散布地	中 田	西置賜郡小国町大字新股字中田	縄文時代 (後期)	山麓 (290m)	牧草地
3	散布地	下 叶 水	西置賜郡小国町大字叶水字下叶水	縄文時代 (晩期)	段丘 (263m)	水田 畑地 宅地
4	散布地	野 向	西置賜郡小国町大字市野々字野向	縄文時代	段丘 (250m)	畑地 水田
5	散布地	市野々向原	西置賜郡小国町大字市野々 字向原道下・道上	縄文時代	段丘 (246m)	畑地 水田



小林I遺跡遠景(北から)



小林I遺跡採集遺物



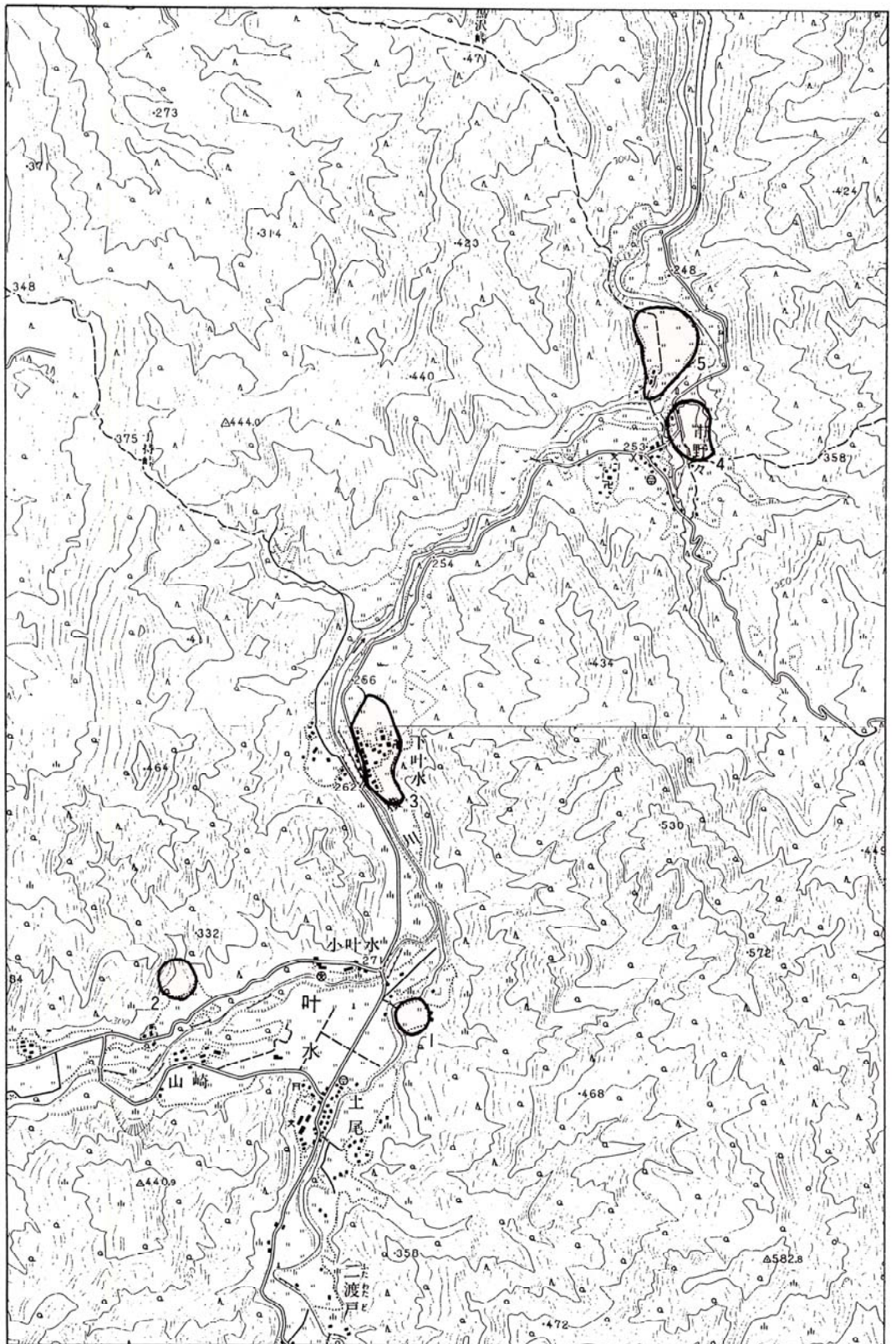
小林II遺跡遠景(北から)



小林II遺跡採集遺物

図版33 寒河江・大江・西川地区基礎調査(6)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
叶水小中学校の北東 約600mの大石沢川の段丘上に立地する。東西230m・南北100mの範囲と推定されるが、今回は遺物の散布を未確認。		No.1427
叶水小中学校の北西 約700mの横川左岸の山麓に立地する。牧草地に開墾した際、土器・石器が出土した。範囲は東西120m・南北80m。		No.1428
横川右岸の下叶水集落を中心に東西130m、南北420mの範囲が推定される。畑地内に多量の土器・石器が散布し、水田にも若干散布する。	石錐・削器・剥片・石核・縄文土器片	No.1426
横川右岸、於米沢の右岸の段丘上に立地する。東西150m・南北250mの範囲内に多量の剥片・石核が散布する。	剥片・石核	新規(平成元年度)
横川右岸の東側に舌状に張り出す段丘上に立地し、畑地と水田畦畔に遺物の散布が認められる。範囲は東西220m・南北220mと推定される。	石篋・削器・剥片	No.1425



第23図 小国町東部地区基礎調査遺跡位置図



小叶水遺跡遠景（西から）



中田遺跡遠景（西から）



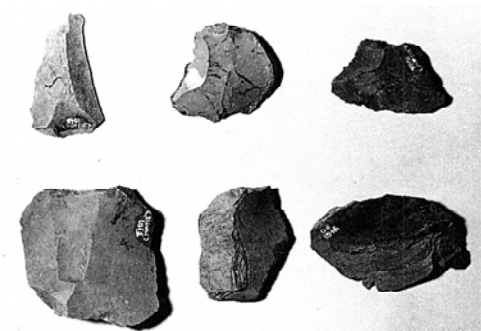
下叶水遺跡遠景（北西から）



下叶水遺跡採集遺物



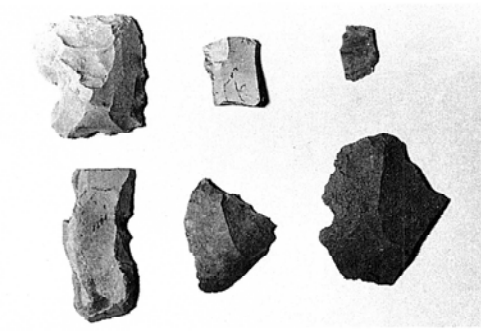
野向遺跡遠景（西から）



野向遺跡採集遺物



市野々向原遺跡近景（北西から）



市野々向原遺跡採集遺物

2 B調査実施遺跡

(1) 西海淵遺跡 (遺跡番号 617)

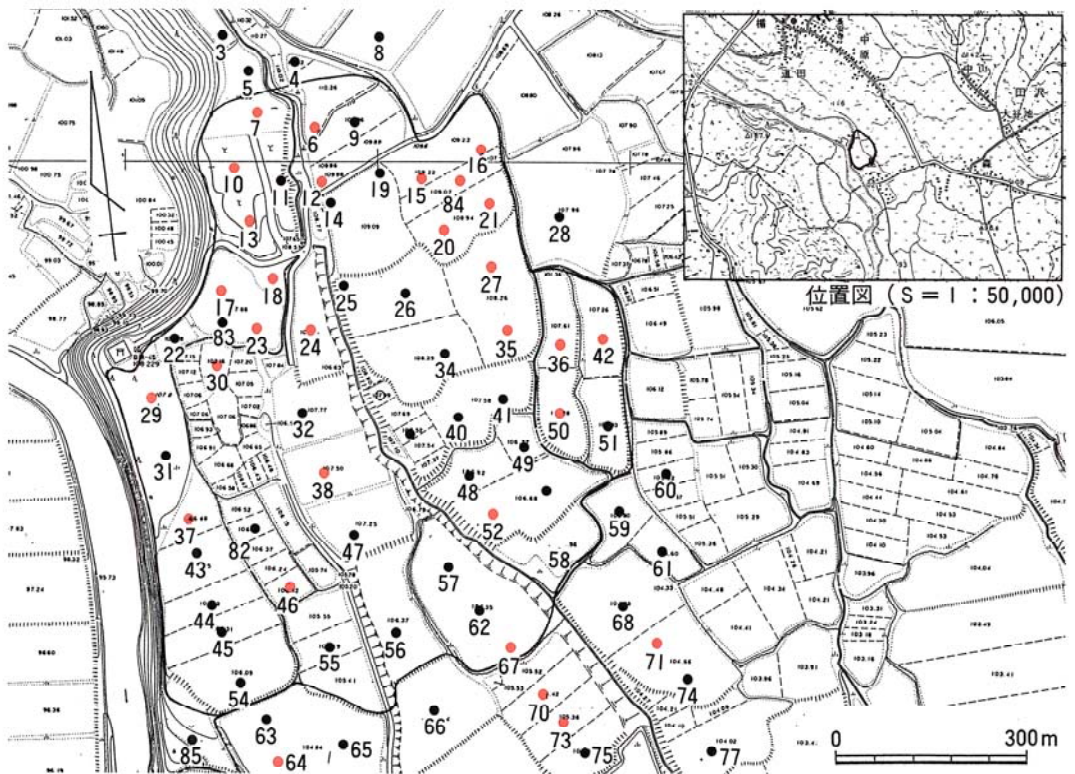
所在地 山形県村山市富並字西海淵

調査員 阿部明彦

調査期日 A調査 平成元年10月2日 B調査 平成元年10月11～13日

調査の概要 本遺跡は富並川左岸の段丘上に位置し、標高は約 109mを測る。以前から土器や石器の出土する所として知られ、本遺跡出土として伝えられる縄文中期に関連する土器類が地元ほかに多数伝わっている。しかし、現在は水田として地形的な改変を大分受け旧地形そのものを止める所は神社周辺域に限られていた。また、遺物の散布は転作地の畑地表面などに若干認める程度であったが、遺跡範囲は今次調査による遺物の包蔵状況と地形的要因も加味して、東西200m×南北230mほどの広がりがあると推測できる。

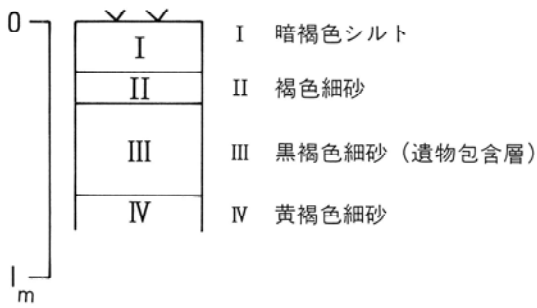
今回の分布調査は、平成2年度に予定される県営ほ場整備事業(富並地区)との調整に資する目的から推定遺跡範囲の約50,000m²ほどを対象として実施したもので、1×1mの試掘溝を現在の田面区画を基準として1区画1箇所程度、総数で85個を入れて掘り下げ、地点毎の遺構の有無、遺物の包含状況ほかを確認している。その結果、TP35・TP50などの試掘溝で良好な包含層を認めるとともに、全体的に遺跡東半域での遺存が良好と捉えられた。



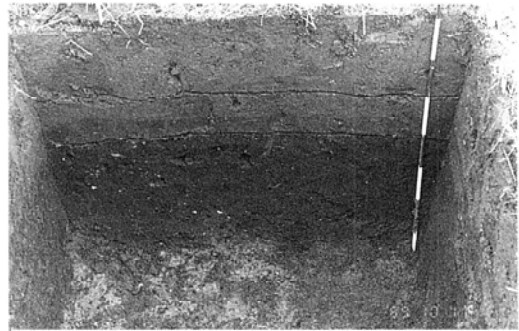
第24図 西海淵遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP18土層柱状図



TP18土層断面



TP18遺物出土状況



出土遺物

(2) ^{ふたぐち}二口遺跡 (遺跡番号 1965)

所在地 山形県東田川郡三川町大字角田二口字寿美田

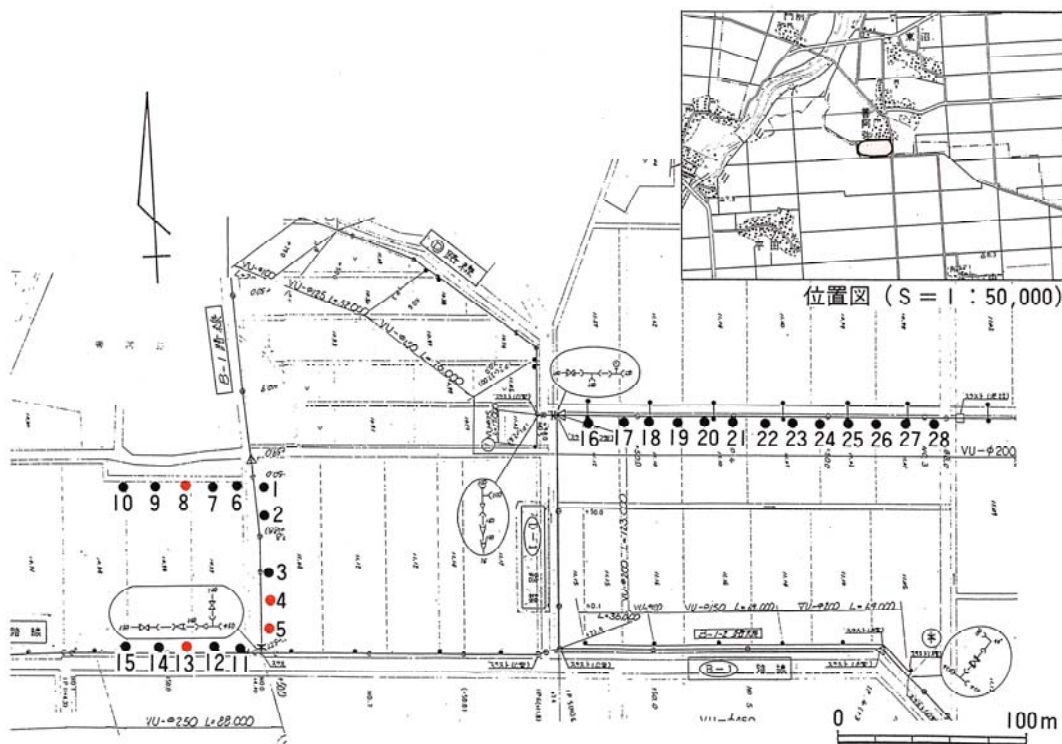
調査員 A調査 渋谷孝雄 阿部明彦 B調査 長橋 至 軽部文雄

調査期日 A調査 平成元年10月3日 B調査 平成元年10月19・20日

調査の概要 遺跡は三川町南西端、善阿弥地区に位置し、大山川右岸、赤川左岸の微高地の水田に立地し、標高は約11mを測る。

今回の調査は、平成2年度に施工が予定されている県営土地改良総合事業(善阿弥地区)との調整を図るために実施したものである。対象地区は、遺跡範囲と考えられる部分の中で、用排水路計画路線を中心に、現水路部分を含め全体で28箇所の試掘区(TP)を設定して行った。

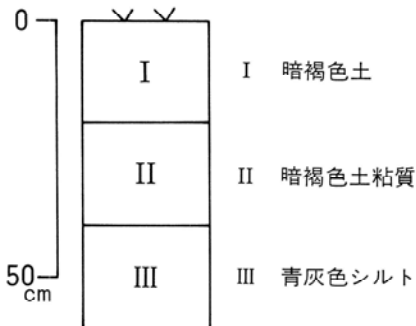
その結果、現地での聞き込みによる遺物出土地点(TP16~28)では、対象部分からは全く遺構・遺物は検出されなかった。二口遺跡北~東~南端部に設定した試掘坑(TP1~15)では、4箇所で遺物・遺構が検出された。出土した遺物は、平安時代の赤焼土器片及び須恵器片が数点だが、いずれも摩滅が著しく、周辺部からの流れ込みと考えられる。TP4で検出された溝状遺構は、古代まで溯るものと考えられるが、他の遺構・遺物が周辺部で希薄なため、遺跡の中心からははずれる部分と想定される。



第25図 二口遺跡



遺跡近景（東から）



土層柱状図



土層断面・溝跡



調査風景



出土土器

(3) ^{おおつぼ}大坪遺跡 (遺跡番号 2110)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字大坪

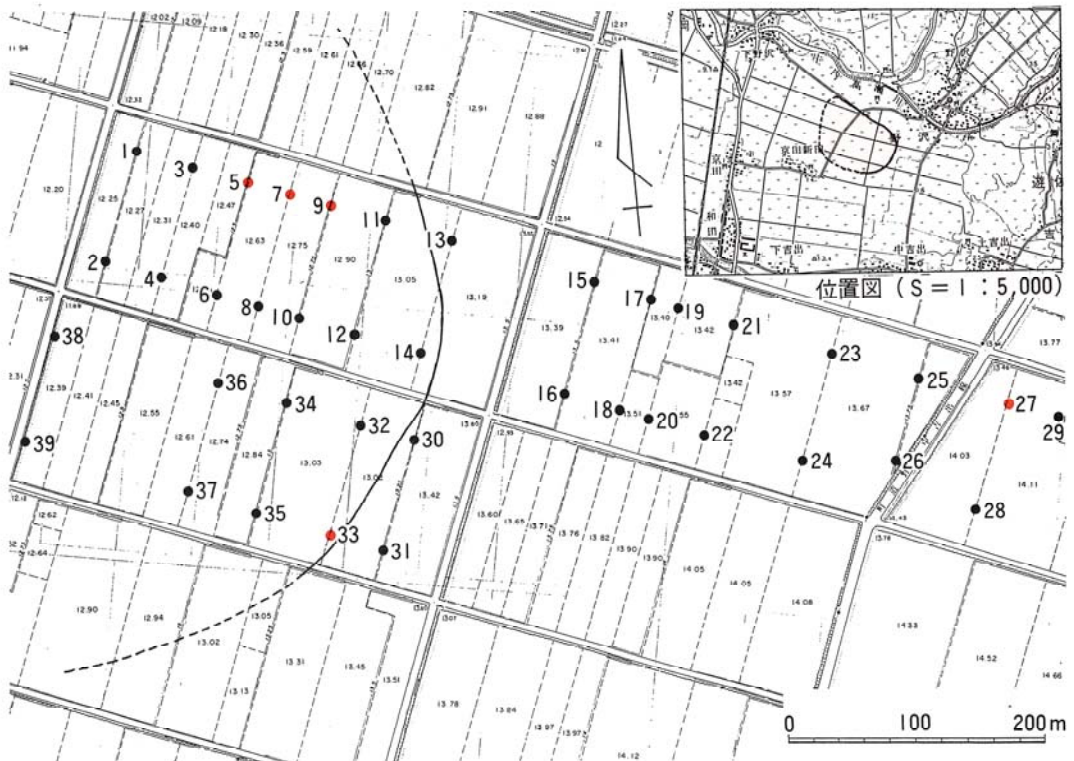
調査員 渋谷孝雄 阿部明彦 伊藤邦弘

調査期日 A調査 平成元年10月5日 B調査 平成元年10月17日

調査の概要 今次の分布調査は、平成2年度に行われる県営ほ場整備事業(月光川右岸地区)との調整に資する目的のため行ったものである。

遺跡は、JR羽越線遊佐駅の北東約2kmの庄内高瀬川左岸に位置する。標高は約13mを測り、庄内高瀬川が作り出した自然堤防上に立地するものと考えられる。地目は水田である。本遺跡の周辺には、同じく自然堤防の微高地上に立地すると考えられている石田・宅田遺跡や、宮の下・道中遺跡等が点在し、平安時代の集落跡群が想定される。

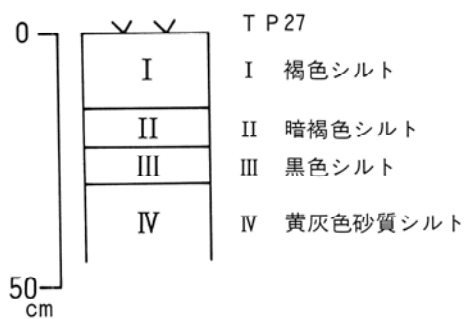
調査は昭和63年度の分布調査に続き、遺跡南東について行った。1m×50cmのテストピットを40箇所設定し掘り下げたところ、5箇所で須恵器・赤焼土器等の遺物が出土し、耕土下約10cmに、10~20cmほどの遺物包含層がみられた。これらは東側で希薄になる傾向が認められることから、遺跡東縁にあたると考えられる。これまでの調査から本遺跡は庄内高瀬川に沿って下野沢方面と京田新田方面に広がる可能性が指摘される。



第26図 大坪遺跡概要図



大坪遺跡遠景（東から）



土層柱状図



大坪遺跡近景（南西から）



TP7土層断面



出土遺物

(4) ^{なかつたら}中田浦遺跡 (遺跡番号 2091)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字当山字中田浦

調査員 渋谷孝雄 阿部明彦 伊藤邦弘

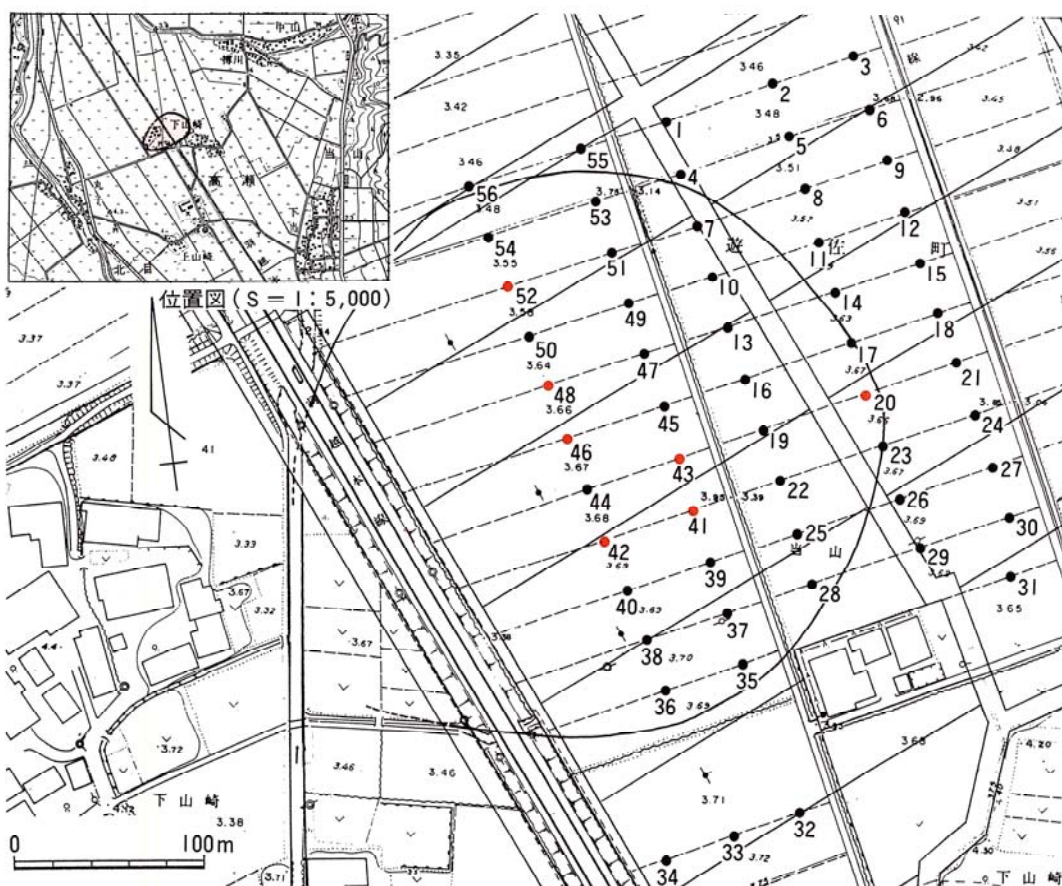
調査期日 A調査 平成元年10月5日 B調査 平成元年10月19・20日

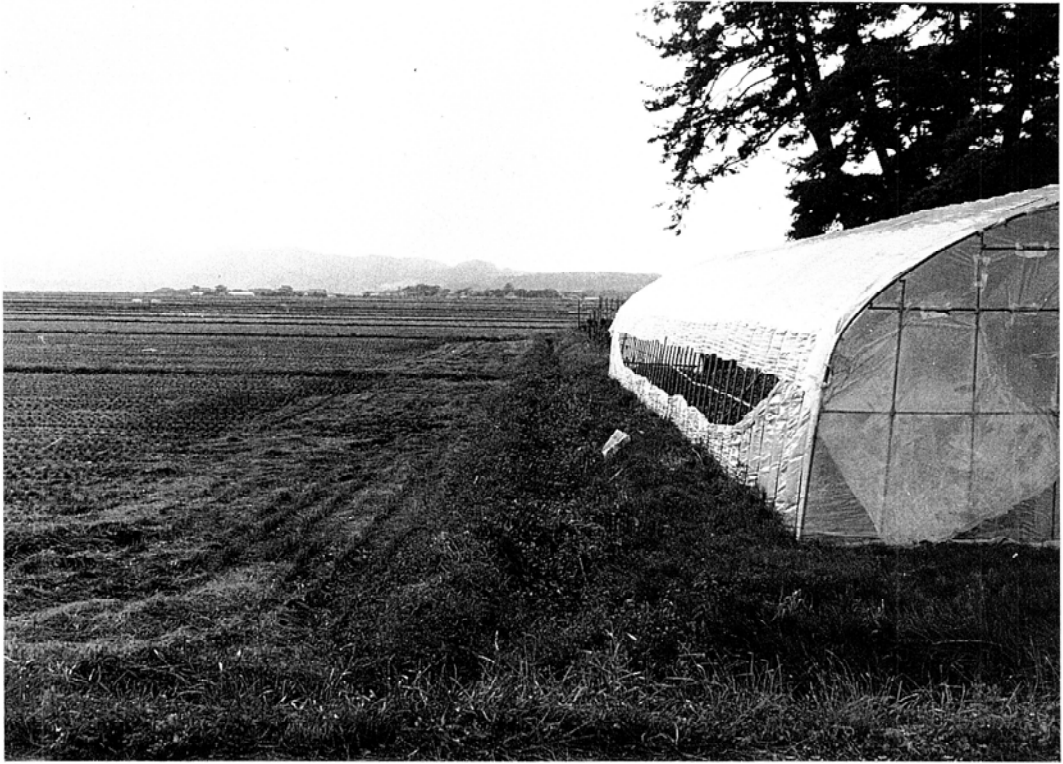
調査の概要 今次の分布調査は、平成2年度に行われる県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整に資する目的のため行ったものである。

遺跡は、遊佐町中心部より4kmほど北の高瀬地区下山崎地内にあり、JR羽越線を挟んで東西に広がる。標高は約4mを測り、西側を北流する庄内高瀬川の自然堤防上に立地するものと考えられる。地目は水田・畑地・宅地である。

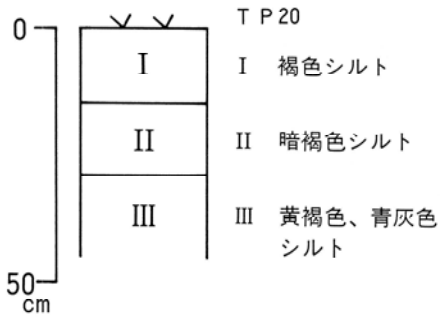
調査はA調査の結果、従来考えられていた箇所より広い範囲で遺物の散布が認められたため、東側水田を中心にB調査を行った。B調査では、1m×50cmのテストピット56箇所と、1.5m×10mのテストレンチ8箇所を設定し掘り下げた。その結果、テストピット8箇所で遺物が出土し、3箇所で柱跡・溝跡等の遺構が検出された。

今回の調査により、本遺跡は平安時代の集落跡と考えられ、また遺跡東縁も確認された。





中田浦遺跡近景（北から）



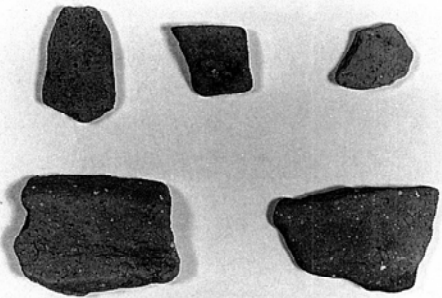
土層柱状図



作業状況（北から）



TP 42 ビット検出状況



出土遺物

(5) ^{ひがしだ}東田遺跡 (平成元年度 新規発見)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字庄泉字東田

調査員 A調査 渋谷孝雄 名和達朗 B調査 名和達朗 軽部文雄

調査期日 A調査 平成元年11月7～9日 B調査 平成元年11月14～17日

遺跡の概要 遺跡はJR遊佐駅の南西方1.5kmに位置する。標高は9～10mを測る。今回、平成2年度県営ほ場整備事業・月光川左岸地区及びかんがい排水事業・月光川地区の計画区域についてA調査を行ったところ、遊佐町大井・服部・小服部・萩生田地区一帯の水田に、遺物の散布が広範囲にみとめられた。新規確認の遺跡であることから、上記の開発事業と早急に調整を図る必要があり、翌週にB調査を行った。

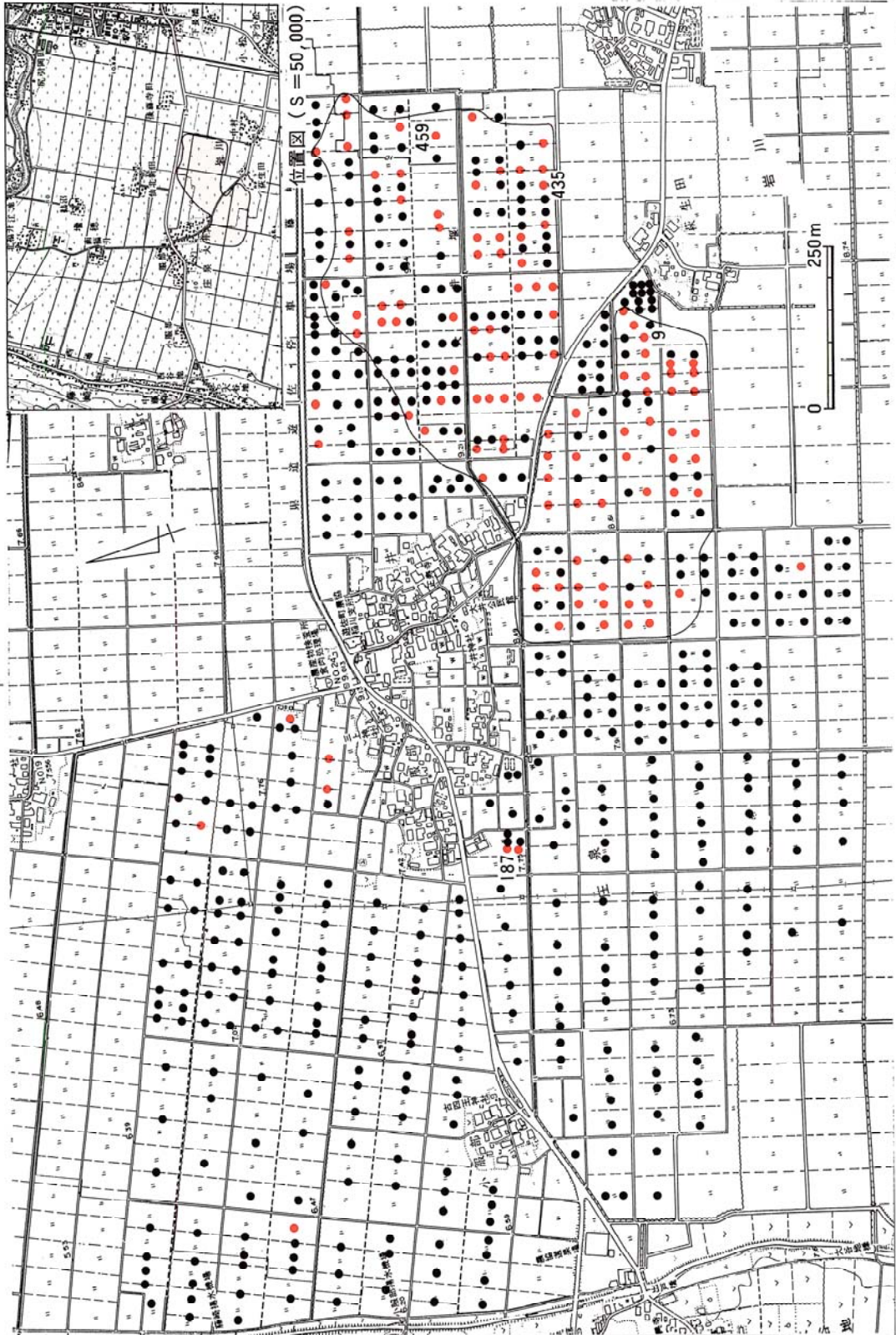
調査は、事業計画区域について、1m方形の大きさに627箇所 試掘を行った。その結果、大井・萩生田地区間をはしる町道の両側周辺から遺構・遺物が確認された。その範囲は東西1,000m・南北450m、面積302,000㎡である。また、服部集落の南西寄り、1箇所の地点からまとまった遺物が出土した。この地点は、想定した遺跡範囲から少し西へ離れて位置する。出土遺物は、土師器・須恵器・赤焼土器である。時期は平安時代である。

試掘調査内容から、この区域には、広範囲な遺構・遺物の分布を呈する集落跡の存在が考えられる。

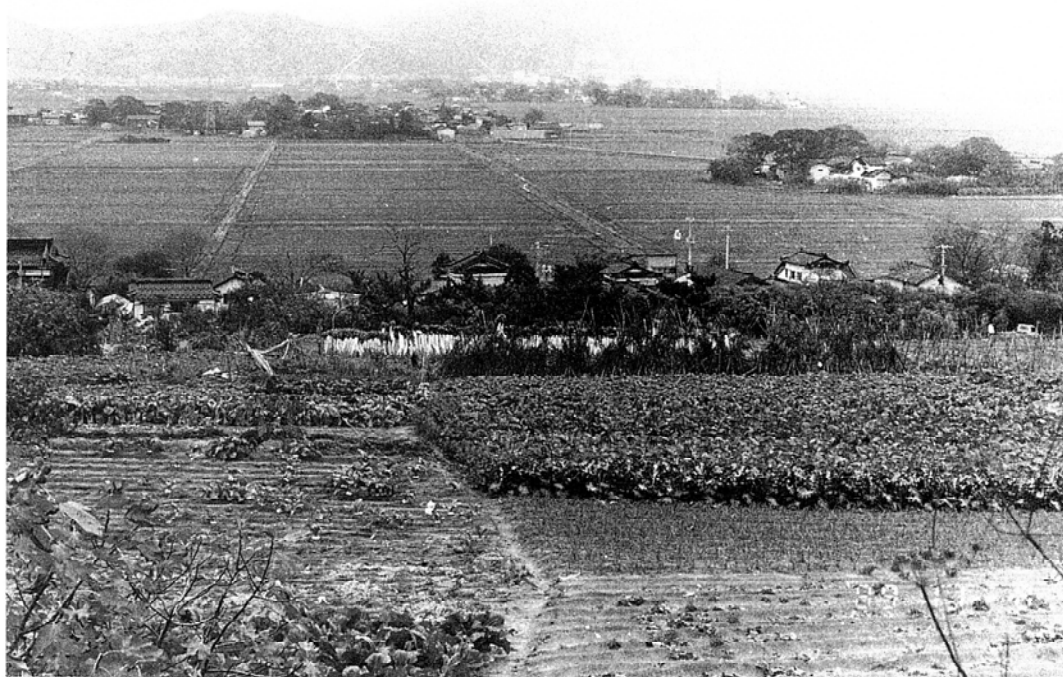


図版39 東田遺跡 (1)

遺跡遠景 (東から)



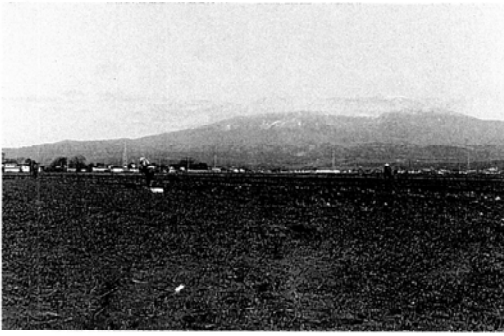
第28図 東田遺跡概要図



遺跡遠景（西から）



遺跡近景（南西から）



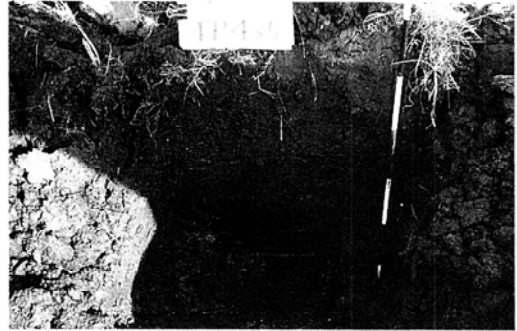
作業風景



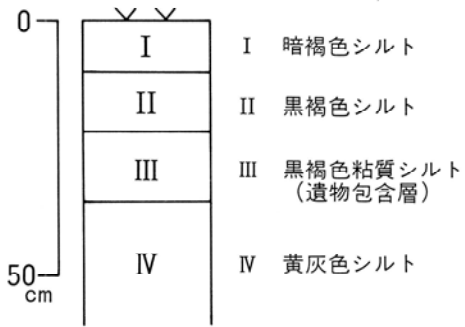
TP187遺構検出状況



TP459土層断面



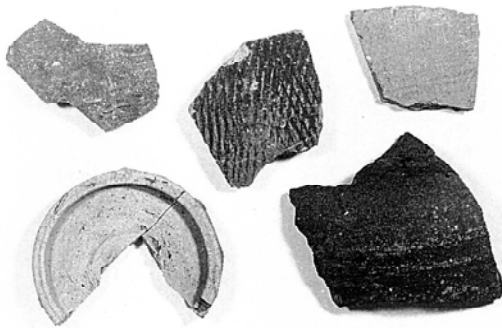
TP435土層断面



土層柱状図



TP19土層断面



須恵器



赤焼土器

(6) 囿地田遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字白山字囿地田

調査員 野尻 侃 名和達朗 黒坂雅人

調査期日 A調査 平成元年10月26日 B調査 平成元年10月30日～11月1日

遺跡の概要 本遺跡は、鶴岡市街の西方に位置し、白山地区の西野・興屋集落の南部、南北に北流する湯尻川右岸に南北に広がっている。遺物の散布範囲や地形等から、東西 170 m、南北330m、面積 約54,700㎡ほどの規模と推測される。標高15m前後を測り、北流する湯尻川によって形成された自然堤防上の微高地に立地する。地目は大方が水田で、集落付近が畑地となる。本遺跡は平成2年度に予定される県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)に関連した分布調査によって新規に発見された遺跡で、その存在が知られなかったものである。

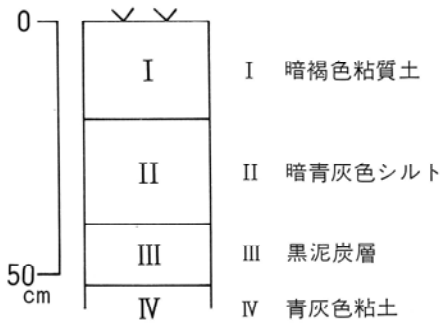
今回の調査は、県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)との調整に資する目的で実施したもので、事業予定地区内での状況を把握する目的からテストピット(TP)を 310箇所に入れて行った。調査の結果、興屋集落の南方地区(TP138・134・105・112・124 周辺)に柱穴等の遺構や土器片の分布が認められ、興屋集落から禅竜寺新田集落に通じる市道沿いに南北に広がるということが判明した。時期は古墳時代と考えられる。



第29図 囿地田遺跡概要図



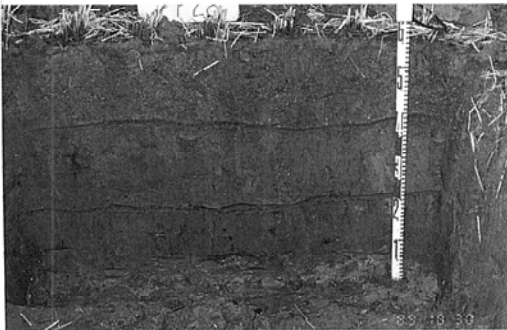
遺跡近景（北西から）



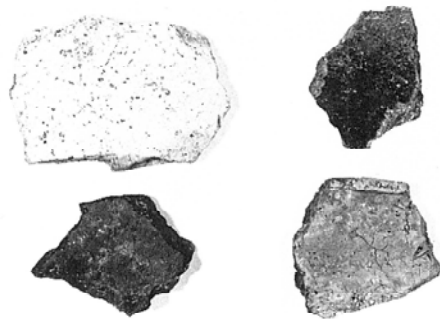
TP 28土層柱状図



TP 30土層断面



TP 28土層断面



出土遺物

(7) ^{しんまちうしろ}新町後遺跡 (昭和56年度登録)

所在地 山形県新庄市大字鳥越字新町後

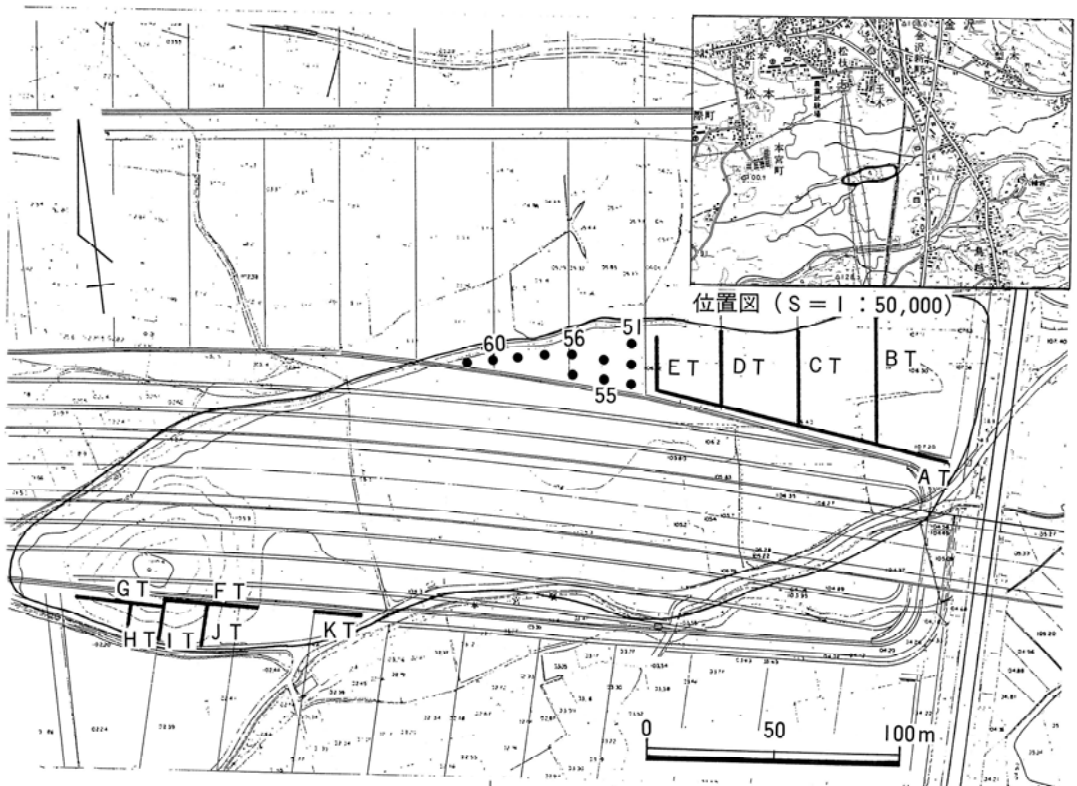
調査員 佐藤正俊 齊藤主税 軽部文雄

調査期日 A調査 平成元年11月13日 B調査 平成元年11月21・22日

調査の概要 遺跡は、新庄市街地の南側、鳥越地区にあり、JR奥羽本線の西隣、新田川北岸の水田・畑地を含む段丘上に位置し、一部に林のある丘陵がみられる。標高は約115mを測る。

本遺跡は、昭和56年と昭和63年の二度の表面踏査が行われているが、うち昭和56年の調査で、西側の畑地一帯に筧状石器、フレイク・チップ等の遺物が散布していることが確認された。今回の調査は、現在、この地域に新庄南部地区県営緑農住区開発基盤整備事業が実施されつつあり、その第I期事業(平成元年度)との調整をはかるため試掘調査を行ったものである。

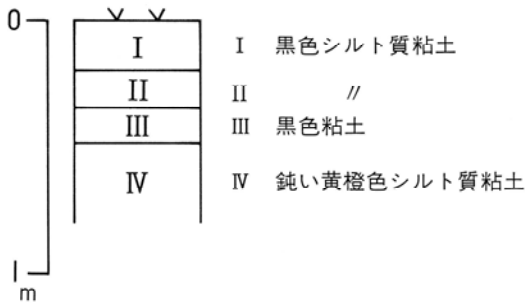
調査は、遺跡範囲の北東部および南西部に、幅約1.8mのトレンチをあわせて11箇所、さらに1m四方のテストピットを11箇所に設定して試掘をしたが、遺物・遺構の包含層と思われる地層は確認できず、わずかに北東部Cトレンチ付近の畑地から赤焼土器片1点、南西部Kトレンチ付近の畑地から石英質のフレイク4点を表面採取したにとどまった。



第30図 新町後遺跡概要図



遺跡近景（西から）



土層柱状図



Fトレンチ調査状況（東から）



Kトレンチ土層断面（南から）



調査風景

(8) ^{ひらね}平根遺跡 (遺跡番号 1108)

所在地 山形県最上郡戸沢村字寺台3406-30 外

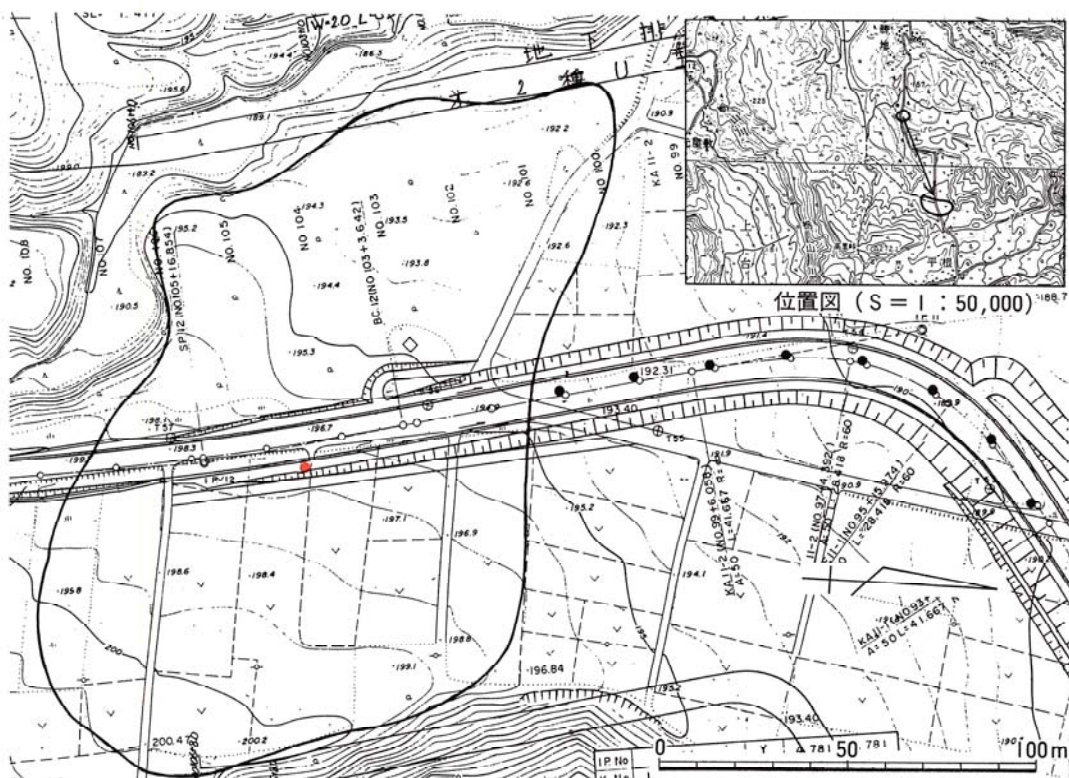
調査員 渋谷孝雄 軽部文雄

調査期日 A調査 平成元年10月9日 B調査 平成元年10月25・26日

調査の概要 本遺跡はJR陸羽西線古口駅の南方7.8kmに位置し、北に面した標高193～200mのゆるやかな傾斜をもつ台地上に立地する。昭和63年度、それに今年度の表面踏査により、昭和53年3月発行の「山形県遺跡地図」に記載された位置より、約600m南方にズレていることが明らかとなった。今回の表面踏査及び試掘調査は、遺跡のある台地に一般県道肘折古口(T)線道路改良事業が計画されたため、埋蔵文化財と事業計画の調整を目的として実施したものである。

調査は台地の北側よりセンターに沿って新設の終点まで20mごとに1×1mの試掘溝8箇所を設定し、地山の肘折パミス層上面まで掘り下げたが、これらの試掘溝からは遺物・遺構とも検出されなかった。つぎに現道との取り付け部分に1×5mのTP9を設定し、同じく地山層まで掘り下げたところ、上部に再堆積層があり、この中から異型石器・石鏃・剥片等が出土したが、プライマリーな層準には遺物は認められなかった。

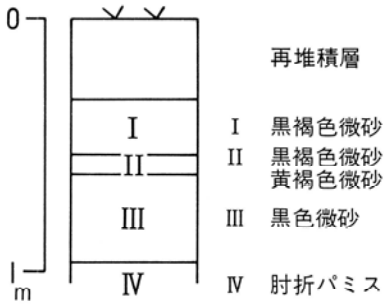
周辺の踏査により、下図の枠線内から、縄文晩期の土器・石鏃等が採集された。



第31図 平根遺跡概要図



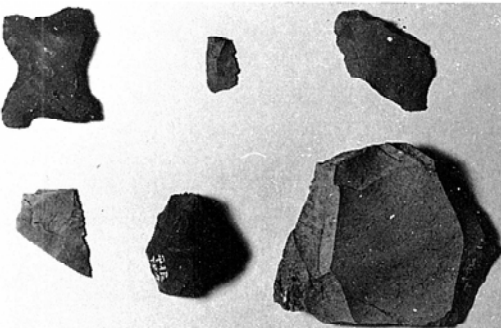
遺跡近景（南東から）



土層柱状図



TP 9 土層断面



TP 9 出土遺物



採集遺物

(9) 当岳遺跡 (遺跡番号 653)

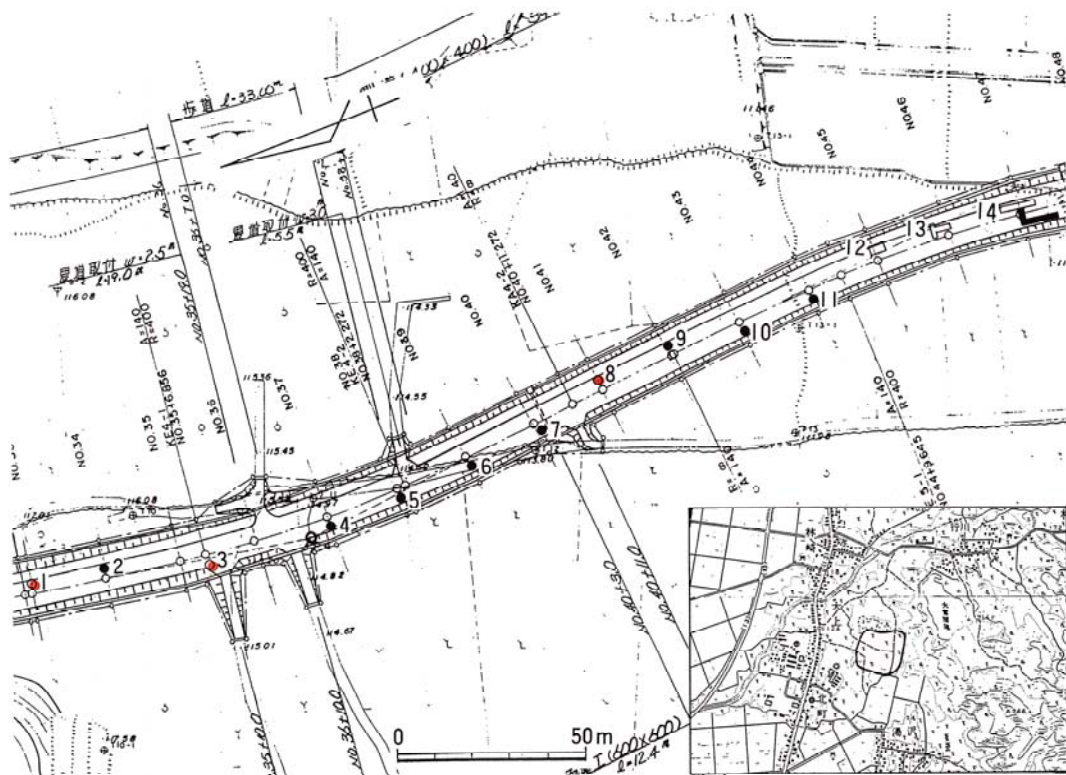
所在地 山形県村山市大字湯沢字当岳

調査員 佐藤正俊 長橋 至

調査期日 平成元年10月24・25日

調査の概要 遺跡は、村山市楯岡市街地の北東部、J R楯岡駅の北東約2.8kmに位置する。標高は約112m、範囲は東西280m、南北350mの広がりを持ち、地目は現在、桑畑、畑、荒地となっている。

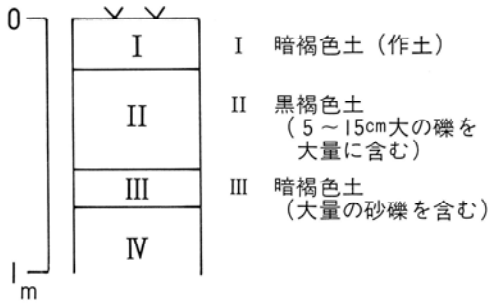
今回の調査は、主要地方道尾花沢関山線建設にかかる事前の試掘調査である。計画路線センターに沿い、20m毎に1×1mの試掘区(TP)を全体で14箇所設定し、遺跡の状況を探った(TP12~14はトレンチを設定)。その結果、5箇所で遺物の出土(縄文土器片、平安時代須恵器环等)が確認されたが、いずれも量的にまとまりはなく、また良好な遺物包含層は存在しなかった。TP12以南を除き、TP1~11はすべて表土下10cmほどから50~100cmほどまで大量の砂礫層となり、遺物はこの層位中から周辺部からの流れ込みの様相で出土した。また、トレンチを設定したTP12以南では、層中に砂礫は比較的含まれないものの、遺物の出土は少量、遺構も未検出であり、その状況から、今回調査の対象とした地域は、当岳遺跡の中心部分からは、はずれるものと想定される。



第32図 当岳遺跡概要図



当岳遺跡遠景（北から）



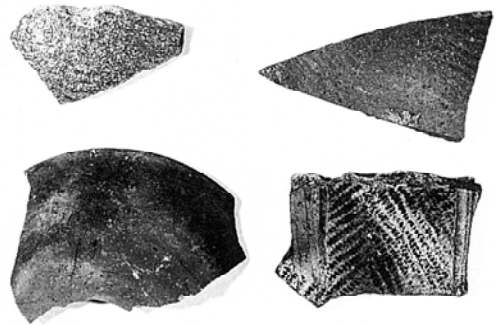
土層柱状図



土層断面



土層断面



出土土器

(10) 猪野沢横台遺跡 (遺跡番号 703)

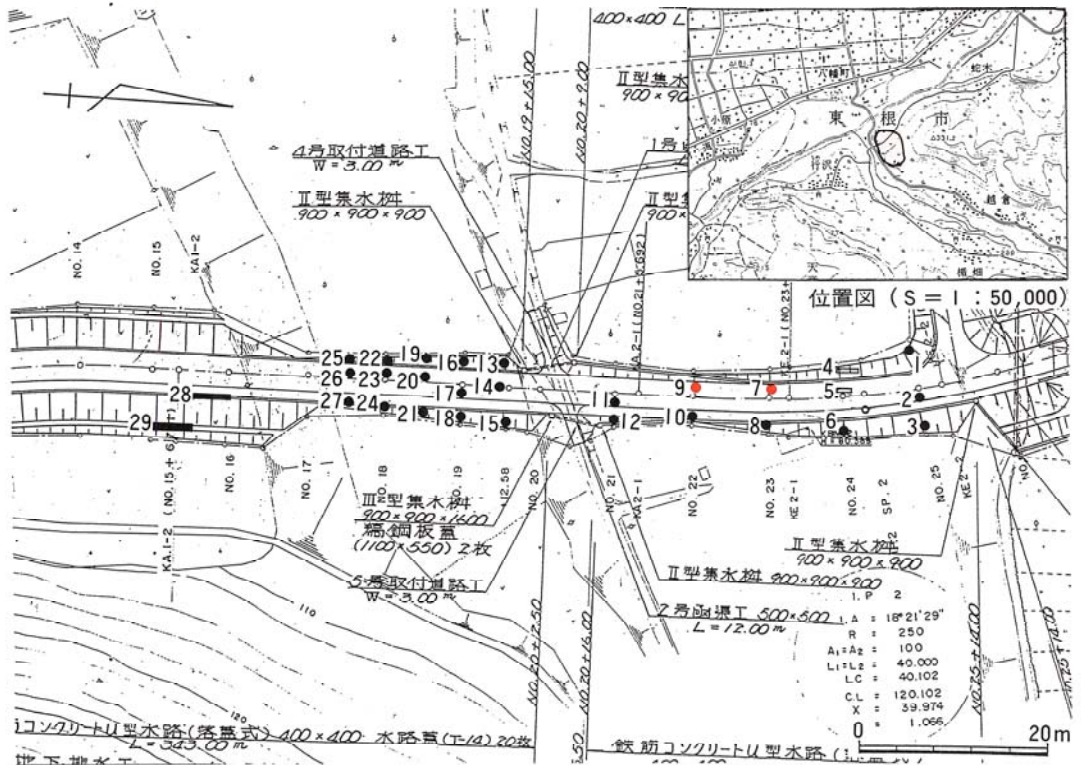
所在地 山形県東根市大字猪野沢字横台40 外

調査員 佐藤正俊 長橋 至

調査期日 平成元年10月26・27日

調査の概要 遺跡は東根市南西部、猪野沢地区の北西部、乱川左岸の段丘上に立地し、標高は約180mを測る。遺跡の立地する段丘は、乱川左岸の低位段丘であり、後背に中位、上位の段丘がみられる。

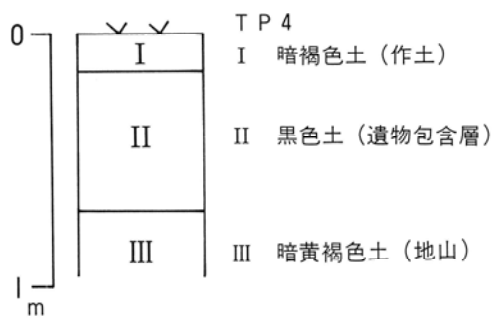
今回の調査は、一般県道田麦野行沢線建設にかかる事前の試掘調査である。計画路線内に、全体で29箇所の試掘区(TP・1×2m)を設定し遺跡の状況を探った(TP4・5・28・29はトレンチ)。その結果、TP1~12までの低位段丘上の4箇所で遺物(縄文時代晩期)が出土した。そのうち、TP4・5を中心とする区域では遺物包含層が比較的良好に遺存しており、地山層まで安定している状況であった。その他の試掘区では、表土直下から10cm大の礫を含む砂礫層となり、この状況は中位段丘上に設定したTP13~27でも同じ様相を呈した。さらに上位段丘に設定したTP28・29では、表土直下が黄褐色地山層となり、遺物包含層は存在しない。以上のことから、本遺跡の中心部は過去に完形土器が出土した、今回の対象地区の西側部分一帯と考えられる。



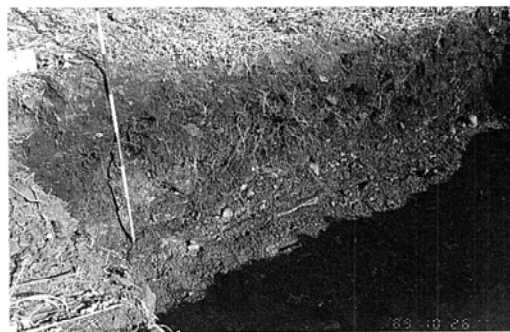
第33図 猪野沢横台遺跡概要図



猪野沢横台遺跡近景（南から）



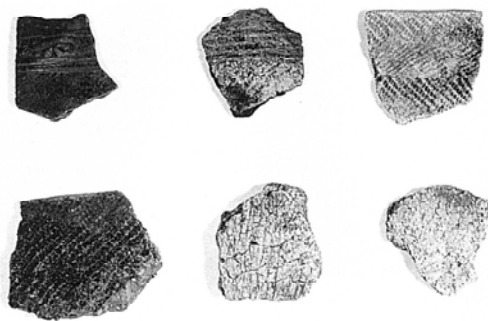
土層柱状図



土層断面



土層断面（包含層）



出土土器

図版46 猪野沢横台遺跡

(11) 横山C遺跡 (昭和60年度登録)

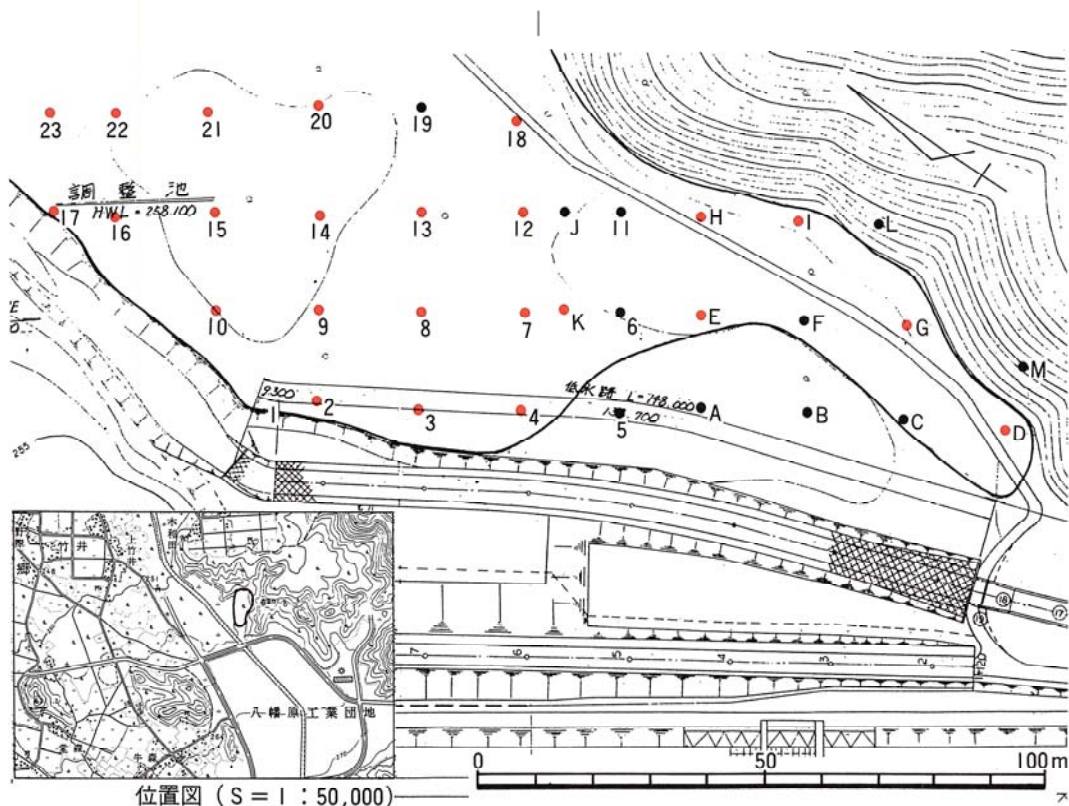
所在地 山形県米沢市大字竹井字横山2531 外

調査員 渋谷孝雄 軽部文雄

調査期日 A調査 平成元年10月13日 B調査 平成元年10月23・24日、11月30日

調査の概要 本遺跡は八幡原工業団地の北東に隣接する標高258~259mの天王川右岸の段丘上に立地する。昭和60年度に米沢市教育委員会によって登録され、周知の遺跡となった。現在の地目は、ナラ等の雑木林で開墾された形跡はない。

今回の調査は、登録地を含む一帯に米沢ヘリポート(公共)整備事業が計画されたため、事業との調整を図るため、山形県土木部の依頼により実施したものである。調査は事業実施予定地区内に概ね20mおきに1×1mの試掘溝を設定し、砂礫層もしくは黄褐色砂層まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認することを目的とした。TP1~23、TPA~Mまで合わせて36箇所の試掘溝のうち、北部のものを中心に25箇所、遺構や遺物が検出された。その分布密度はTP1と12を結ぶ線の北部で濃く、南部は薄い。TP10、13、16で竪穴住居跡とみられる土色変化が確認され、TP23で溝状遺構が検出された。遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、鉄製品など、奈良・平安時代のものを中心に整理箱に2箱相当が出土し、南端のTPDからは布目痕をもつ弥生土器片の出土があった。



第34図 横山C遺跡概要図



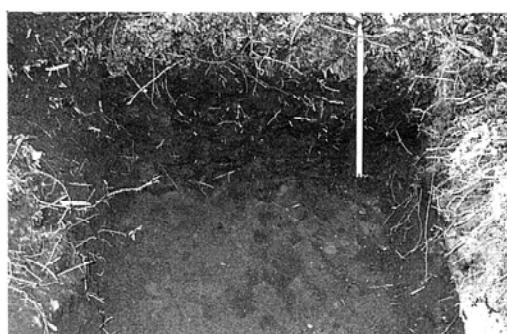
遺跡遠景（西から）



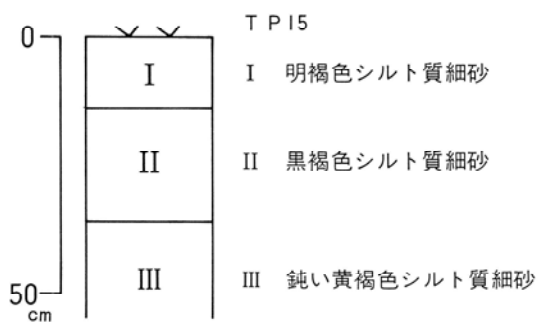
TP 9 土層断面



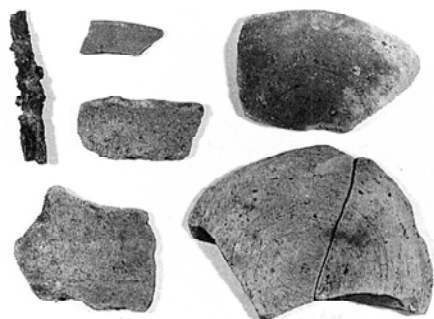
TP 13土層断面



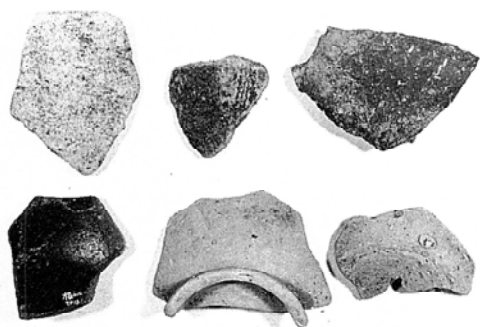
TP 16土層断面



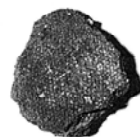
土層柱状図



TP 13出土遺物



TP 16出土遺物



TP D出土遺物

(12) 山海^{さんかい}窯跡群 (遺跡番号 2302)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山谷新田字山海

調査員 A調査 名和達朗 伊藤邦弘 B調査 名和達朗 安部 実 伊藤邦弘

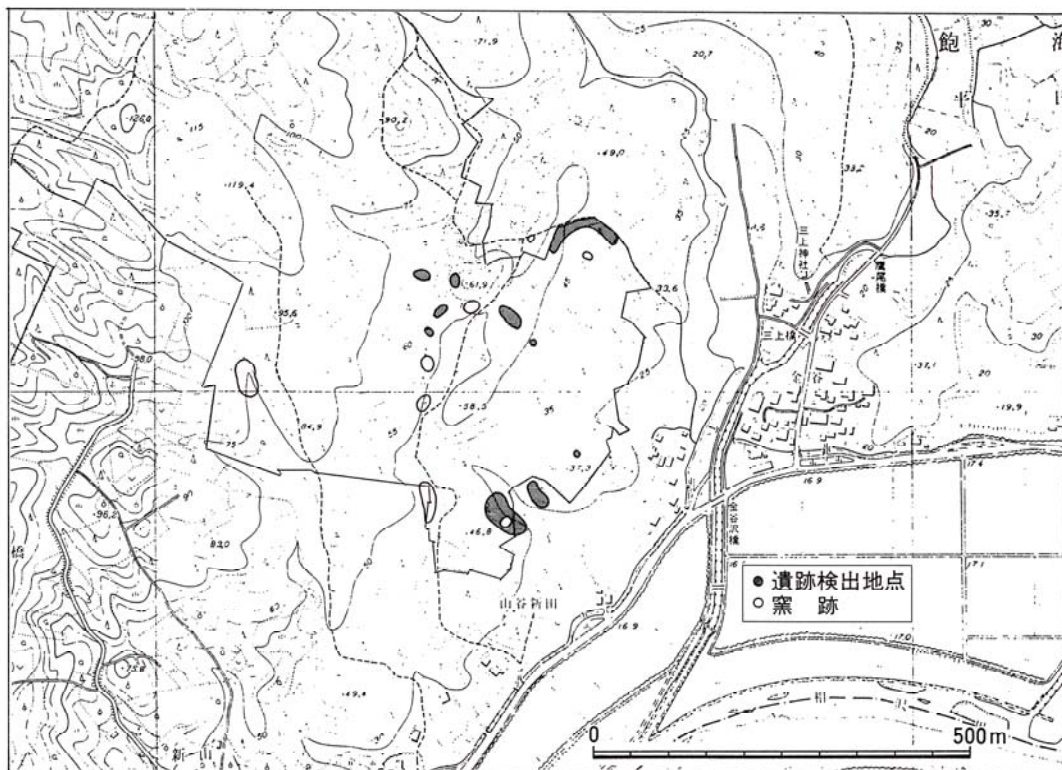
調査期日 A調査 平成元年10月11～13日 B調査 平成元年10月23～27日

遺跡の概要 遺跡はJR砂越駅の東方 4.5km、相沢川右岸の北側及び西沢川右岸の西方に広がる丘陵上に立地する。標高は約50mを測る。地目は畑地・山林となっている。

今回の調査は、国営農地開発事業鳥海南麓地区(山楯工区)との調整に資するために、行ったものである。

調査は事業実施予定地区内の踏査可能な区域について、1m方形の大きさに430箇所を試掘を行った。その結果、平地・山腹・谷間のいたるところで遺物が検出された。その中で、焼土等により窯跡群が確認できたのは、いまのところ8箇所である。また、平地やそれに近い緩斜面での遺物の出土は、工房跡の存在が推測される。窯跡と考えられる地区は、土器の出土が多量であり、遺物の採集はその代表的なものとした。出土遺物は、須恵器・赤焼土器・窯壁である。

事業区全体について未調査部分を残してはいるが、遺物の散布及び出土状況からこの丘陵一体には奈良・平安時代の大窯跡群の所在が考えられる。



第35図 山海窯跡群位置図



第36図 山海窯跡群概要図



遺跡遠景（北東から）



遺跡近景（東から）



調査風景（南から）



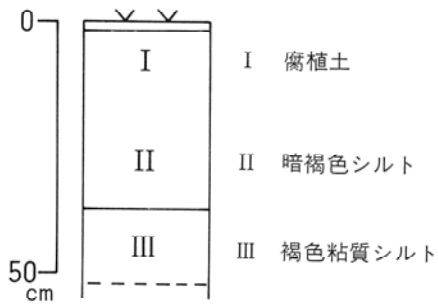
No. 1 窯跡検出地点（東から）



No. 2 窯跡検出地点（南から）



No. 3 窯跡検出状況（南から）



土層柱状図



土層断面（東から）

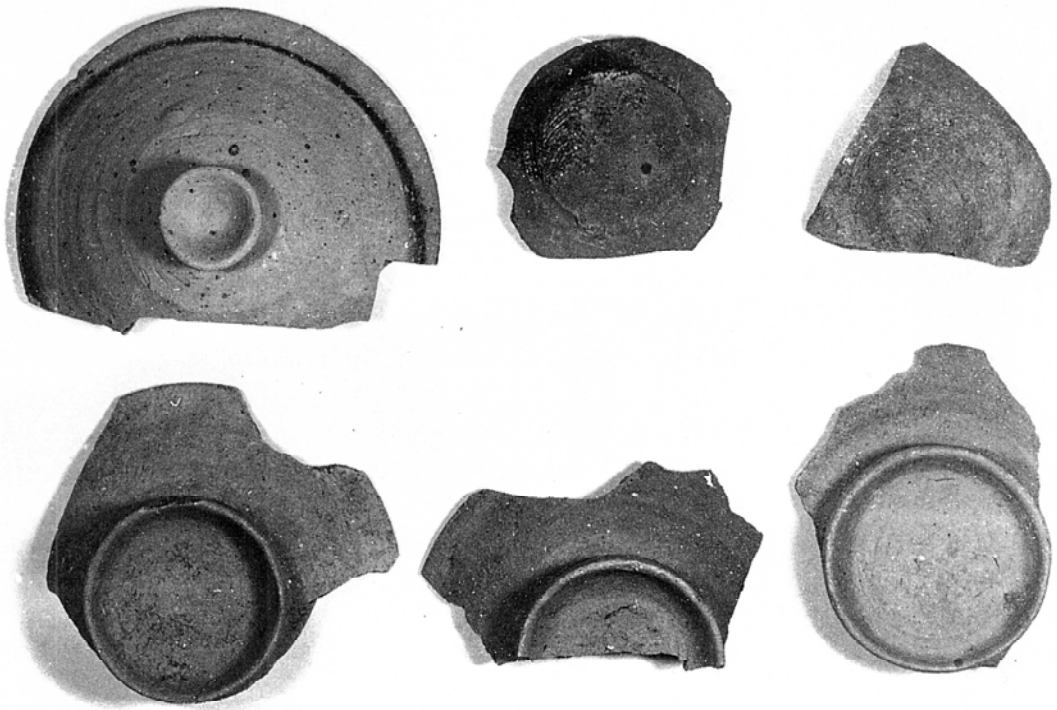


焼土検出状況（南から）



遺物検出状況（西から）

図版49 山海窯跡群(2)



須恵器



赤焼土器

(13) 山谷新田遺跡 (遺跡番号 2301)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山谷新田字山海

調査員 安部 実

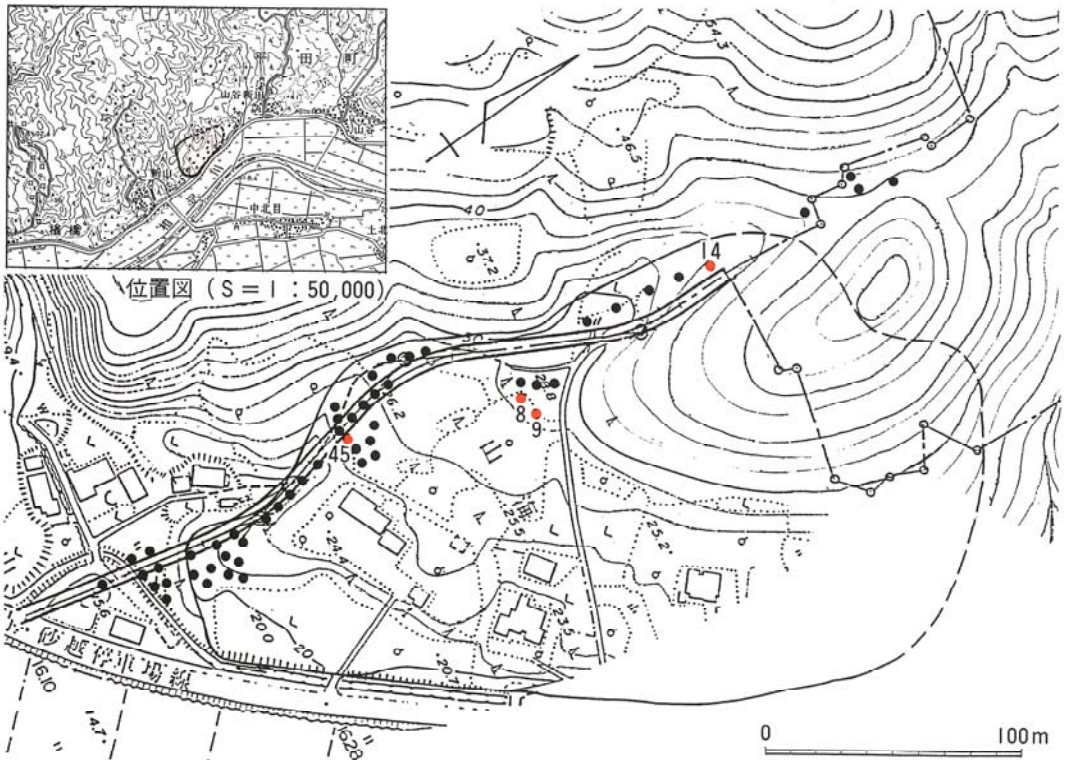
調査期日 B調査 平成元年10月17日、11月30日

遺跡の概要 遺跡はJR砂越駅の東方4.5km、相沢川右岸の丘陵端に立地する。東側にある宝蔵坊沢と西側の東光坊沢に挟まれた中間の段丘上で、標高25mを測る。地目は畑地、山林、宅地となっている。

今回の調査は、国営農地開発事業鳥海南麓地区(第2号幹線道路B)との調整に資するために行ったものである。

調査は事業実施予定地区内に限り、51箇所の試掘を行った。その結果、試掘穴8で柱穴と溝跡が検出され、須恵器と赤焼土器が出土している。また、試掘穴45で縄文土器が、14では須恵器が出土している。

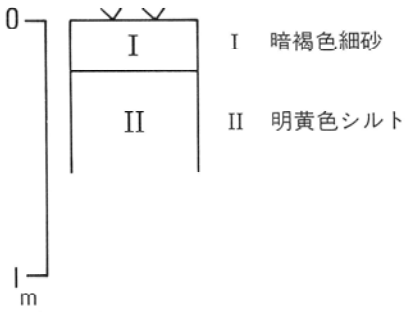
表面踏査によれば、宝蔵坊沢と東光坊沢に挟まれた段丘上で、縄文土器、石器、須恵器、赤焼土器が一面に散布していた。これまで周知されていた本遺跡の範囲がさらに広がることが確認された。また、東光坊沢の山道には須恵器が散布しており、奥の方では山海窯跡群の一部と考えられる、須恵器を焼成した窯跡が発見されている。



第37図 山谷新田遺跡概要図



山谷新田遺跡近景（西から）



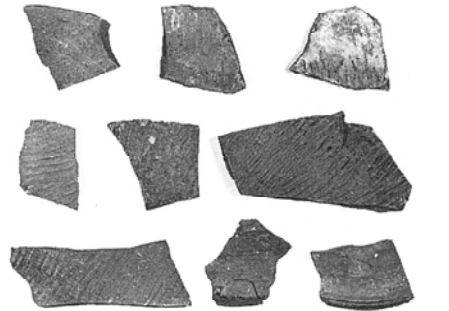
土層柱状図



T.T. 9 遺構検出状況（南から）



窯跡



出土遺物

図版51 山谷新田遺跡

(14) 山楯楯跡 (遺跡番号 2298)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山楯字北山

調査員 安部 実 伊藤邦弘

調査期日 B調査 平成元年11月27日～12月1日

遺跡の概要 遺跡はJR砂越駅の東方3.5km、山楯地区の丘陵端に立地する。平田川につながる山楯沢の右岸を中心としている。現在確認している最上段の曲輪から下段までの標高差は約85mを測る。最上段の標高は95mを測る。地目は山林、畑地、宅地となっている。

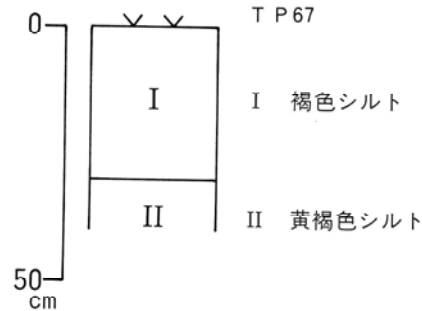
今回の調査は、国営農地開発事業鳥海南麓地区(第1号幹線道路A)との調整に資するために、行ったものである。

調査は事業実施予定地区に沿い169箇所の試掘を行った。その結果、試掘穴8・13で須恵器、赤焼土器が、67・145で越前系陶器が、91で珠洲系陶器が出土している。また、最上段の土塁から縄文土器が採集されている。石組みの井戸が2基確認されている。

これまで山楯楯跡の範囲は山中にある大平神社を含めた南側、南北200m、東西150mが遺跡範囲とされていた。しかし、今回の調査で縄張りの範囲確認調査を行ったところ、曲輪、帯曲輪、土塁、縦土塁、空堀、縦堀が山麓まで続く広大な中世城郭跡であることが判明した。現在までわかった範囲は、東西650m、南北500mである。



第38図 山楯楯跡位置図(S = 1:50,000)

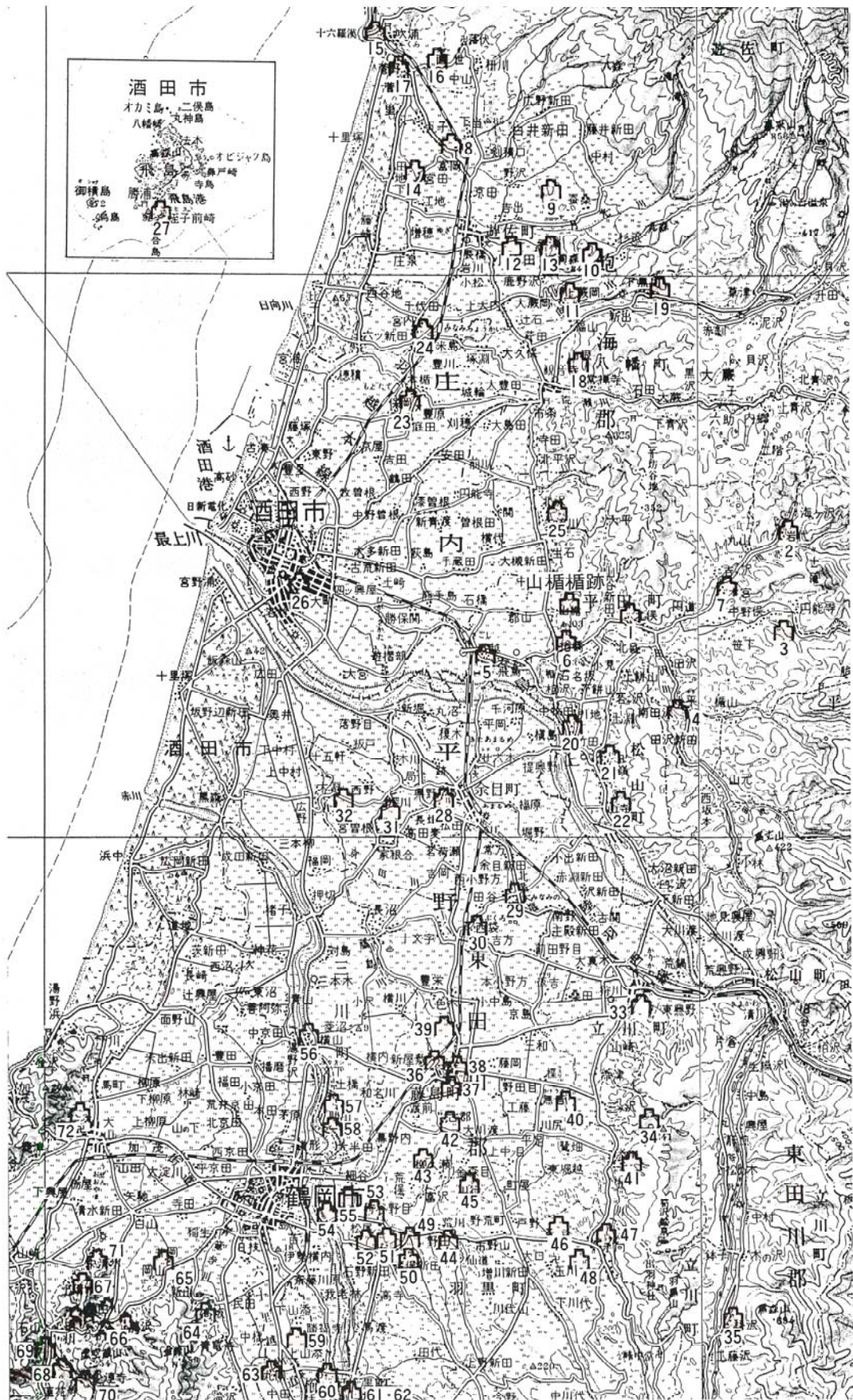


土層柱状図

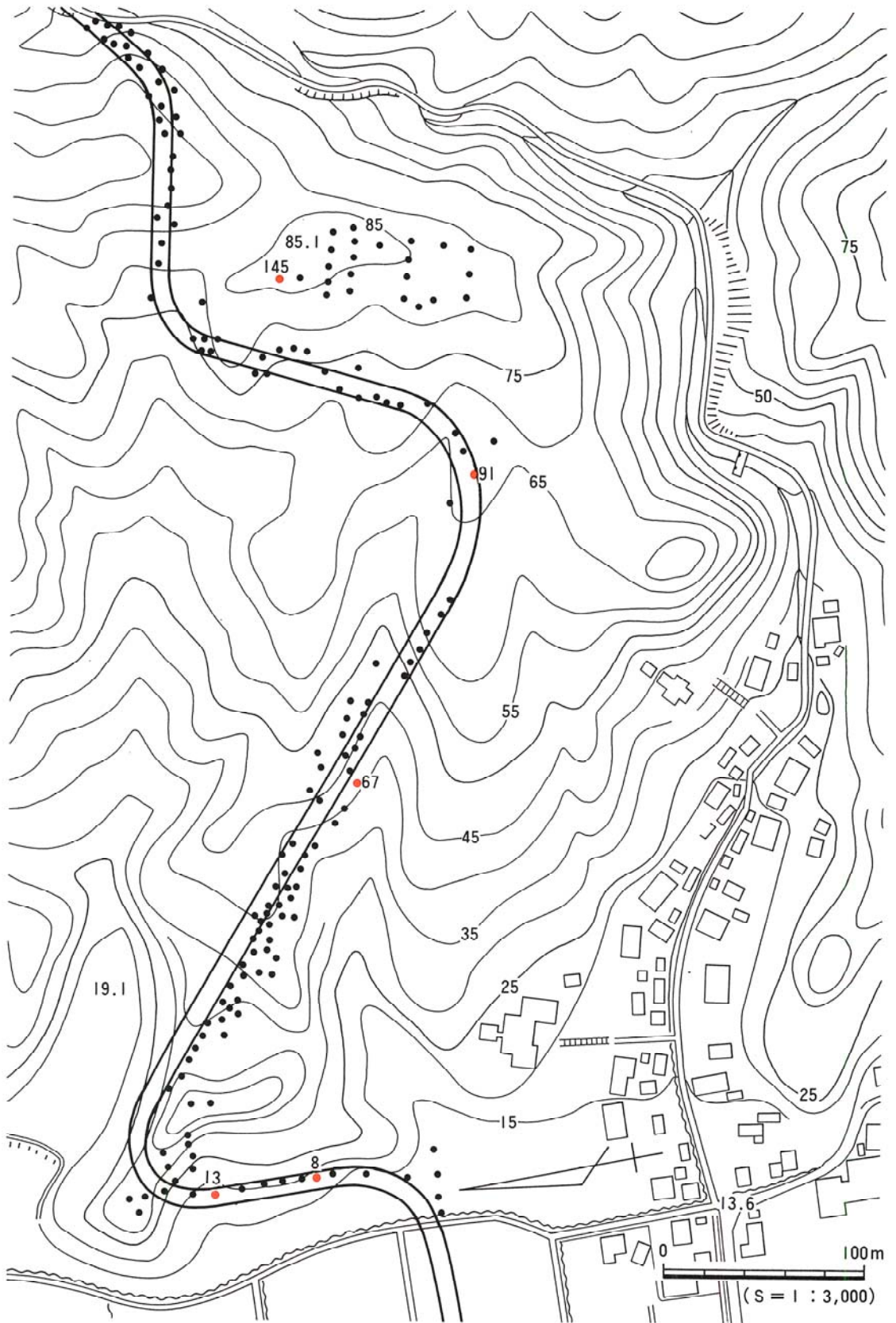
1 河内城	13 平津楯	25 朝日山城	37 法眼寺館	49 黒瀬館	61 黒川館
2 岩代城	14 宮田楯	26 亀ヶ崎城	38 藤島館	50 山館	62 黒川古館
3 進藤楯	15 吹浦楯	27 館岩館	39 平形館	51 五郎館	63 丸岡城
4 田沢楯	16 箕輪楯	28 余目城	40 関根館	52 松尾城	64 高坂館
5 砂越城	17 菅野城	29 廻館館	41 添川館	53 狩谷野目館	65 井岡城
6 楯橋館	18 観音寺城	30 西袋館	42 古郡館	54 赤川城	66 湯田川館群
7 本宮館	19 黒川館	31 宮曾根館	43 柳久瀬館	55 細谷城	67 柴館
8 北目楯	20 田尻館	32 金沼館	44 荒川館	56 横山城	68 田川城
9 野沢館	21 中山館	33 狩川城	45 谷地館	57 助川城	69 田川館
10 陣屋館	22 山寺館	34 前山館	46 薬師沢館	58 稻荷館	70 かもん館
11 蕨岡館	23 新田目城	35 立谷沢館	47 黒沢館	59 山添館	71 栗館
12 大楯	24 宮内楯	36 向館	48 中旬館	60 藤懸城	72 尾浦城

※遺跡名は、昭和53年発行の「山形県遺跡地図」を基本とし、一部「日本城郭大系」等を参考とした。

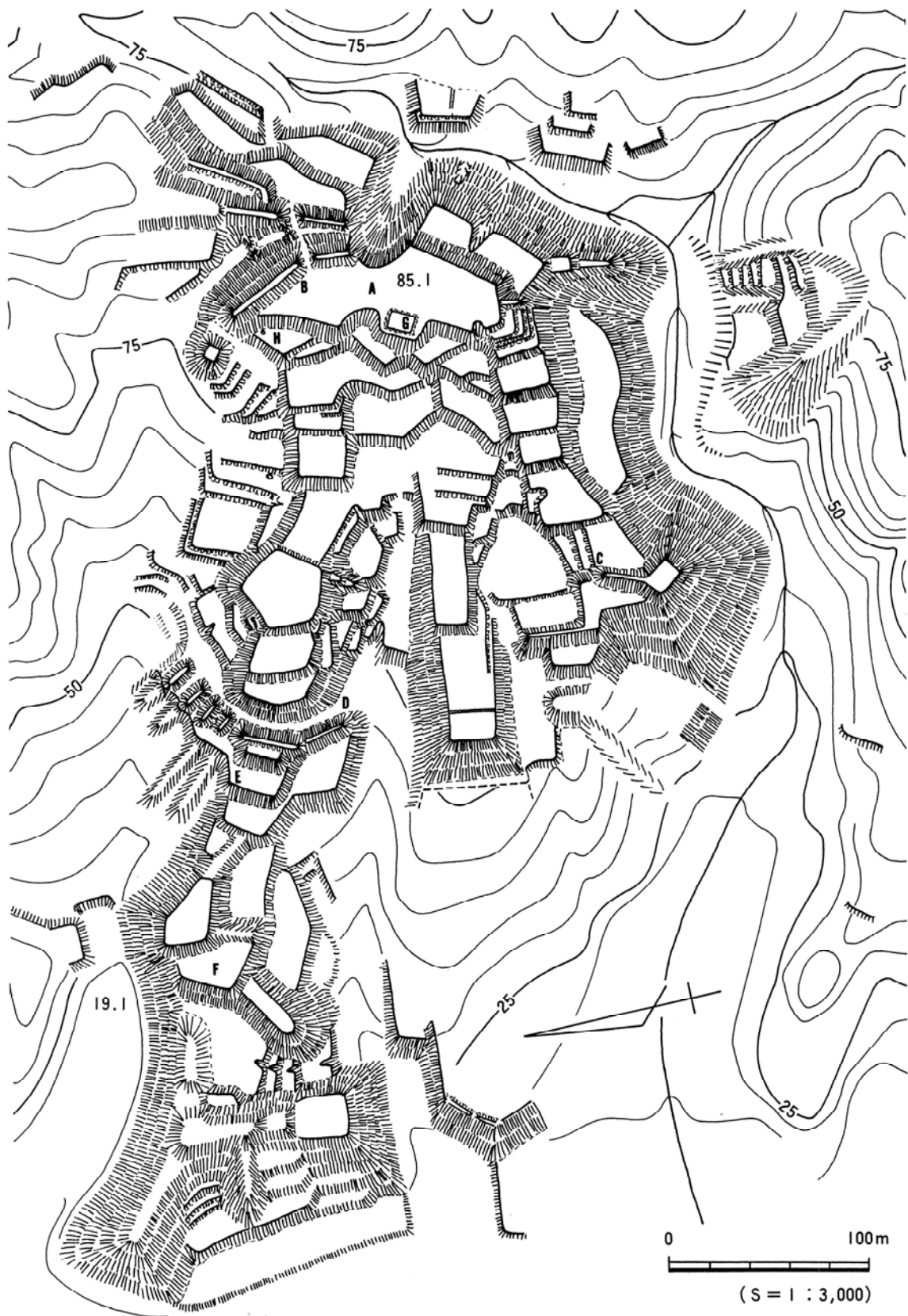
遺跡地名表



第39図 庄内地方の主な中世城館跡



第40图 山楯楯跡概要図



第41図 山楯跡繩張り概略図



主郭部全景 第41図(A) (北から)



主郭部土塁(B) (西から)



主郭部(A)より西望



南西側曲輪(C)より主郭部



遺跡近景（西から）



空堀①



曲輪②



曲輪③



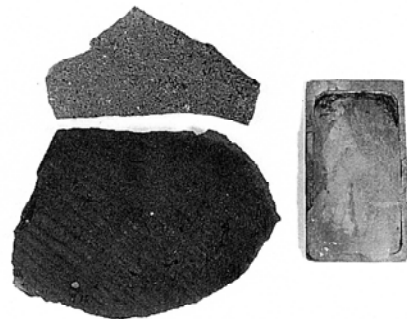
主郭部敷石④



井戸⑤



TP145 土層断面



出土遺物（越前系陶器・珠洲系陶器・硯）

(15) ^{じゅうくら}重倉遺跡 (平成元年度新規発見)

所在地 山形県飽海郡八幡町升田字重倉

調査員 名和達朗 阿部明彦 伊藤邦弘

調査期日 A調査 平成元年10月12日 B調査 平成元年10月23～27日

遺跡の概要 本遺跡は北青沢から升田に通じる町道のやや升田よりの所から谷川沿いに切られた林道を東方に約1kmほど上った山中に位置している。標高は344.5m前後を測り、地目は山林と原野である。今回の調査は国営農地開発事業鳥海南麓地区(重倉工区)における畑地造成など事業との調整に資する目的から実施したもので、事業実施予定地区内に総数で27箇所のテストピットおよび小トレンチを入れて行っている。なお、試掘区の設定は対象地域が山地かつ広大な面積であったことなどから、地形的な要因を考慮して、遺跡の存在が予想される山頂の平場あるいは緩い尾根など斜面を特に選択している。

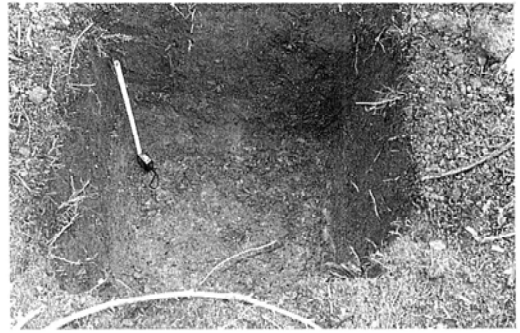
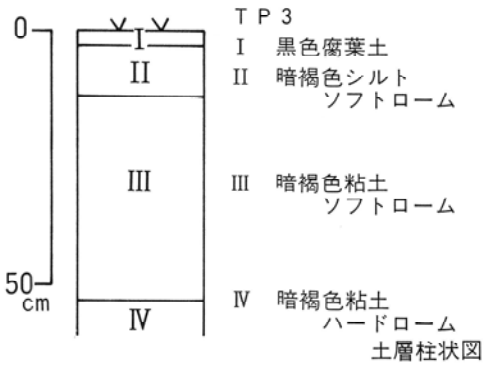
このうち、遺物の発見されたT1地点は、北側に緩く張り出す小さな尾根の裾部分で、遺物の出土状況ほかから小規模なキャンプサイトの性格が推定される。出土遺物は同一石材の頁岩製剥片9点であり、石器製作にかかわりがあるであろう。また、時期的には近代以降と判断できる8基の炭窯跡が確認され、谷に面した山裾を占地する立地状況および積石を基本とした窯構造などが良好に捉えられた。



第42図 重倉遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TP3 土層断面



炭 窯(31)



出土遺物

3 記録保存調査・立会調査の概要

(1) 仁田田遺跡 (遺跡番号 2112)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字仁田田163～165 外

調査員 名和達朗 阿部明彦 伊藤邦弘

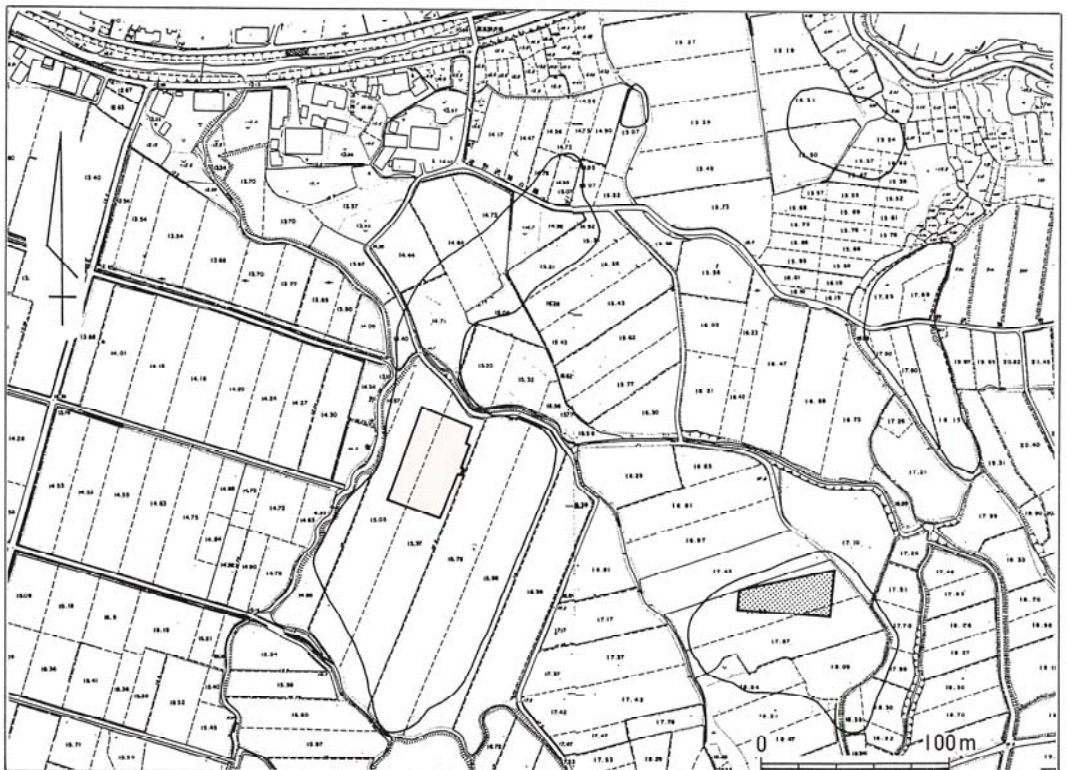
調査期日 C調査 平成元年7月3～14日

遺跡の概要 遺跡は、JR遊佐駅の北東2.5km、遊佐町野沢・舞台地区間の水田に位置する平安時代の集落跡である。地形は緩傾斜地を呈し、標高は15～16m前後を測る。遺跡範囲は、昭和62年度の分布調査から東西380m、南北360m 面積約31,200㎡が考えられる。

今回の調査は、平成元年度県営ほ場整備事業・月光川右岸地区の実施に伴い、行ったものである。まず、事業範囲に1×3mのトレンチを入れ、その結果を基に約1,500㎡について、重機による拡張及び手掘りによる面精査を行った。

検出遺構は、掘立柱建物跡5棟・土壌・溝跡である。建物跡は、SB1-2間×3間、SB2-3間×3間、SB5-2間×2間で、柱間距離は1.2～2.7mを測る。覆土は、灰色・青灰色～褐色の砂・細砂・シルトである。土壌は、大形と小形のタイプに分けられ、SK11から一括の赤焼土器、SK15では噴砂と考えられる帯状の砂がみとめられた。

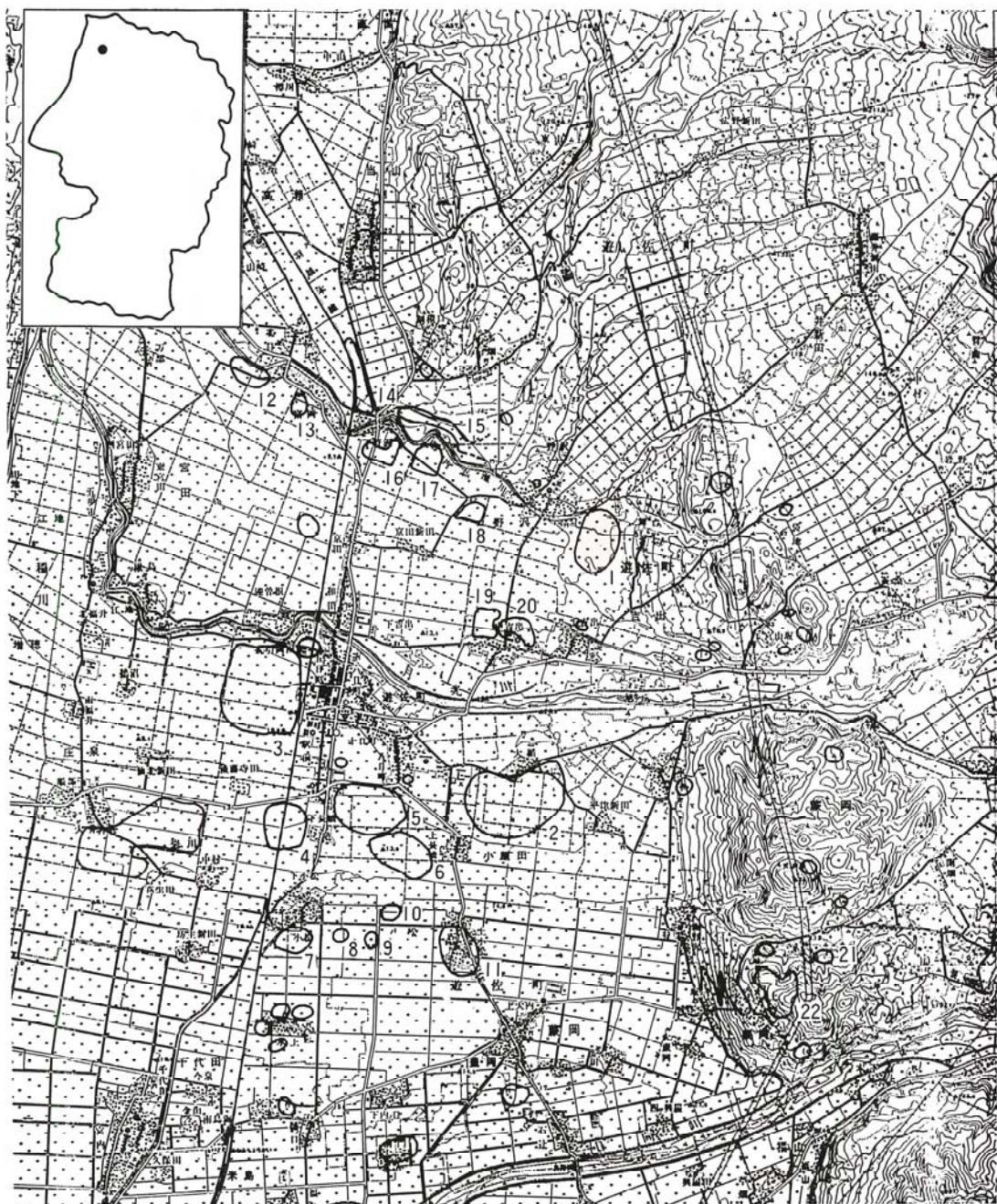
出土遺物は、土師器・須恵器・赤焼土器、砥石、磨製石斧(1点-縄文時代)である。



第43図 仁田田遺跡概要図

赤色網：平成元年度調査区

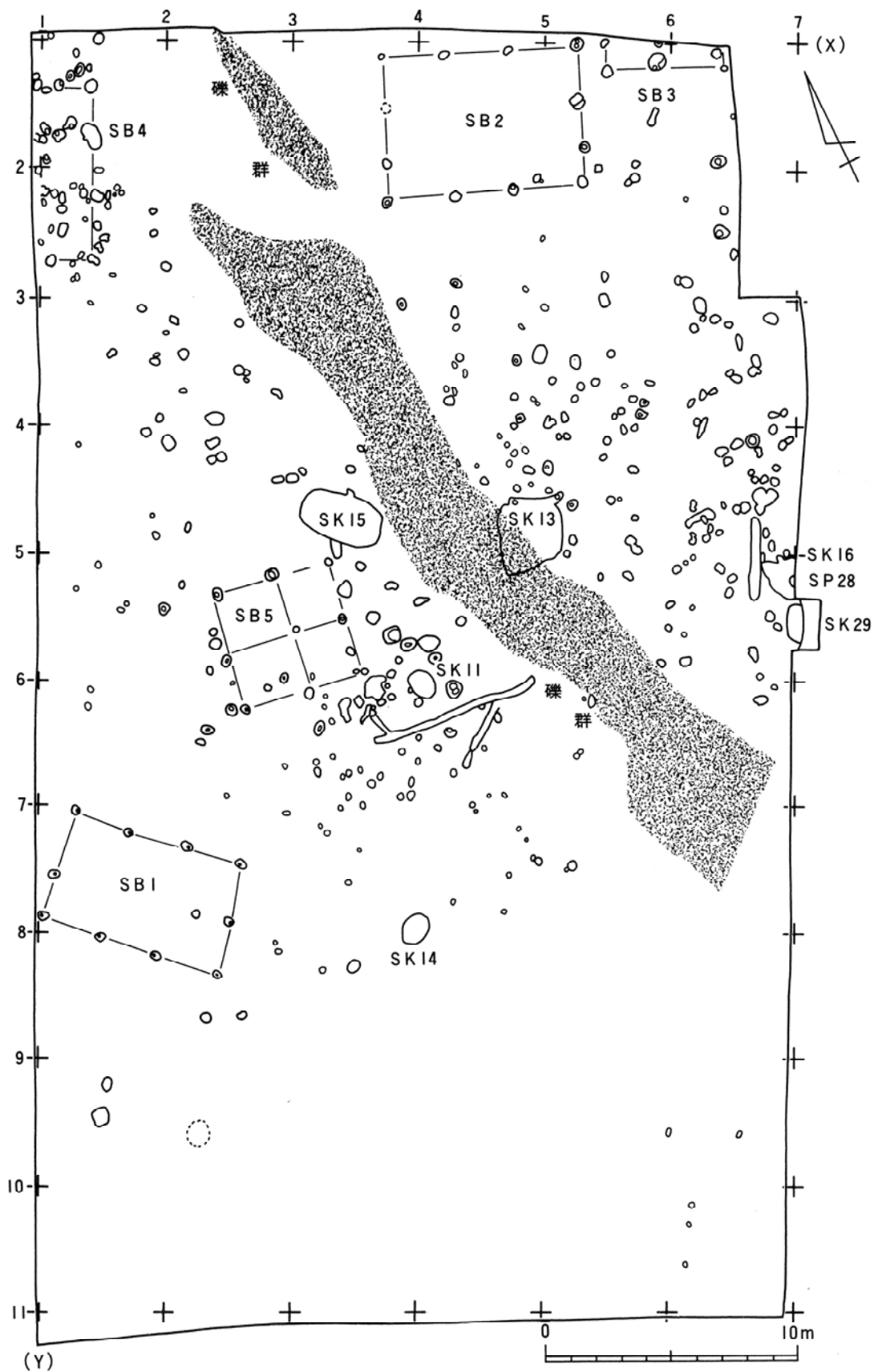
黒色網：昭和63年度調査区



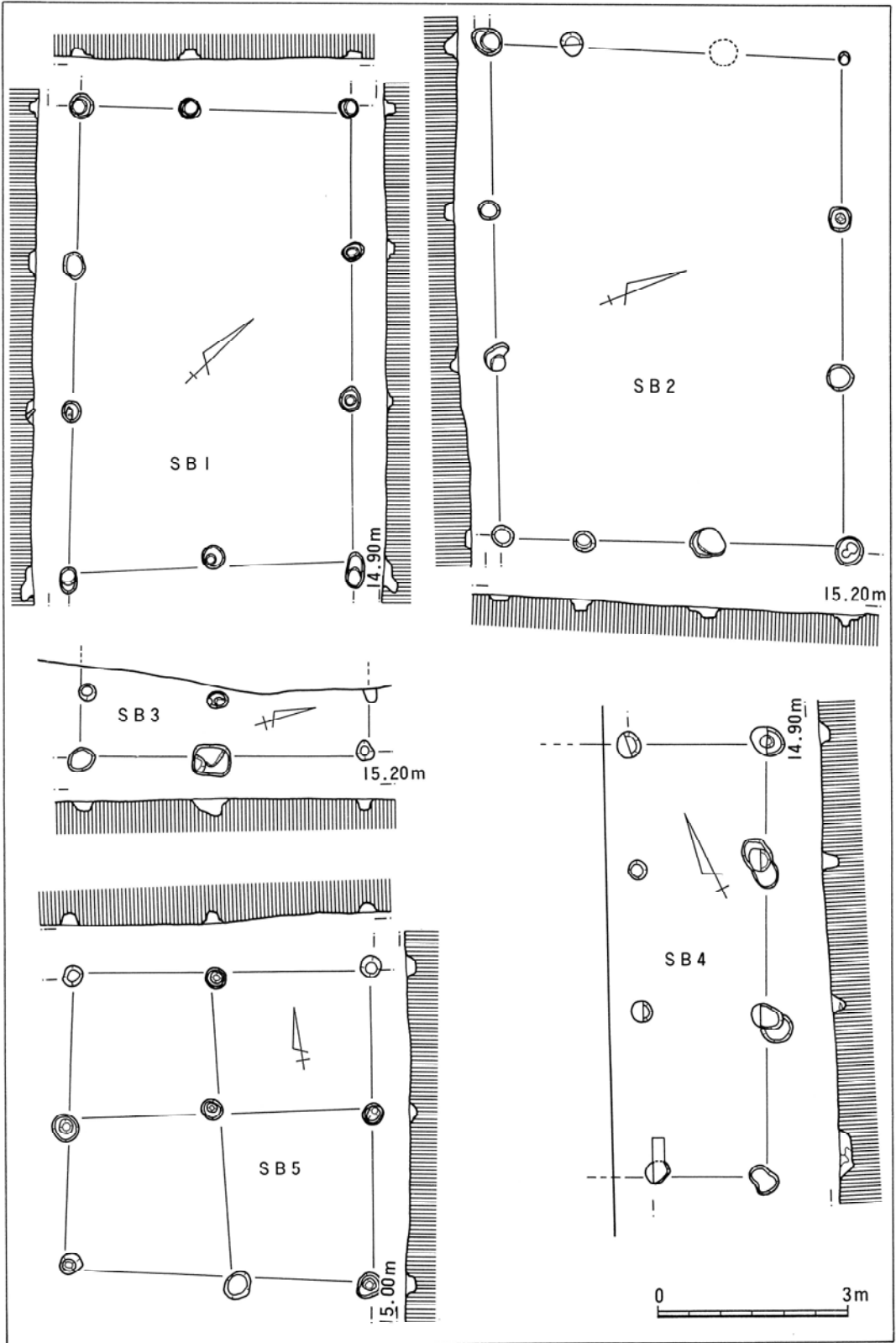
仁田田遺跡と周辺の遺跡

遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
1 仁田田遺跡	集落跡	縄文・平安末～鎌倉	12 木戸下遺跡	集落跡	平安末～鎌倉
2 大橋遺跡	城館跡	鎌倉	13 上高田遺跡	//	//
3 小深田遺跡	集落跡	平安	14 宮の下遺跡	//	縄文・平安
4 下長橋遺跡	//	//	15 道中A・B遺跡	//	//
5 浮橋遺跡	//	平安末～鎌倉	16 右田遺跡	//	平安
6 水尻遺跡	//	//	17 宅田遺跡	//	縄文・平安・鎌倉
7 前田遺跡	//	平安	18 大坪遺跡	//	平安
8 地正面遺跡	//	//	19 三田遺跡	//	平安・鎌倉
9 楯畑遺跡	//	平安末～鎌倉	20 袋冷遺跡	//	//
10 村前遺跡	//	//	21 堂林A遺跡	集落跡・塚跡	縄文
11 山道端遺跡	//	//	22 藤岡館跡	館跡	平安以降

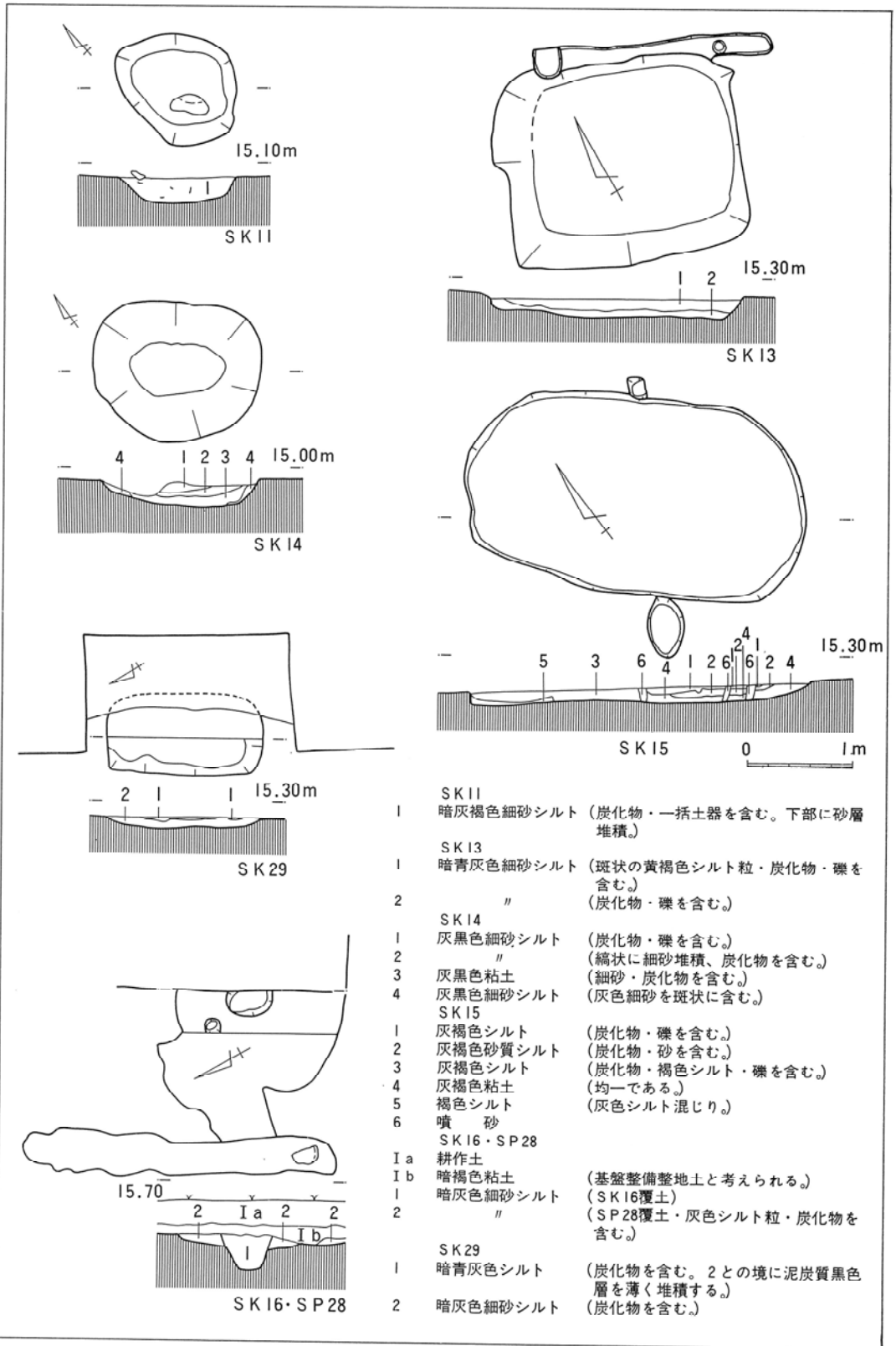
第44図 仁田田遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)



第45図 仁田田遺跡遺構配置図



第46図 仁田田遺跡建物跡



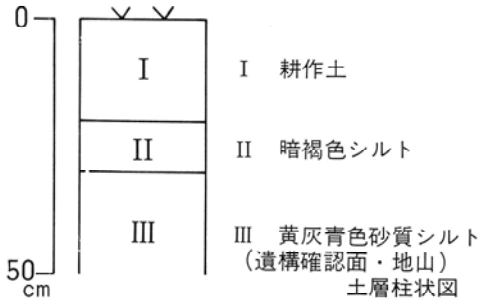
第47図 仁田田遺跡柱穴・土壌



遺跡近景（東から）



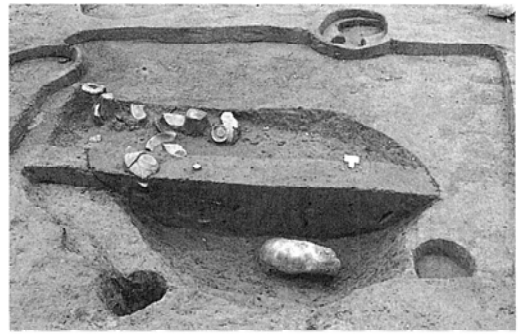
調査区全景（北から）



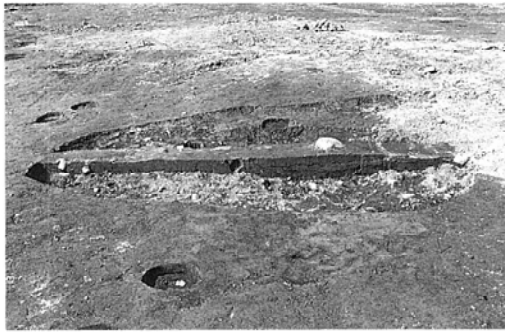
基本層序・SK16・SP28



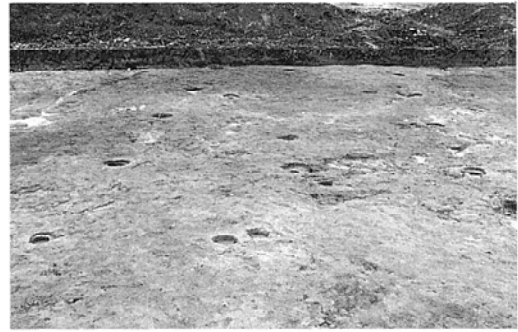
調査風景



SK11土壌

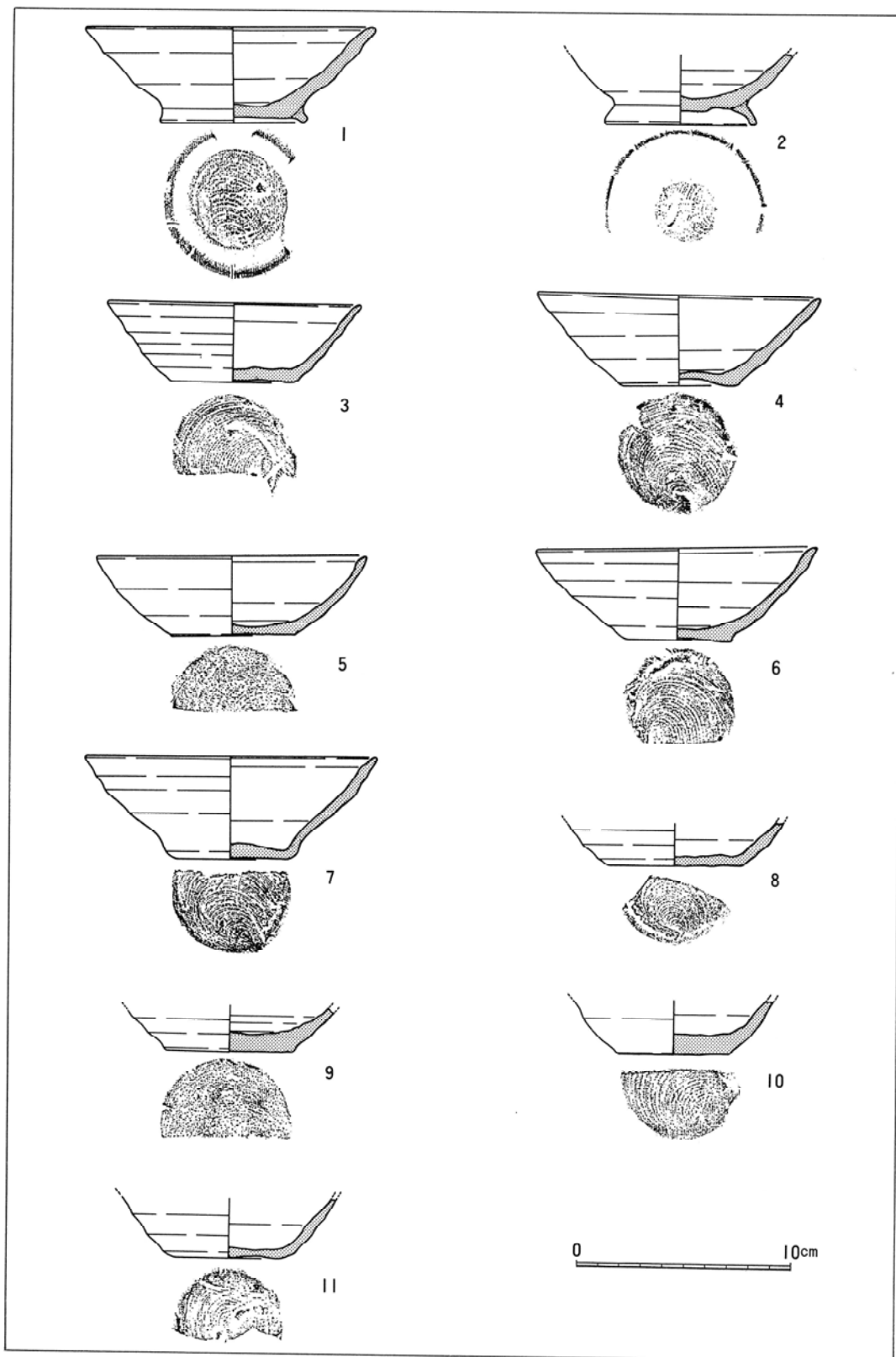


SK15土壌

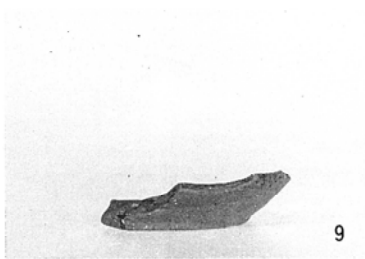
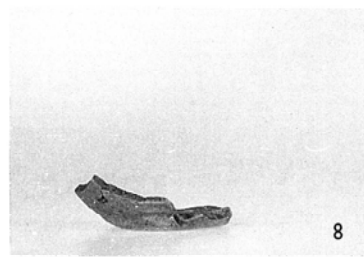
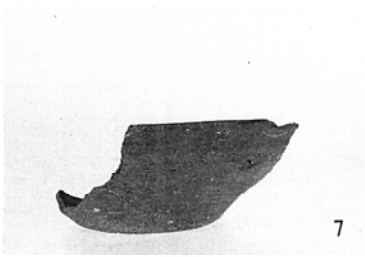
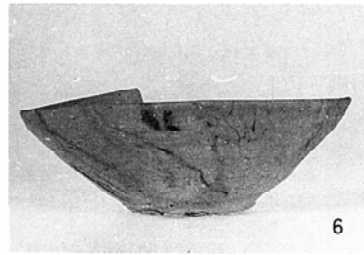
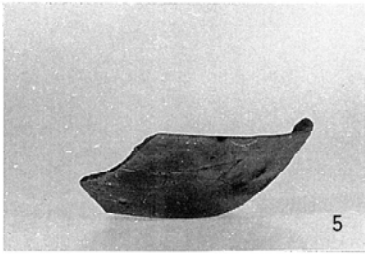
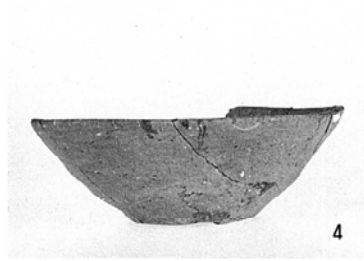
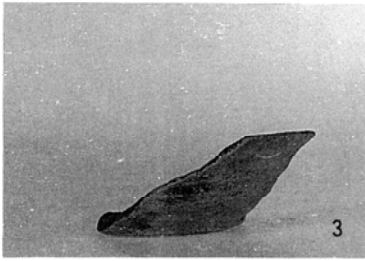


SB1建物跡

図版55 仁田田遺跡(1)



第48図 仁田田遺跡 S K II 出土土器実測図



图版56 仁田田遺跡(2)

(2) ^{おおつば}大坪遺跡 (遺跡番号 2110)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字大坪

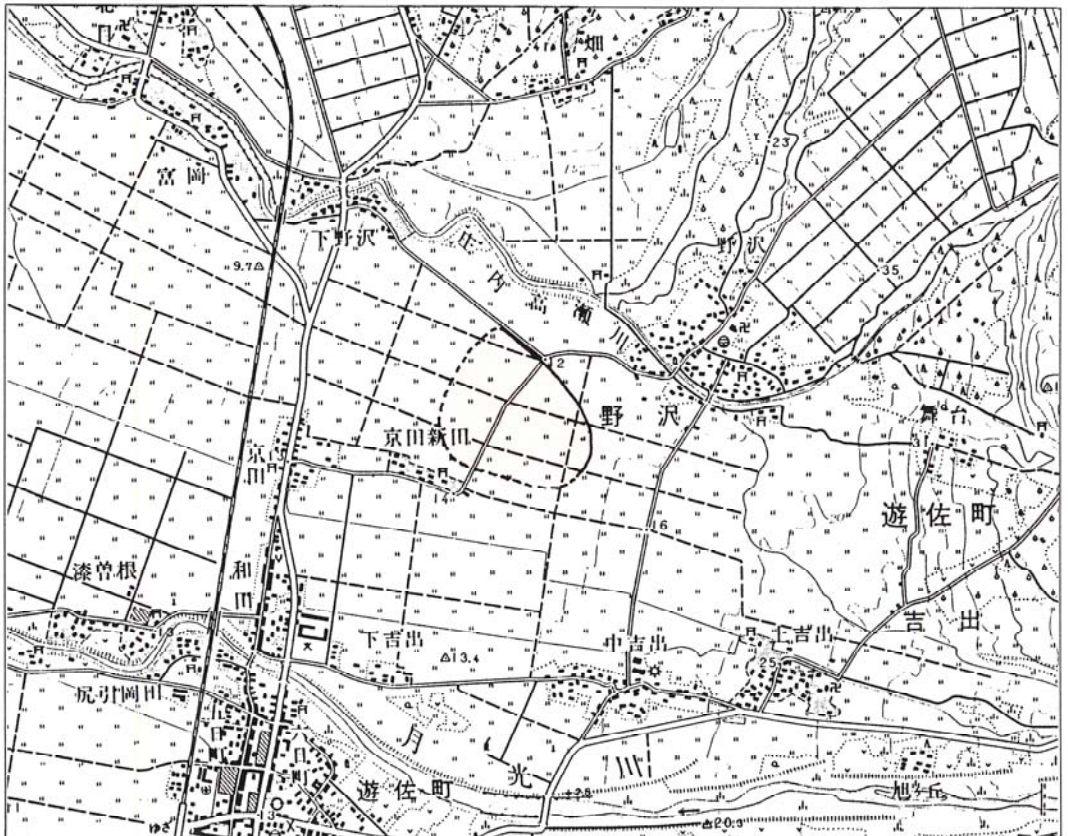
調査員 阿部明彦 伊藤邦弘

調査期日 B調査 平成元年10月17日 立会調査 平成元年11月6日～11月17日

調査の概要 遺跡はJR東日本羽越本線遊佐駅の北東方向約2km、野沢部落の南西部に東西、南北ともに約300mほどの規模で広がる平安時代の集落跡である。高瀬川左岸の自然堤防上に立地し、標高は約13mを測る。

当遺跡は県営は場整備事業(月光川右岸地区)との関連から、昭和63年12月に遺跡詳細分布調査(B)の実施された経緯があり、遺跡規模や遺物包含層の有無ほか概要がほぼ判明していた。今年度も上記関連の補足的な分布調査(B)、及び広域農道に関する分布調査(B)が10月段階に行われ、主として遺跡域東半部分のデータが集められた。

今回の立会調査は、遺跡のほぼ中央東寄りに広域営農団地農道整備事業(庄内東部Ⅲ期)が縦断する形で実施されることを契機とし、急拠その調整に資する目的で実施したものである。調査は遺構・遺物の集中する地域(幅4m、長さ400m部分)を対象とし、計画法線に沿ったトレンチ(幅4m、長さ40m・64m)2本を5mグリッドで区切って行って精査している。その結果、トレンチ南寄りの部分に遺構・遺物の集中が認められた。



第49図 大坪遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)



遺跡遠景（北西から）



調査風景（南から）



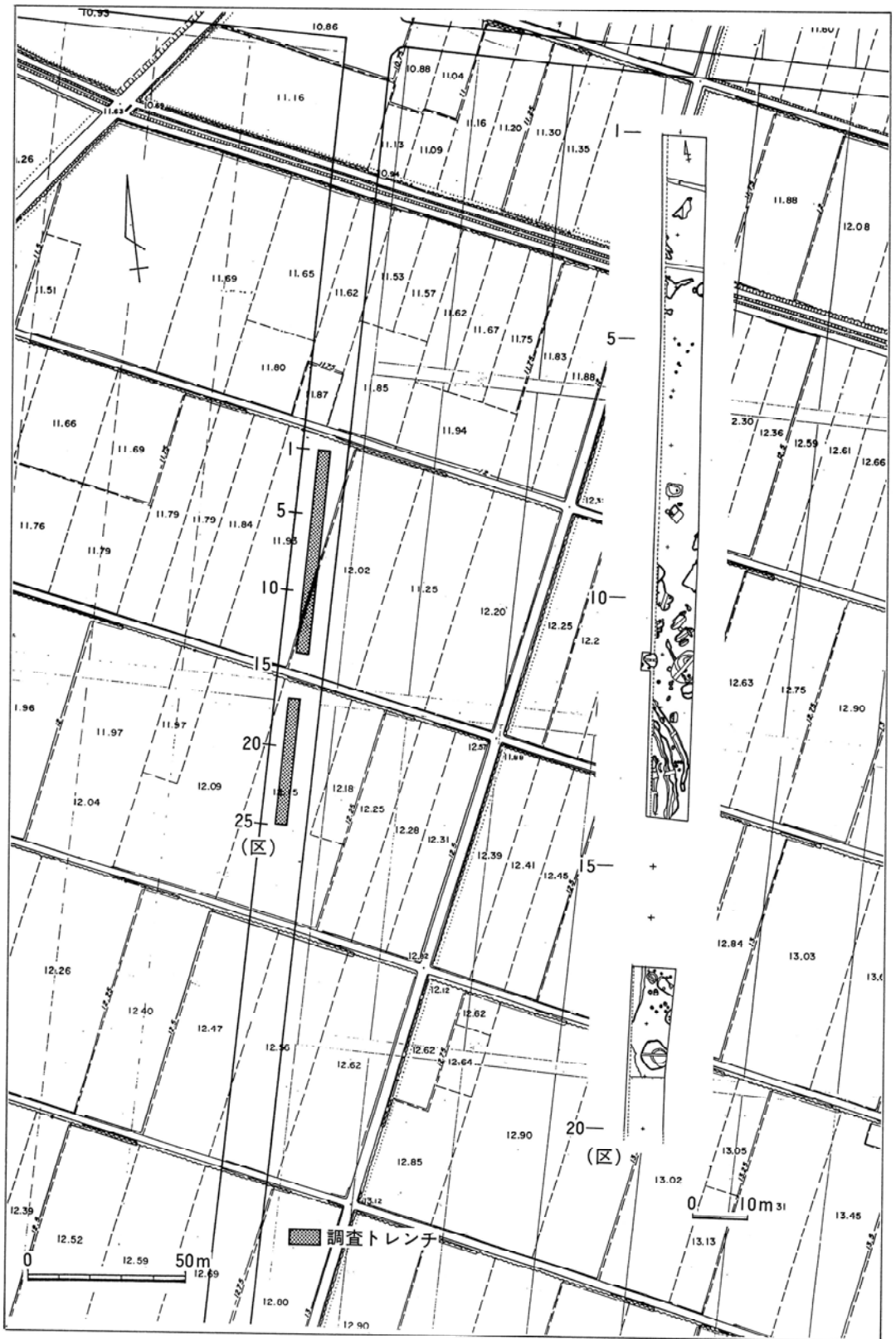
調査風景（北西から）



調査風景（南東から）



調査風景（南西から）



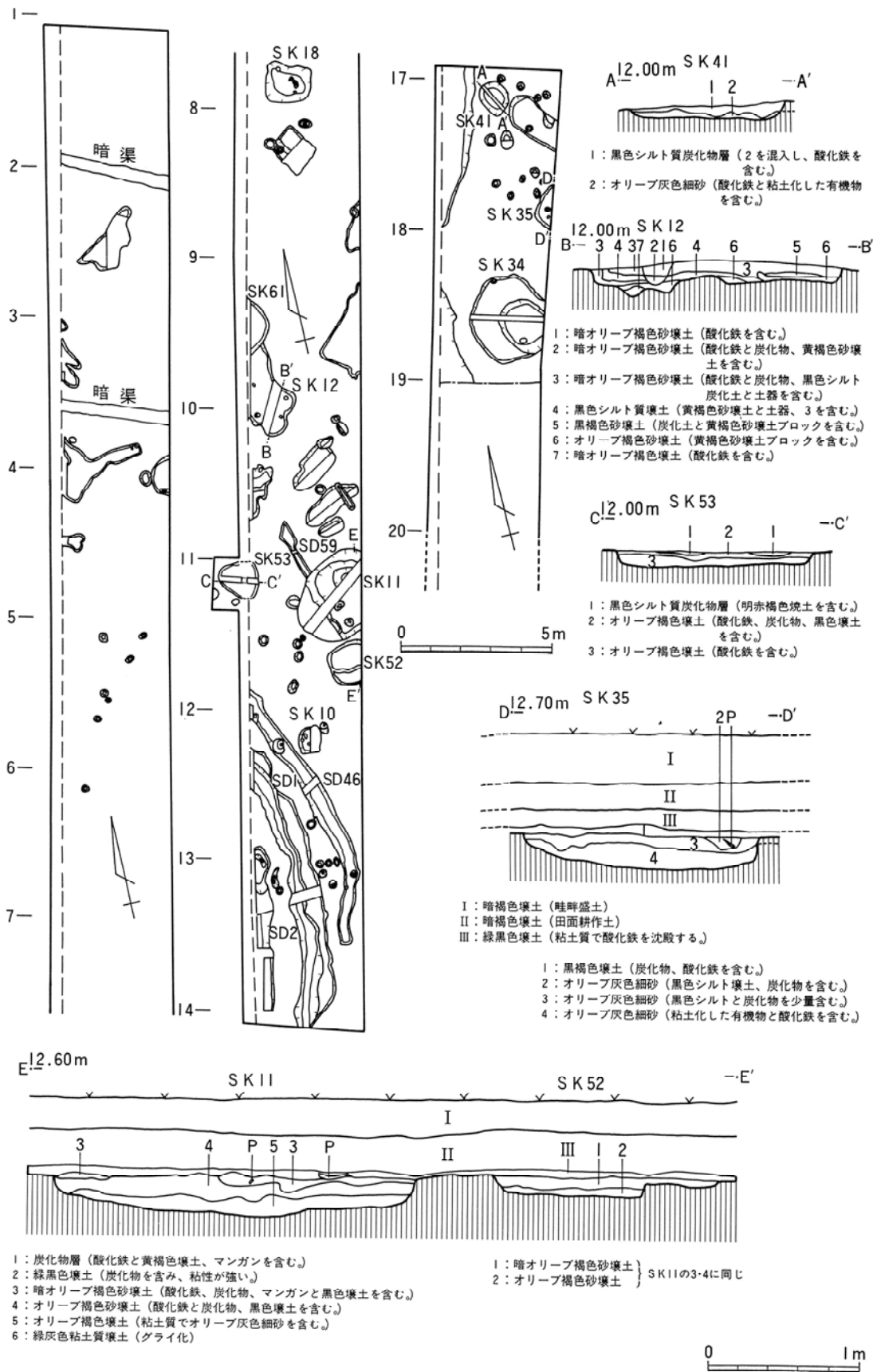
第50図 大坪遺跡概要図

検出遺構 今回の調査によって検出した遺構は、ⅢないしⅣ層上面で確認されるが、明瞭な土色変化や土質の違いがみられなかったため未確認の遺構もあると考えられる。確認できた遺構の多くは僅かな土色変化と炭化物の広がりによるものである。また、調査区は幅4 m・長さ104 mについてであり、遺跡範囲としてとらえている中の部分的なものであることから、遺構全体を把握できたものは多くないといえる。遺構の分布は、調査区北側と南側が泥炭地になることもあり、中央部に集中する傾向がみられる。その内容は、土壇20基、溝5条、ピット45基の他に性格不明の落ち込みが数基確認される。なおピット群が多数検出されていることから、掘立柱建物跡の存在は十分に考えられるが、今回の調査においては建物跡を構成するには至らなかった。遺構別にみていくと、土壇はS K 41・S K 53のように径1 m前後の円形あるいは楕円形を呈するものが大半を占めるが、中にはS K 11・S K 34のように径3 m前後を測る大型の土壇もみられる。それらは規模にかかわらず浅く10~30cmの深さを測るのみである。層序はS K 12を除き単純な自然堆積としてとらえることができる。S D 1・2・46等の溝跡は一様に浅く、U字形の断面を呈する。ピットは径20~50cmの円形のもが主流である。

これらの遺構は、溝跡が南東から北西への方向性が認められるのを始め、遺構全体の分布状況も例外でないことから、遺跡全体の方向性を示すものと考えることができる。



遺構掘り下げ状況（南から）



第51図 大坪遺跡遺構配置図



調査区北側全景（南西から）



SK 11・52・53土壌（北から）



SD 1・2・46溝跡（南から）



SK 11土層断面（北西から）



SK 34・35・41土壌（北から）

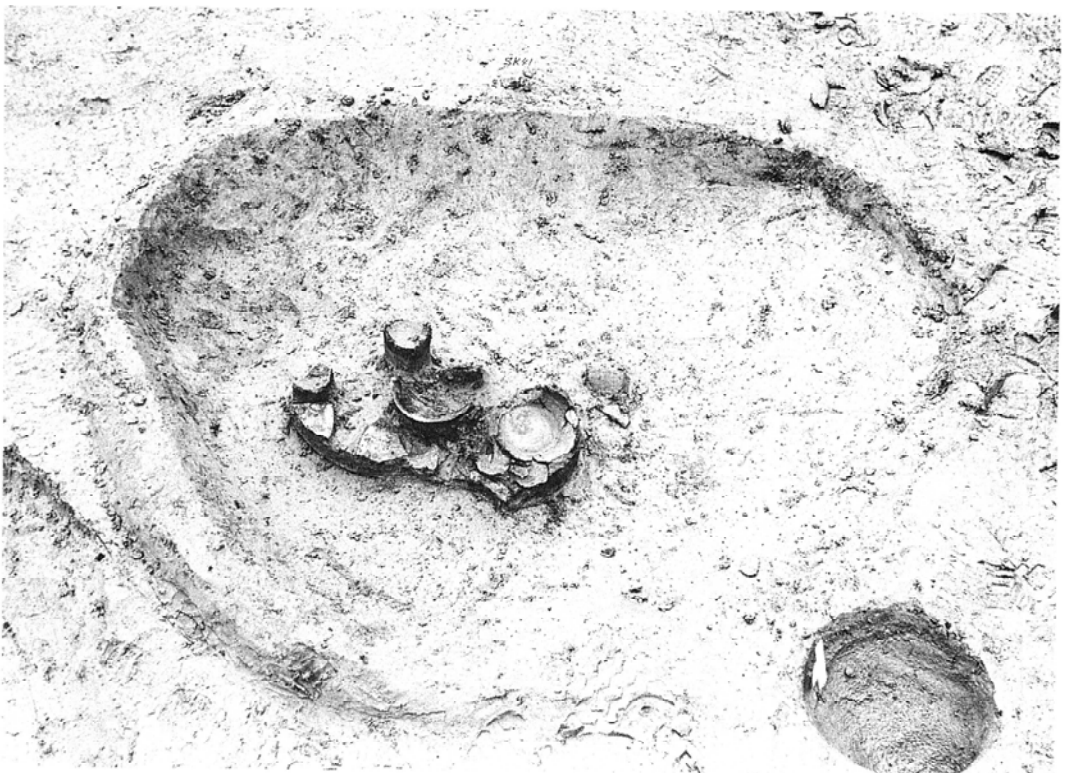
図版59 大坪遺跡(3)

出土遺物 遺物は概ね遺構の分布状況に対応する出土傾向を示し、主としてトレンチ中央から南側で多く認められた。また、土壌などの特定な遺構内出土遺物以外は、大方が包含層(基本層序Ⅲ)からのものである。なお、遺物量は整理箱にして3箱ほどであり、その種別は赤焼土器を主として、若干の須恵器・内黒土師器からなっている。以下に概略を記す。

須恵器は坏・壺・甕などの器種が認められた。器種毎の数量では性質上の特徴もあってか甕の体部資料が幾分多いとみなせるほかはいずれも僅少で、状況的に昭和63年に調査された東1kmに隣接する仁田田遺跡の様相に相通ずるところが窺える。なお、坏には底部の切り離しに回転糸切りと回転ヘラ切りのものがあり、より前者が多いと思われた。異地点ないし重複して先行する時期の集落等遺跡の存在が想定される。

赤焼土器は供膳具の坏・皿、煮沸具の埵・甕類を器種の主体とし、出土遺物総数の約9割方を超える分量がある。坏はほぼ無台のものに限られ、口径12cm内外・高さ4・5cm前後の規格的なものが大半で、底部の切り離しは回転糸切り無調整である。甕は大形の長胴丸底形態(下半を叩き締める)とロクロ整形のみの小形甕とがあり、前者が目立つ。

内黒土師器は坏一器種のみであり、内面と口縁部外面付近にミガキ調整が観察される。法量的に赤焼土器の坏に近似し同様に糸切り離し、無台となる。量は僅少であった。



遺物出土状況 (SK41)



あかやき土器坏

あかやき土器甕・坏



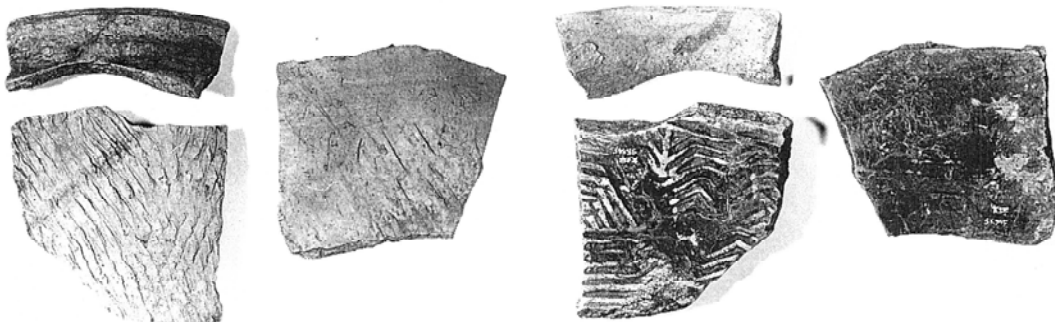
須恵器壺・あかやき土器坏

内黒土師器 坏



あかやき土器甕・塀

同左 裏面



あかやき土器甕

同左 裏面

(3) 前田遺跡 (遺跡番号2004)

所在地 山形県酒田市大字庭田字正田 外

調査員 渋谷孝雄

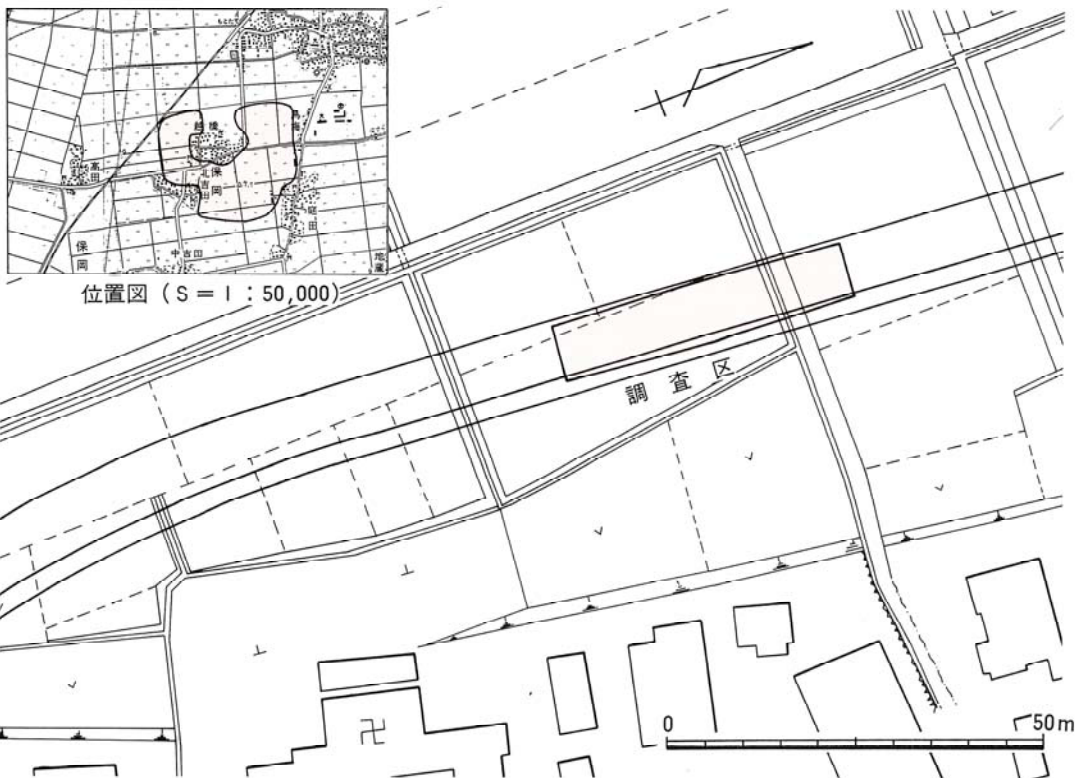
調査期日 C調査 平成元年10月16～20日

調査の概要 本遺跡はJR羽越本線本楯駅の南東約1kmに位置し、標高7m前後の水田地帯に立地する。昭和62年秋の試掘調査によって東西約1,500m・南北約750mにわたって遺構や遺物が検出され、遺跡の範囲も大きく広がった。昭和63年度には庄内地区農村基盤総合整備パイロット事業に伴い、破壊を免れない排水路敷について、酒田市教育委員会によって緊急発掘調査が行われ、平安～室町時代の遺構や遺物が検出された(酒田市教委 1989)。

この度、遺跡内で県道酒田・遊佐線の建設事業が行われることとなり、昭和63年10月に試掘調査を実施した結果、工事着工前に再度詳細分布調査を行い記録で残すことになったため、今回の調査が行われた。調査対象地区は昨年度の試掘調査によって遺構や遺物が発見された場所で、幅7.4m・長さ40mの調査区を設定して調査を進めた。

検出遺構 土壌14基、溝跡3条、性格不明の落ち込み1基他が検出された。これらの遺構群は、すべて中世のものと考えられ、古代のものはない。以下、その概要を記す。

SD 1:10-10区～16-11区まで延長33mにわたって検出した。幅は1～3m、深さ10cm前



第52図 前田遺跡概要図

後で、播鉢片や古銭・下駄等が出土した。

S K 2 : 10-10区で検出した。径120cm・深さ114cmの土壌で、確認面から37cmの深さの所で下駄や部材、片口鉢等が出土した。

S K 3 : 西部は調査区外へと延びるが、長径380cmほどの不整形形のプランとなり、確認面からの深さは48cmである。堆積土は7層に分けられ最下層から杓子・青磁が出土した。

S K 4 : 径185cm前後の不整形形のプランをもち、確認面からの深さは140cmを測る。堆積土は6層に分かれ、5層から曲げ物のひしゃくが出土した。

S K 5 : 長径61cm・短径50cmの楕円形プランをもち、西と東で一部袋状となる。篋が出土。

S K 6 : 径90cmの略円形のプランで、深さ62cmを測る。柱目板材が出土した。

S K 7 : 開口部の長径84cm・短径64cm、中ほどですばまり、一部袋状となる深さ74cm。

S K 8 : 径80cm前後の略円形プランで深さは62cmを測る。漆器碗・曲げ物の残片等が出土。

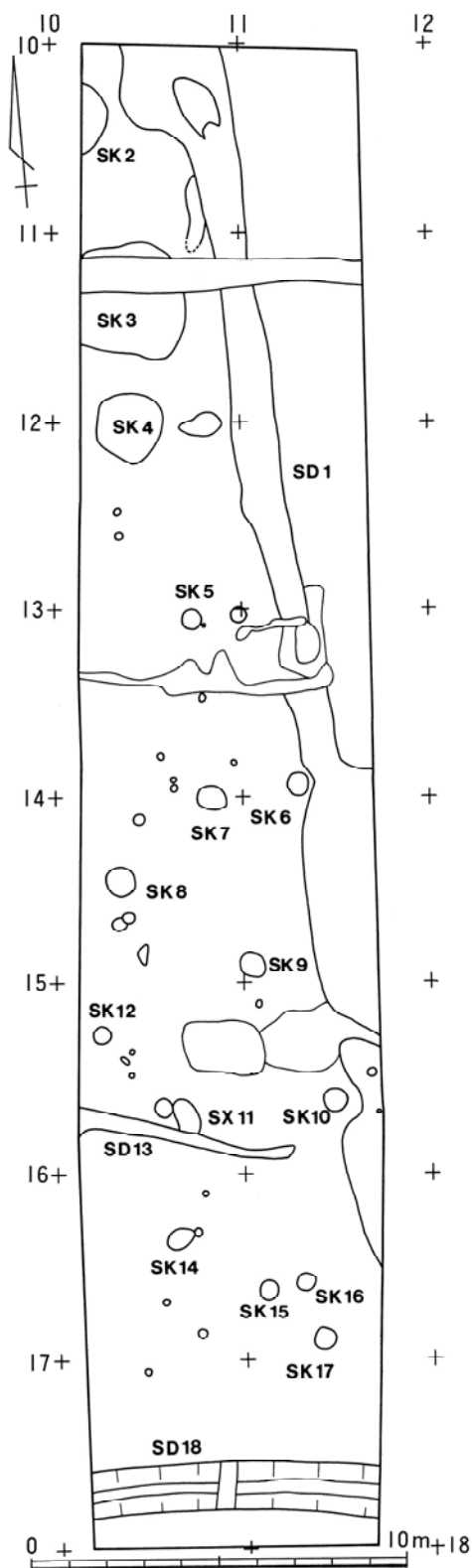
S K 9 : 長径75cm・短径64cmの楕円形プランで、確認面からの深さは11cmを測る。

S K 10 : 径60cm前後の略円形プランで、深さは11cm。堆積土はS K 9と同じ有機物を含む黒色シルト層である。曲物の底板が出土した。

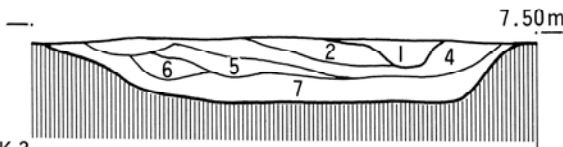
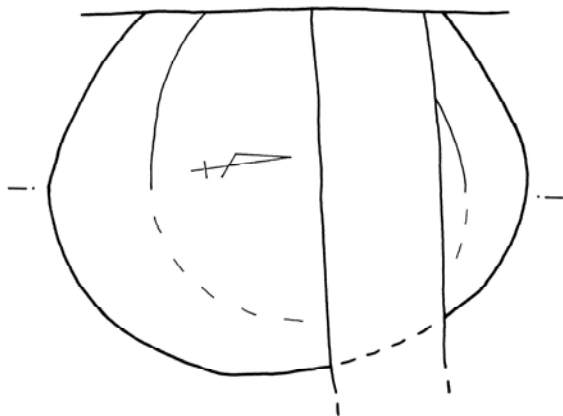
S X 11 : 長径100cm・短径58cmの楕円形プランで深さは21cm。堆積土は黒色シルト。S D 13に切られる。

S K 12 : 径50cmの円形プランで、深さは54cm。全周で袋状となる。

S D 13 : ほぼ東西方向に走る溝で幅は21~44cm。深さは8~23cmである。

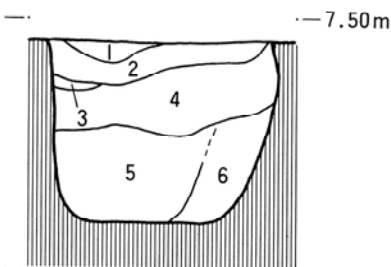
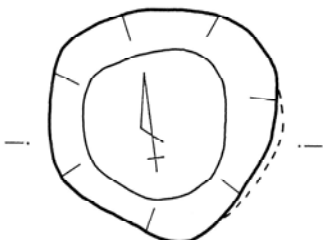


第53図 前田遺跡遺構配置図



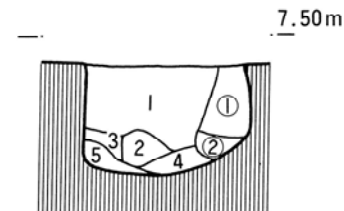
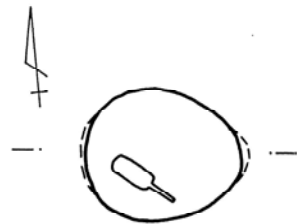
SK 3

- 1 10YR 7/4 褐色粘土 (稲わら等混入)
- 2 10YR 1.5/4 黒色シルト質粘土(7.5GY 5/4 暗緑灰色粘土ブロックを若干含む)
- 3 10YR 1.5/4 黒色シルト (木灰を大量・籾殻を含み、2層より黒い)
- 3 10YR 3/2 黒褐色シルト質粘土 (鉄分が付着する)
- 5 7.5GY 5/4 緑灰色粗砂 (10YR 1.5/4 黒色木灰質シルトを帯状に含む)
- 6 10YR 3/2 オリーブ灰色細砂質粘土(2の基本土のブロックを含む)
- 7 10YR 3/4 オリーブ黒色シルト質粘土(有機物を多量含む、杓子出土)



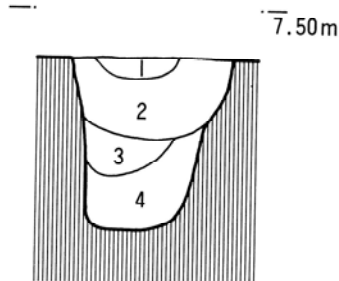
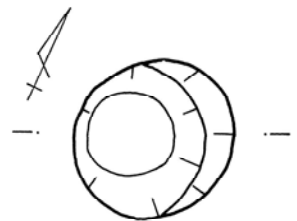
SK 4

- 1 10YR 1.5/4 黒色シルト (2層の大ブロックを含む)
- 2 2.5Y 3/4 黒褐色シルト質粘土(7.5GY 5/4 緑灰色粘土のブロック含む)
- 3 7.5GY 5/4 緑灰色粗砂 (粘土が混じり合う)
- 4 10YR 3/2 黒褐色シルト質粘土(3層の粘土ブロックを多量霜降り状に含む)
- 5 7.5GY 5/4 緑灰色粘土(曲げ物・ひしゃく出土)
- 6 7.5GY 3/4 暗緑灰色粗砂



SK 5

- 1 10YR 1.5/4 黒色シルト (黒褐色粘土ブロックを含む。木灰を大量含み柔らかい)
- 2 7.5GY 5/4 緑灰色粘土
- 3 1と2が混じり合う層
- 4 10YR 3/4 黒色シルト (2の粘土の小ブロック・木灰を多量含む)
- 5 10YR 1.5/4 黒色シルト (木灰を多量含む。1層とほぼ同じ 筥出土)
- ① 2.5Y 3/4 黒色粘土シルト (褐色粘土・緑灰色粘土ブロックを斑状に含む)
- ② 7.5GY 3/4 暗緑灰色粗砂、7.5GY 5/4 緑灰色粘土、10YR 1.5/4 黒色シルトの三者が混り合う。

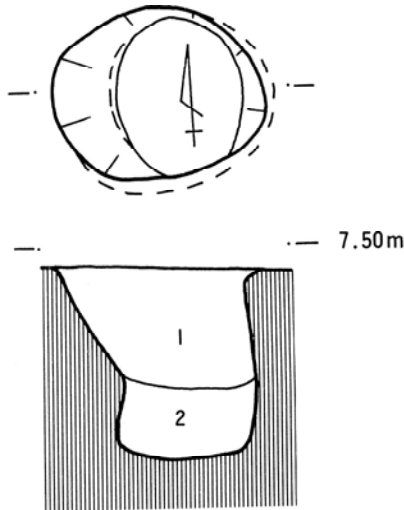


SK 6

- 1 10YR 1.5/4 黒色シルト
- 2 10YR 1.5/4 黒色シルト (自然遺物の堆積層、灰色粘土を1%含む)
- 3 7.5YR 3/2 黒褐色シルト (自然遺物を50%含む)
- 4 7.5YR 1.5/4 黒色シルト (自然遺物を50%含む)

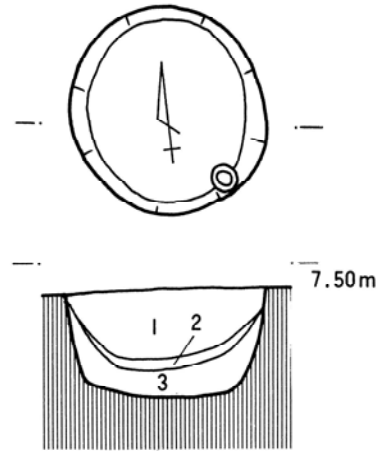


第54図 前田遺跡検出遺構(1)



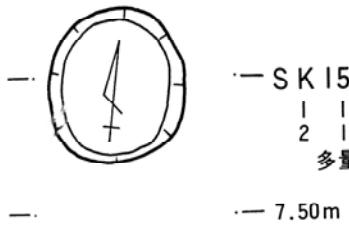
SK 7

- 1 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト (5GY $\frac{1}{4}$ オリーブ灰色粘土をまばらに2%含む。木灰をブロック状に含む。)
- 2 10YR 2 $\frac{1}{2}$ 黒色シルト (自然遺物を含む。)



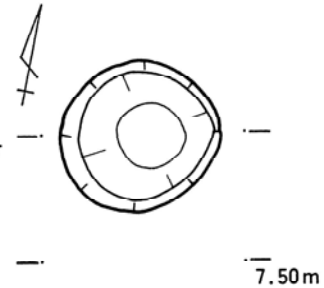
SK 8

- 1 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト (黄褐色粘土をライン状に40%含む。オリーブ灰色粘土ブロックを下部に若干含む。)
- 2 10YR 2 $\frac{3}{2}$ 黒褐色土 (自然遺物を多量含む。柔らかい。)
- 3 5G 2 $\frac{1}{2}$ 緑黒粘土 (自然遺物を多量含む。木椀出土)



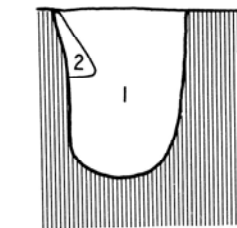
SK 15

- 1 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト
- 2 10YR 2 $\frac{3}{2}$ 黒色シルト (自然遺物を多量含む。)



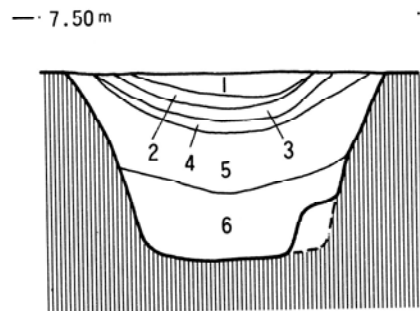
SK 17

- 1 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト
- 2 5Y 3 $\frac{1}{2}$ オリーブ黒色シルト (灰色粘土がまばらに含む。自然遺物を多量含む。)
- 3 7.5Y 2 $\frac{1}{2}$ 黒色シルト



SD 18

- 1 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト (木灰を多量含む。)
- 2 10YR 3 $\frac{3}{2}$ 暗褐色有機物層
- 3 10YR 1 $\frac{1}{4}$ 黒色シルト (緑黒色粘土を糸状に含む。)
- 4 10YR 2 $\frac{3}{2}$ 暗褐色有機物層 (木製品、木の枝を含む。)
- 5 7.5GY 3 $\frac{1}{2}$ 暗緑灰色粘土 (緑灰色粘土ブロックを含む。)
- 6 7.5GY 2 $\frac{1}{2}$ 緑灰色粘土 (暗緑灰色粘土ブロックを含む。)





遺跡近景（南西から）



調査区全景（北から）



SK 3 土層断面 (西から)



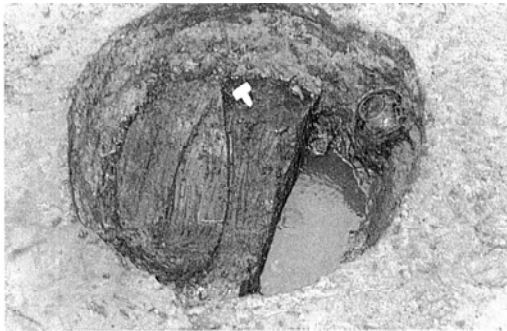
杓子 SK 3 (南から)



曲物ひしゃく SK 4 (南から)



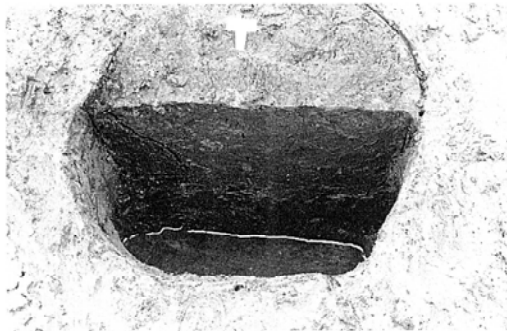
へら SK 5 (南から)



SK 8 遺物出土状況 (西から)



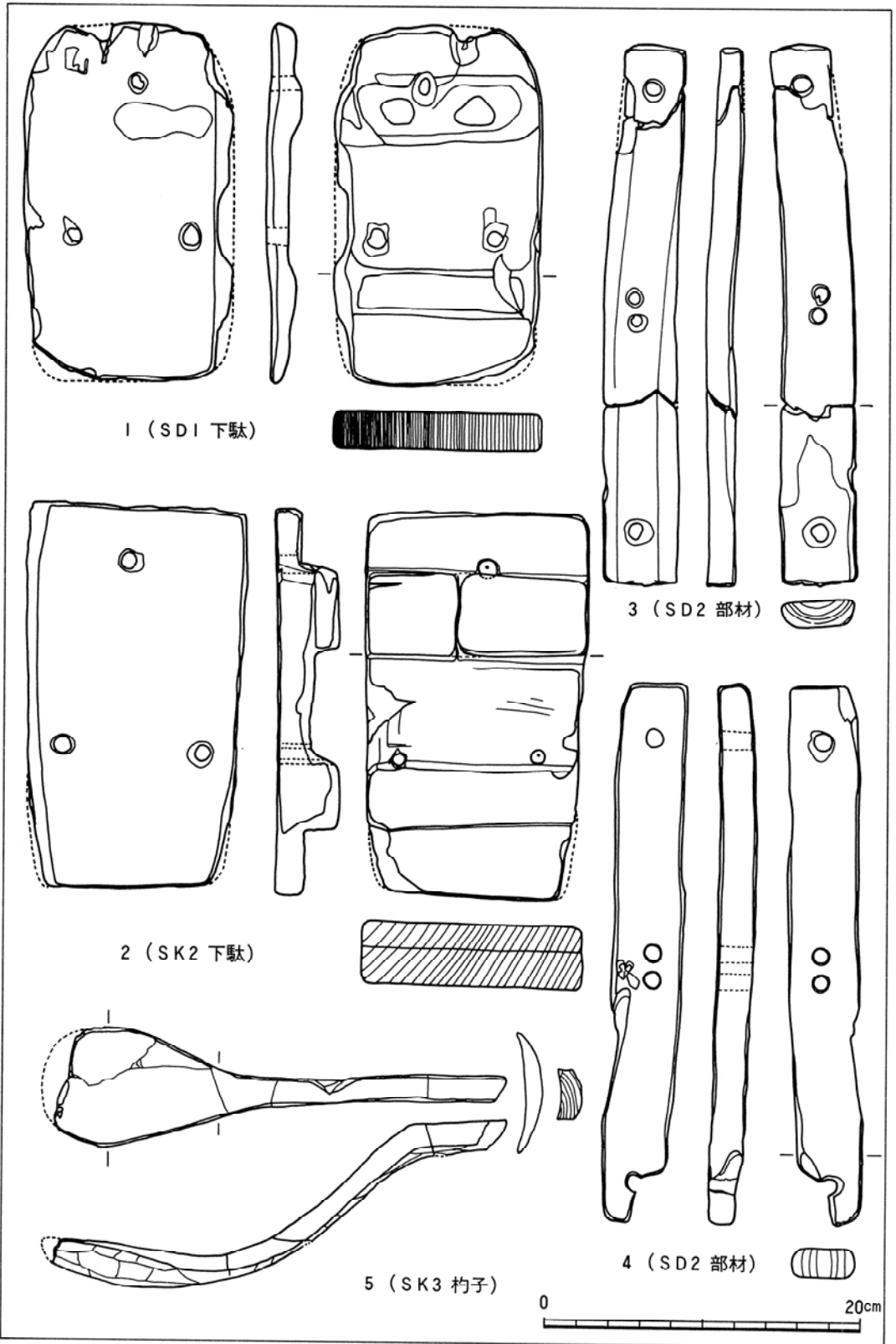
SK 10 検出状況 (南から)



SK 15 土層断面 (南から)



SK 18 土層断面 (西から)



第56図 前田遺跡出土遺物(1)

S K14：長径75cm・短径54cmの卵形のプランで、深さは12cm。堆積土は黒褐色シルト。

S K15：長径62cm・短径54cmの楕円形プランで、深さは66cm。

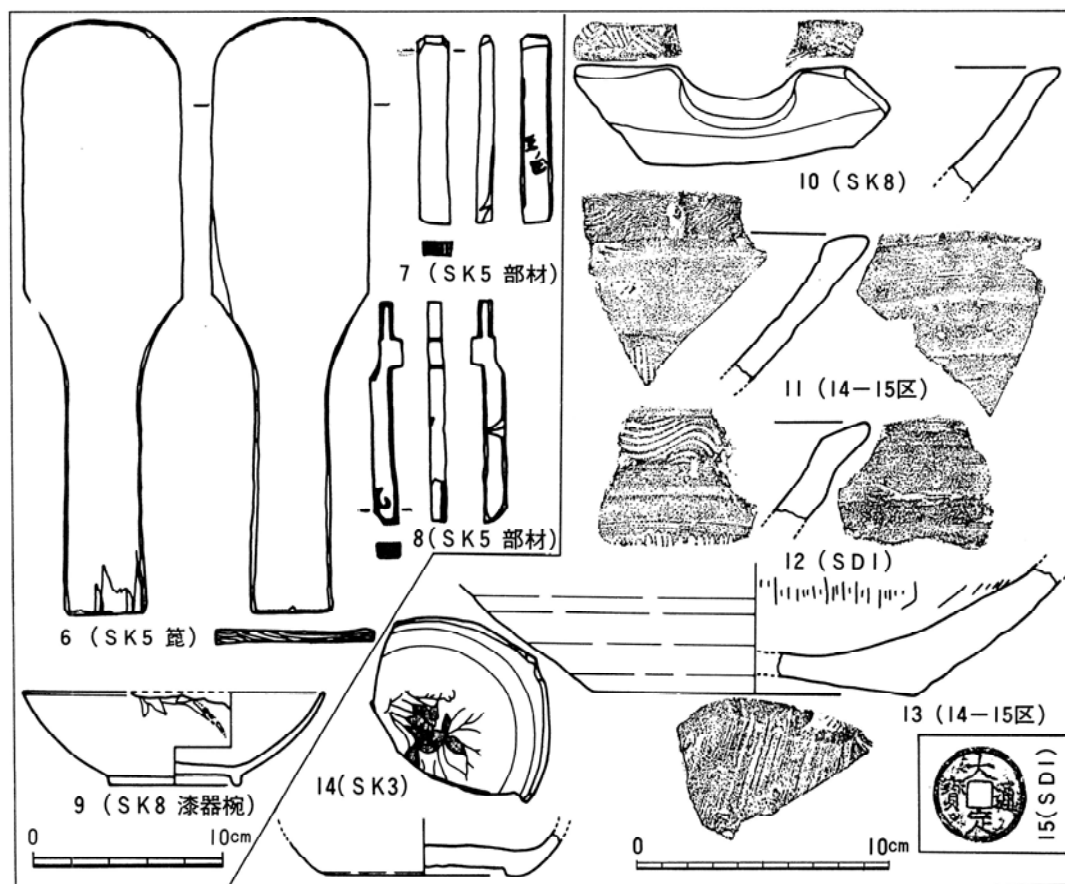
S K16：径47cmの略円形で、深さは8cmと浅い。

S K17：長径64cm・短径58cmの楕円形プランで、深さは55cmを測る。

S D18：ほぼ東西に走る幅約125cm・深さ72cmを測る溝である。昨年度の試掘調査の結果この溝の南からは遺構の検出はなかったので、今回検出された中世の遺構群の南を限るものと考えられることも可能である。

出土遺物 今回の調査で出土した遺物は平安時代の須恵器・赤焼土器の破片、中世陶器の破片、青磁片、古銭、各種の木製品がある(第56・57図)。このうち、中世陶器は珠洲のVI期に併行し、年代は14世紀後半から15世紀の初頭の範囲内に収まるものであり、龍泉窯系とみられる青磁も、同時期と考えてよい。

まとめ 今回の調査で検出された遺構群は14世紀後半から15世紀初頭の土壇・溝を主体とする。土壇は酒田市の高阿弥田(長橋他 1985)、手蔵田10・11(名和他 1988)の各遺跡で検出された墓塚群に類似するが、年代的には両者に後続する。



第57図 前田遺跡出土遺物(2)



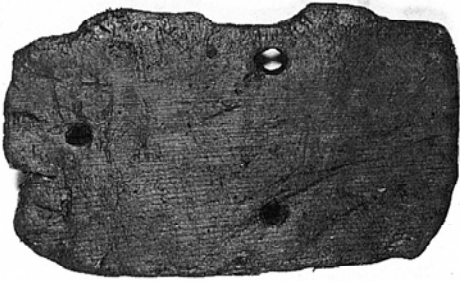
SK 3・SK 5 出土杓子・へら (1/3)



SK 4 ひしゃく (1/2)



SD 1・SK 2 出土下駄 (1/4)



SK 2 出土部材 (1/4)

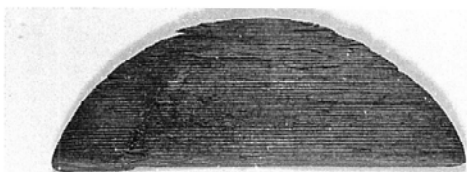
図版64 前田遺跡 (3)



SK 8 出土漆器椀 (1/2)



SK 10 出土曲物底 (1/2)



SD 1 ほか出土中世陶器・須恵器 (1/2)



SK 3 出土青磁 (1/1)

(4) 地ノ内遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字番田字地ノ内

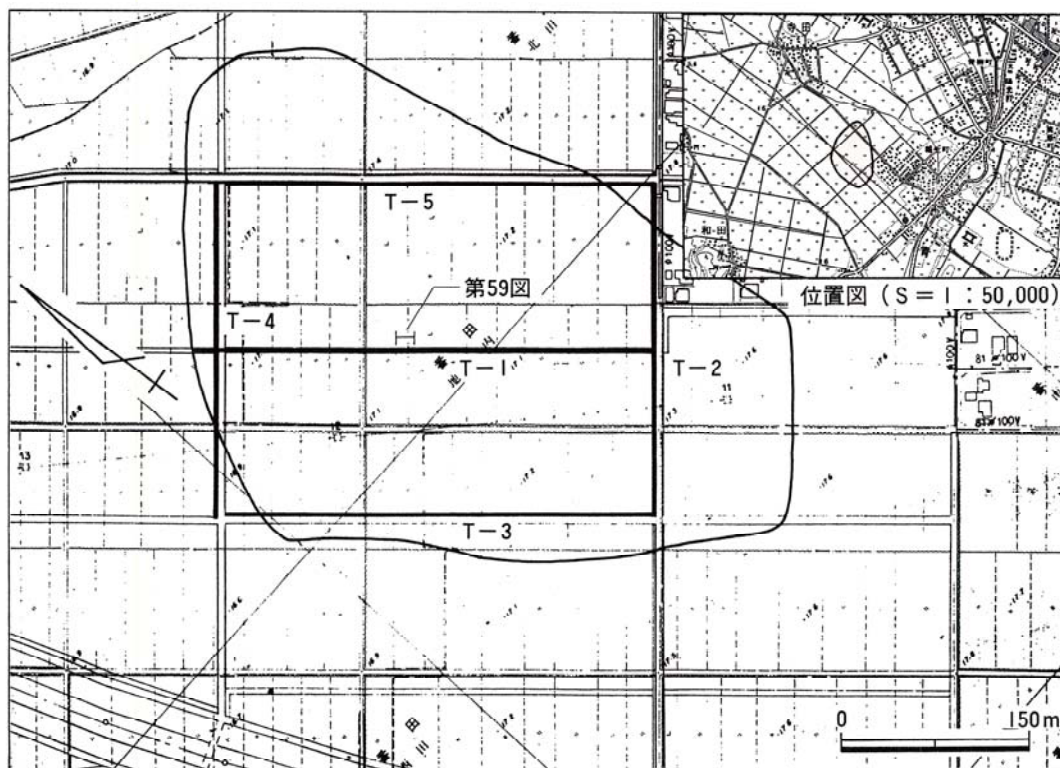
調査員 佐々木洋治 黒坂雅人

調査期日 立会い調査 平成元年7月11～21日

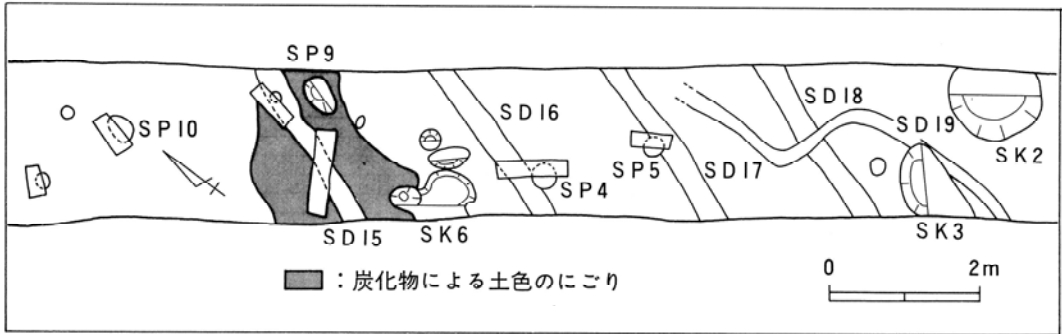
遺跡の概要 遺跡は、鶴岡駅の南西約4kmに位置し、青龍寺川左岸に広がる沖積地に立地する。標高17.2mをはかり、地目は水田である。

本遺跡は、県営ほ場整備事業・鶴岡西部地区の平成元年度施工地区に含まれており、昭和63年12月5日～9日にかけて試掘を伴う遺跡詳細分布調査を実施した。その結果をもとにはほ場整備排水路部分及びパイプライン埋設部分5箇所について立会い調査を行った。

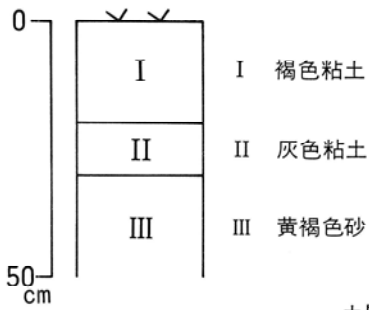
各トレンチは、T-1(366m×2m)、T-2(264m×2m)、T-3(338m×2m)、T-4(264m×2m)、T-5(338m×2m)であり(第58図)、これらのうちT-2北東部に若干のピット群、T-3中央部に遺物の集中区域が確認されたほか、T-2北西端泥炭部分に遺物を多量に含む落ち込み、T-1中央付近に遺構・遺物の集中箇所を確認した。T-1中央付近の遺構集中区域では、ほぼ南北走る溝跡4条、SD18を切って蛇行する溝跡(SD19)、土壌・ピット等が検出された(第59図)。またSD15の両側に微細な炭化物による土色のにごりが観察された。そのほかSK3より底部穿孔された赤焼土器坏を含む一括



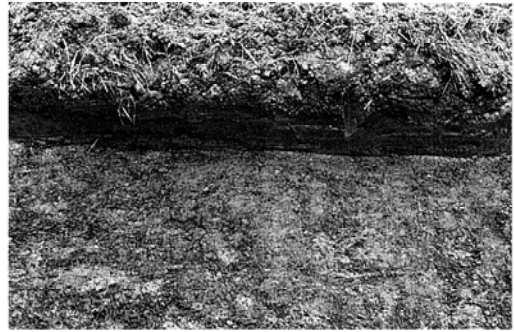
第58図 地ノ内遺跡概要図



第59図 T-1遺構集中区域平面図



土層柱状図



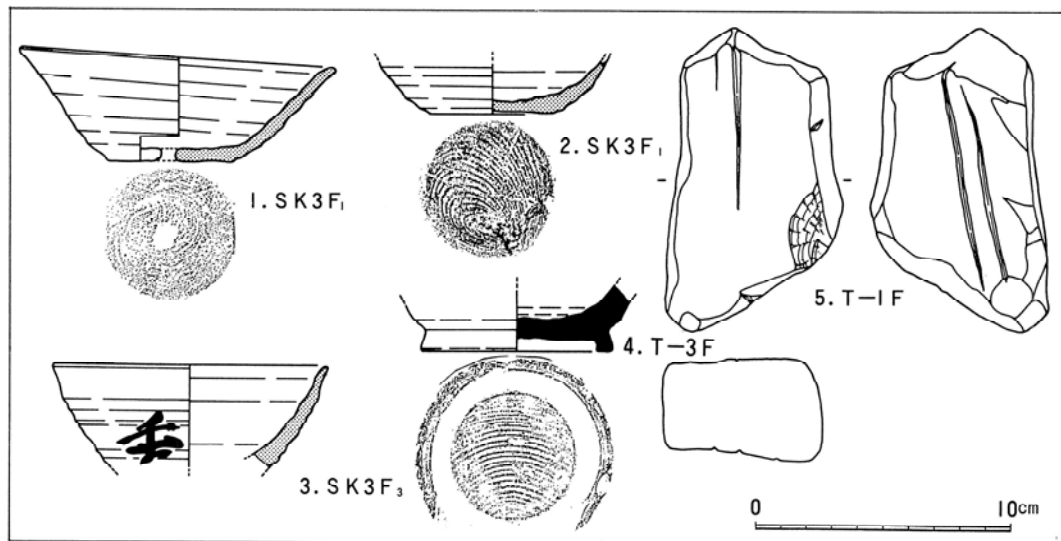
T-5 南壁土層断面



遺跡遠景 (東から)

資料及び墨書土器 1 点(第60図 1～3)を得ている。

遺物は、特に T-1 中央付近、T-3 中央付近に密に散布しており、包含層出土のものは器表面の風化が著しい。土器片には須恵器・土師器・赤焼土器の他、中世陶器が出土し、石製品では砥石を得ている(第60図 5)。時期は平安時代・中世と考えられる。



第60図 地ノ内遺跡出土遺物



T-1 トレンチ全景 (西から)



T-2 トレンチ全景 (北から)



T-3 トレンチ全景 (西から)



T-4 トレンチ全景 (北から)

図版67 地ノ内遺跡(2)



T-5 トレンチ全景 (東から)



T-1 調査状況 (東から)



SK 2 半截状況 (南から)



SK 3 遺物出土状況 (西から)

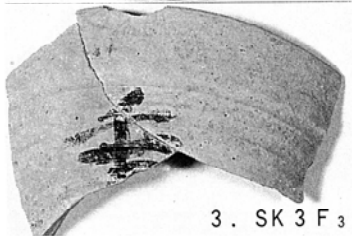


1. SK 3 F 1

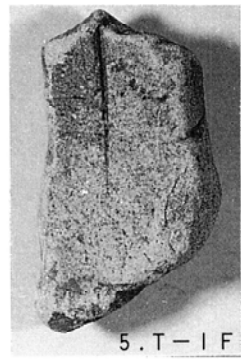


2. SK 3 F 1

4. T-3 F



3. SK 3 F 3



5. T-1 F

出土遺物 (S=1/3)

(5) ^{おおひがし}大東遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字寺田字大東

調査員 佐々木洋治 黒坂雅人

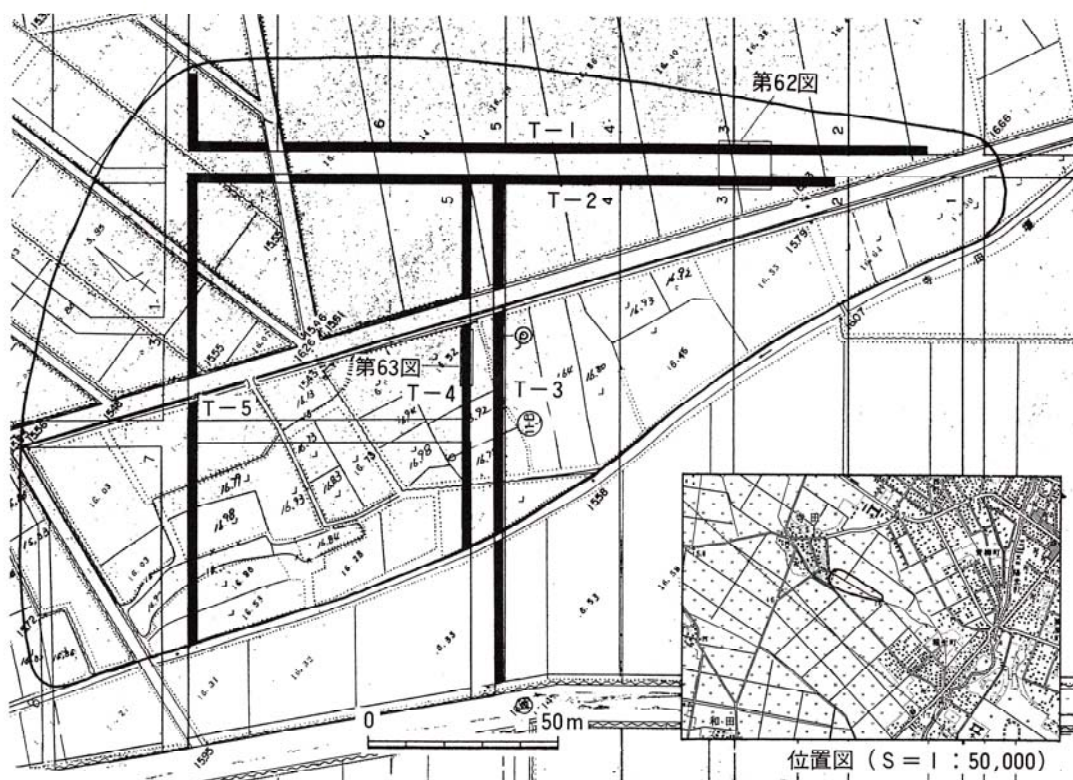
調査期日 立会い調査 平成元年7月24～28日

調査の概要 遺跡は鶴岡市寺田集落の東側、青龍寺川左岸の沖積地に立地する。標高16.9mをはかり、地目は水田・畑地となっている。

本遺跡は、昭和63年11月14日～18日に実施された東北横断自動車道酒田線建設に係る遺跡詳細分布調査Aにより新規発見されたものである。東西260m・南北130mの範囲に多量の遺物が散布し、特に寺田集落から続く畑地は水田からの比高差50cm前後をはかる微高地となり散布が濃密となっている。

この地に昭和62年度から県営ほ場整備事業・鶴岡西部地区が開始されており、平成元年度には本遺跡を含む地区に事業が実施されることになり、その調整に資するため、排水路部分及びパイプライン埋設部分について立会い調査を実施したものである。

調査は遺跡範囲内を中心として、T-1(2m×195m)、T-2(2m×170m)、T-3(2m×133m)、T-4(2m×98m)、T-5(2m×152m)の5本のトレンチを設定し、重機による表土剥ぎ取りの後、面精査を実施した(第61図)。

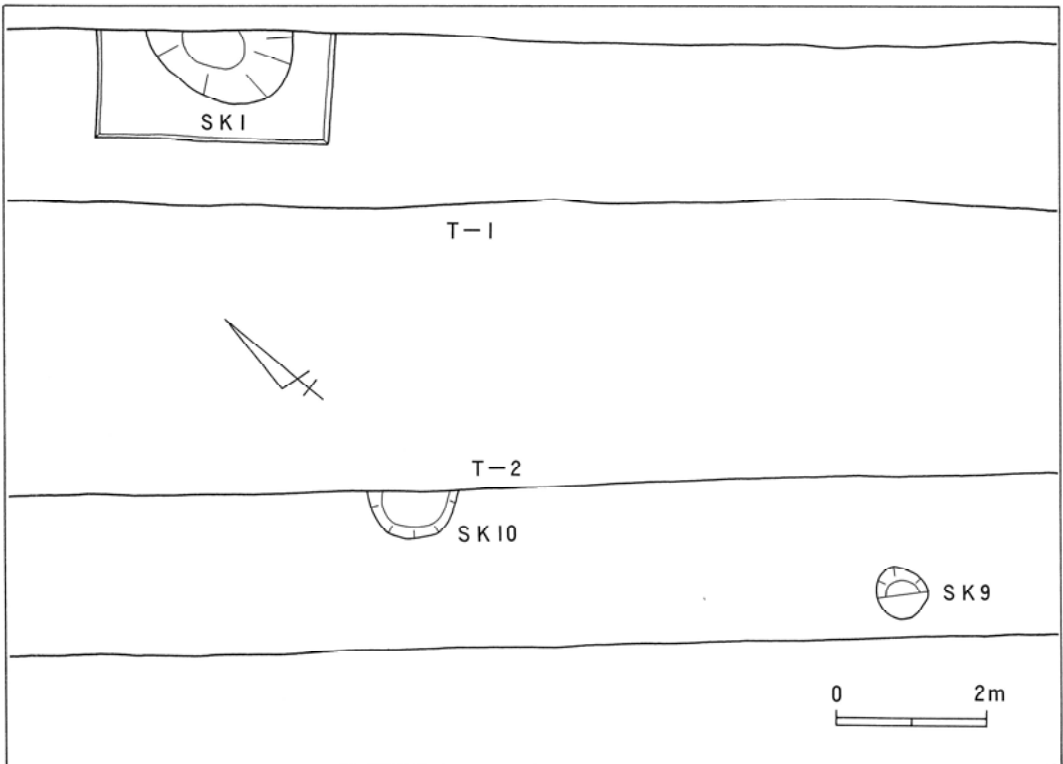


第61図 大東遺跡概要図



遺跡遠景（東から）

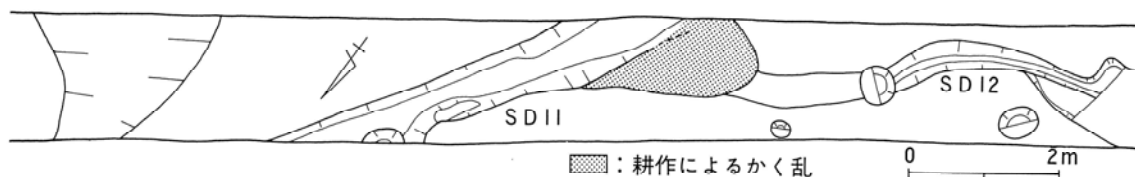
図版69 大東遺跡(1)



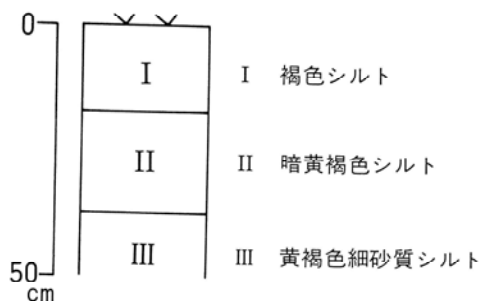
第62図 大東遺跡T-1・T-2遺構平面図

水田部分における遺物・遺構の出土状況は疎らであり、T-3 南西の水田部分は無遺物である。T-1、T-2 の各トレンチも遺物出土量は少ないが、両トレンチ南東部分には土壌3基を含む遺物・遺構の集中箇所がみられた(第62図)。各遺構内からは若干の須恵器・赤焼土器片が出土している。畑地部分ではII層遺物包含層が20~30cmと厚く、遺物の出土量も豊富である。特にT-5 南西部とT-4 中央付近から多量の遺物が出土した。遺構はT-4 中央付近から、幅70~90cmでほぼ南北走るSD11、幅約40cm、北東-南西方向に蛇行するSD12の2条の溝跡とピット4基が検出された(第63図)。

出土遺物はいずれも破片資料であるが、須恵器・赤焼土器・中世陶器などがあり、平安時代及び中世の集落跡と考えられる。付近には地ノ内遺跡、月記遺跡、後田遺跡など、本遺跡と同時あるいは相前後する時期の遺跡が多数分布し、それらとの関連が注目される。



第63図 大東遺跡 T-4 遺構平面図



土層柱状図



遺跡近景 (東から)



T-1、T-2 トレンチ全景 (南東から)



T-3 トレンチ全景 (北東から)

図版70 大東遺跡(2)



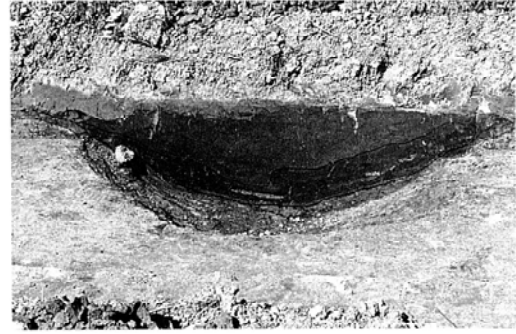
T-4 トレンチ全景 (北東から)



T-5 トレンチ全景 (北東から)



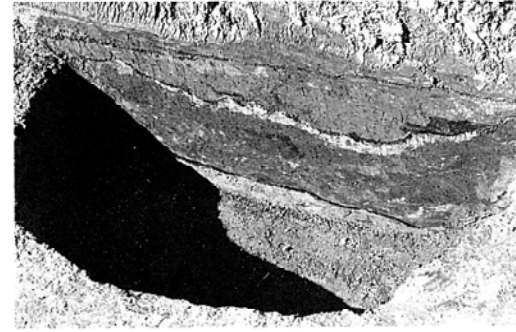
T-4 遺構検出状況 (北東から)



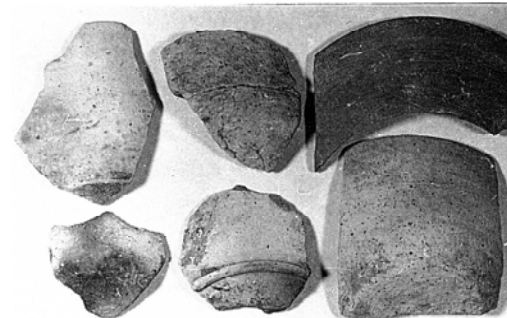
SK I 土層断面 (南から)



SK 9 土層断面 (北から)



SK 10 土層断面 (南から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(6) 後田遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字寺田字後田

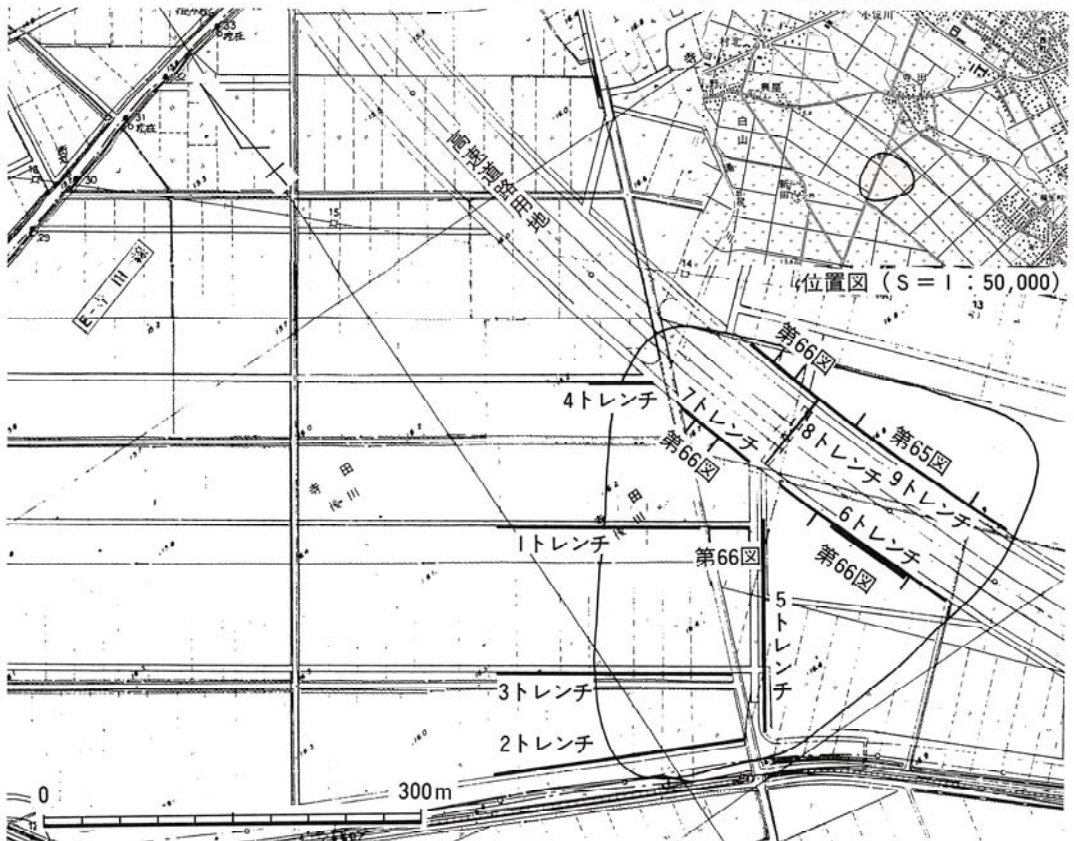
調査員 渋谷孝雄 野尻 侃 黒坂雅人

調査期日 立会い調査 平成元年7月25～28日

調査の概要 本遺跡は鶴岡市街地の南西方の標高16m前後の沖積平野に立地する。地目は水田で、昭和63年度の遺跡詳細分布調査によって発見・登録された。平成元年1月11日に県営かんがい排水事業の実施に伴って立会い調査を実施し、柱穴・溝跡等の遺構と平安時代の土器が出土した。

今回の調査は県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)の実施により、排水路工及びパイプライン工によって遺構面下まで掘削が及ぶこととなったため、工事が実施される部分に限って記録保存のための立会い調査を実施したものである。調査箇所は第64図に示した9本のトレンチで、面積は合計 約2,500㎡となる。これらのトレンチのうち、1トレンチの東部、6トレンチ、7トレンチ、8トレンチ、9トレンチで遺構が検出され、遺物はすべてのトレンチから出土した。以下、遺構と遺物についてその概要を記す。

検出遺構 第I層耕作土、第II層水田床土の下位の第III層上面が検出面となる。遺構は9トレンチの南半部と6トレンチの中央部に集中するが、それ以外は希薄である。



第64図 後田遺跡概要図



遺跡近景（西から）



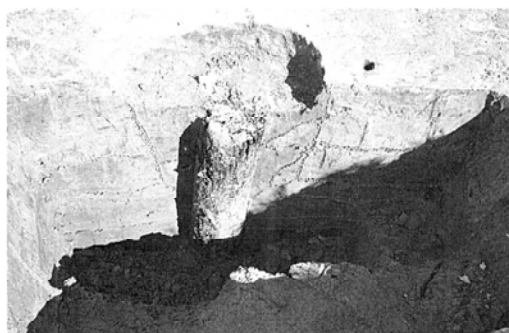
SD 6 RP 2・3 出土状況（西から）



SP 10群 EB 10、SD 11・12（西から）



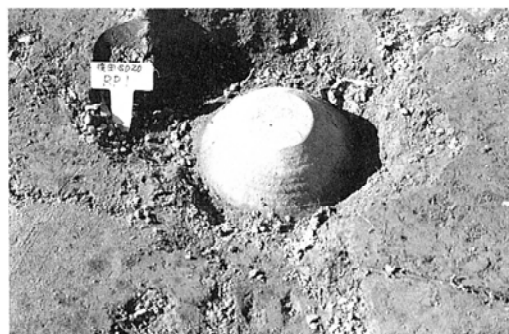
SD 16・17・18（北西から）



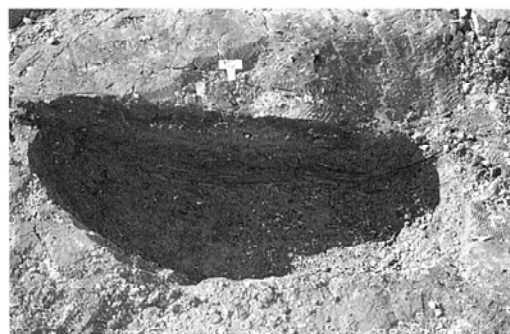
EB 10柱根断面（北西から）



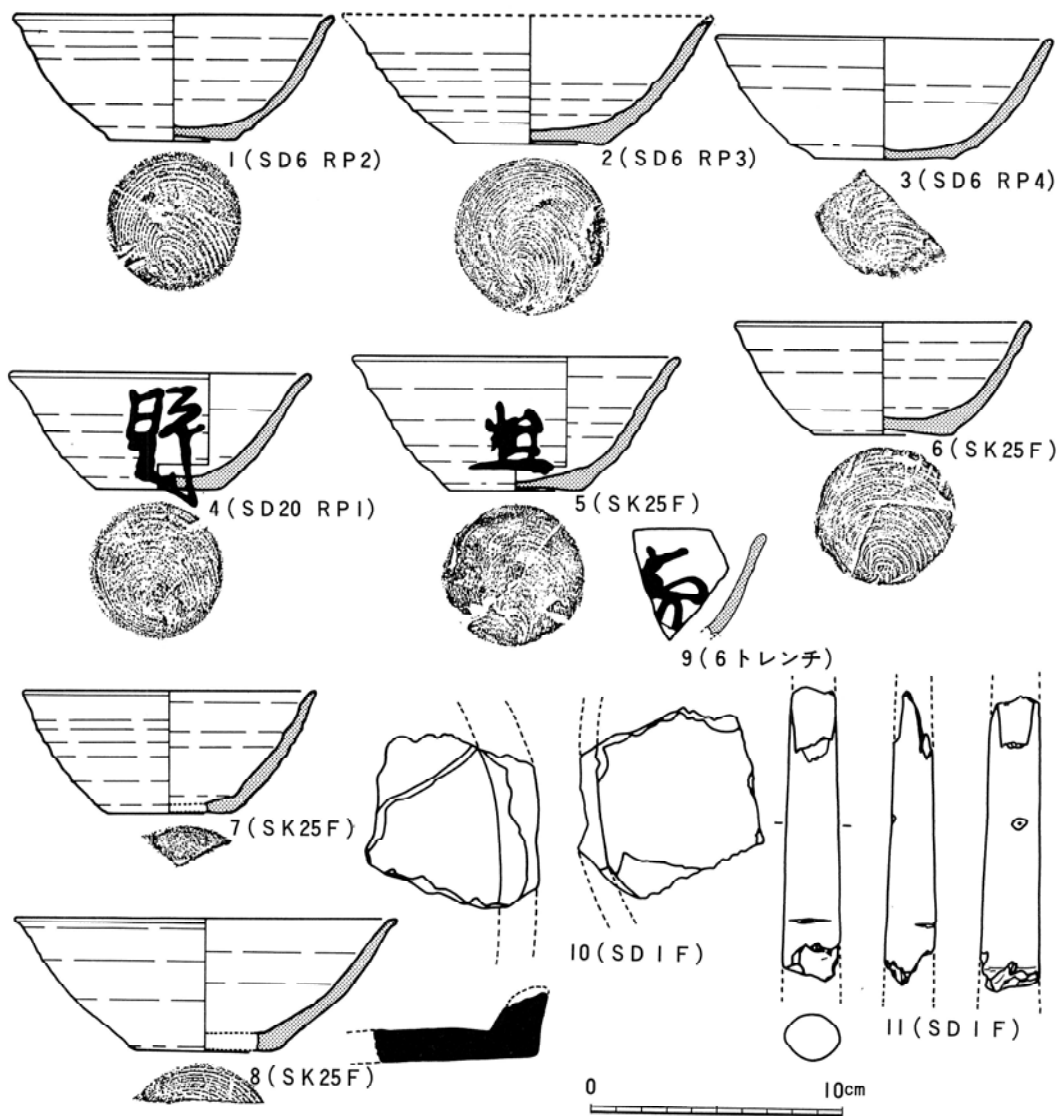
EB 15柱根断面（北西から）



SD 20 RP 1 出土状況（東から）



SK 25土層断面（北から）

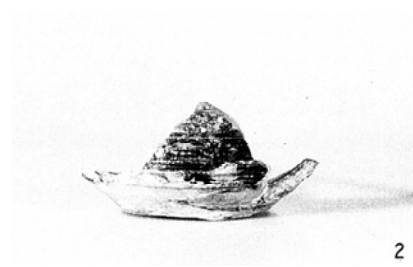


第67図 後田遺跡出土遺物

遺構の種類には溝跡、柱根のある掘り方、柱穴、土壇等がある。溝跡は上幅で12~18mで深さが85cmの大溝が9トレンチの北部、8トレンチ中央部、6トレンチ中央北寄りで検出された。堆積土から同一の溝と考えられるが、9トレンチで平安時代・縄文時代の遺物が発見されたが、8トレンチ、6トレンチでは無遺物であった(第67図)。このほか9トレンチの南部と6トレンチの中央部では、ほぼ東西の方向性をもつ幅35cm~1.8m・深さ7~37cmの溝群が16条、南北に近い走向をもつ溝が1条検出された。この中には完形、一括土器をもつものがある。柱根の残っている掘り方は2箇所検出された。EB10は径18cm、EB15は径17cmの柱根をもち、同一建物の可能性もある。土壇はSK2・25の2基を検出した。このうち、SK25からは墨書土器等、4個体の赤焼土器片が出土した。



1



2



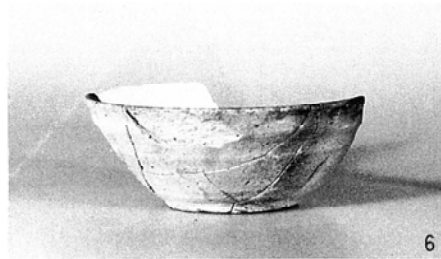
3



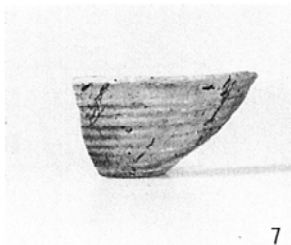
4



5



6



7



8



9

図版73 後田遺跡(2)

出土遺物 遺物は整理箱で2箱分の出土があった。その大半は平安時代の土器であり、供膳形態では赤焼土器の坏を主体とし、若干の内黒土師器が伴うが、須恵器はほとんど認められない。図示可能なものは第67図に示したが、これらはすべて赤焼土器である。煮沸形態では赤焼土器の甕の破片があるが量的には少ない。貯蔵形態では須恵器の甕の出土がある。ほかにSD1から風字硯の破片と、縄文時代の石刀の破片の出土がある。平安時代の土器は供膳形態に須恵器が認められないことを考えると、10世紀中葉頃の所産であろう。まとめ 今回の調査対象地区は用排水路敷の狭い範囲であったが、9トレンチの南部と6トレンチの中央部に、ほぼ東西方向の沖積地の微高地の存在が明らかとなり、溝や掘立柱建物を構成する掘り方が検出された。遺構群が高速道路用地内にのびることは確実である。

(7) 月記遺跡 (昭和63年度登録)

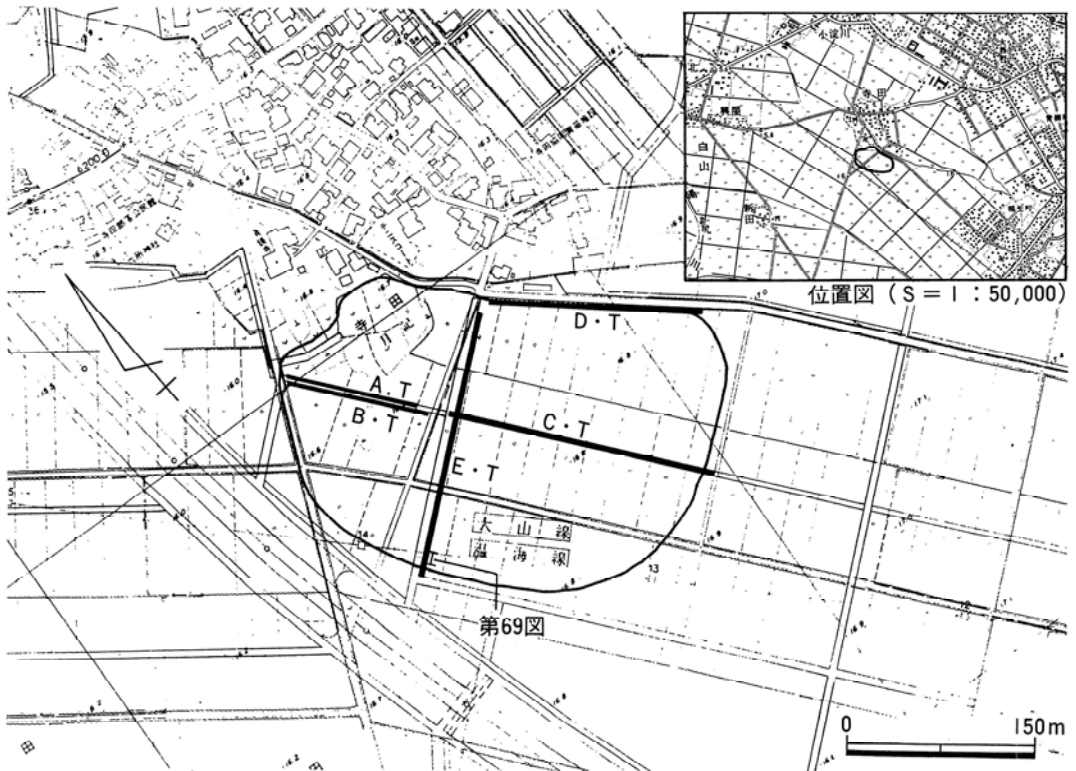
所在地 山形県鶴岡市大字寺田字月記

調査員 野尻 侃 佐藤正俊

調査期日 立会い調査 平成元年7月24～28日

遺跡の概要 遺跡は、J R羽越本線鶴岡駅南西 約3.5km、寺田集落南西部に位置し、遺跡の所在する周辺一帯は沖積地の水田・畑地になって、標高16.40m前後を測る。昭和63年に実施された東北横断自動車道酒田線建設に係る分布調査によって新規に発見された。遺跡の範囲は推定 南北510m・東西370mの範囲内である。今回の調査は、本遺跡を含む周辺地域に平成元年度に県営灌漑排水事業が実施されるため、排水路部分に限り立会い調査を行い記録保存とした。

調査は、計画排水路内に幅1.8m、深さ表土下20～25cmの5本のトレンチを配し、重機械によって粗掘調査を行い、各トレンチ内を面精査し、検出した遺構の精査記録を実施した。検出遺構 今回の調査で検出した遺構は、柱穴12、土壇5、溝状遺構29、旧河川跡1等である。柱穴は形が隅丸方形を示し、Cトレンチの北側に集中しているが、建物跡の構成は不明である。土壇はA・Bトレンチの中央部に検出され、径1.5m前後の円形を呈している。溝状遺構は、各トレンチ内に東西あるいは南北方向に走り、Cトレンチの中央部には



第68図 月記遺跡概要図

11条の溝が重複し、幅1~1.5m、深さ32~41cmが6条と幅15~62cm、深さ8~29cmが5条認められ、いずれも東西方向に走り、掘立柱建物跡を構成する柱穴2本が検出されている。

旧河川跡は、Eトレンチの西端部に確認され、上面幅15m・底面幅10.5m・深さ約2mで、播鉢状の断面を示し、底面は非常に起伏に富んでいる。土層の堆積は、上層で粘土質、中・下層でシルト質の土層となり、土器・木製品・自然木等が8層より多く出土している。この河川跡は、おそらくほぼ南北方向に蛇行しながら、後田遺跡で検出された河川跡に続いていくものとみられる。

出土遺物 今回の調査で検出された遺物は、整理箱にして6箱を数える。ほとんどが旧河川跡の覆土8層中からの出土で、第70・71図にはその出土遺物を図示した。1~23・29・30は須恵器である。1・2は蓋で天井部を回転ヘラケズリによって切り離され、中央の窪むつまみがつけられている。口縁部のかえりが強い1とやや弱い2である。坏は21個体検出されている。切り離し技法と再調整の有無によって分けることができる。

a類：回転ヘラ切りのもの。ケズリ等の再調整はなく、体部内外面にはナデによって平滑に仕上げられている。口径122~138mm、器高32~36mmで(3~15・21・22)、口径が広く器高も高くないものである。3・4・20は焼歪みが著しい。底部には「^{あきり}蜷」(10)、「十」(5)、「刑」(15)と墨書が読みとれる。

b類：回転ヘラ切り後、再調整がなく器高がa類より高いもの。口径109mm・器高45mm(23)と高く、底部より体部にかけて急激に立ち上がる。体部内外面にロクロ痕を残す。

c類：回転糸切り離しのもの。再調整があるもの(19)と無調整のもの(20)である。口径123~125mm、器高36mmでa類とその比は同じぐらいである。体部内外面にロクロによる凹凸がみえる。19には「^{あきり}蜷」の墨書が読みとれる。

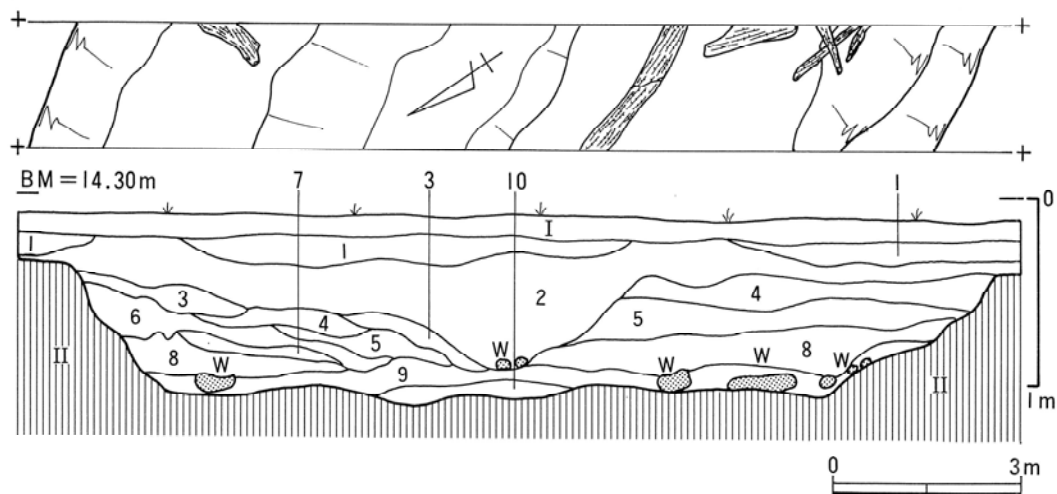
高台付坏は3個体出土した。身が浅く急角度で上がるもの(17)。身が深く、急激に立ち上がるもの(16)で、碗の形態を呈する。身が浅く、緩やかに立ち上がる(18)である。

甕は外面を条線状の叩き、内面にヘラナデがあるもの(29)と押圧痕のアテがあるもの(30)。赤焼土器は24の坏と25~27の甕片である。坏は底部を回転糸切り離しとなり、体部にかけて急激に立ち上がる。体部内外面にロクロ痕を残す。

中世陶器は28の甕である。口縁部が短く立ち上がり、大きく外反する。頸部下半より水平な条線状叩き痕がある。青磁(31)は蓮弁文をもち、片彫りによる蓮弁である。

彩釉陶器(32)は乳白色の生地に緑釉を施した二彩と思われる。小壺の蓋で口径43mm、器高17mmを測る。

その他では、墨痕がみえるが字体が読みとれない加工木(33)と、盤状木製品(34)、枝を弓状に曲げた加工木が出土している。



- | | | | |
|----|-----------|------------------------------|--|
| I | 暗褐色土 | 耕作土 | |
| II | 橙色粘土 | 地山 | |
| 1 | 暗褐色粘土質シルト | 若干の炭化粒子を含む。 | |
| 2 | 褐灰色シルト質粘土 | 若干の粘土・炭化粒子を含み、下部で白色シルトが多く混る。 | |
| 3 | 暗褐色粘土質シルト | 多量の炭化粒子を含む。 | |
| 4 | 黒色シルト質粘土 | 小粘土ブロックや多量の炭化粒子が混る。 | |
| 5 | 黒褐色シルト質粘土 | 4層と近似する。色調が明るい。 | |
| 6 | 暗褐色シルト質粘土 | 4層と近似すが粘土ブロックを余り含まない。 | |
| 7 | 灰褐色シルト | シルトがブロック状に混る。 | |
| 8 | 暗褐色シルト質粘土 | 炭化材・粘土ブロック・樹皮や木片がブロック状に混る。 | |
| 9 | 暗褐色シルト | 炭化材・粘土ブロックが多量に混り、木材を多く検出する。 | |
| 10 | 褐灰色シルト | 地山の漸移層で、若干の炭化粒子が混る。 | |

第69図 月記遺跡河川跡 (Eトレンチ西端)



図版74 月記遺跡(1)

遺跡近景 (南から)



A・Bトレンチ調査状況（南から）



Cトレンチ遺構検出状況（北から）



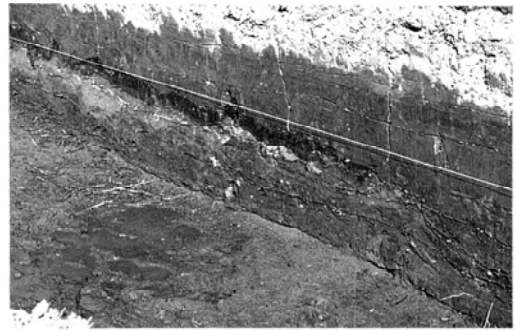
Dトレンチ調査状況（北から）



Eトレンチ調査状況（東から）



河川跡調査状況（北から）



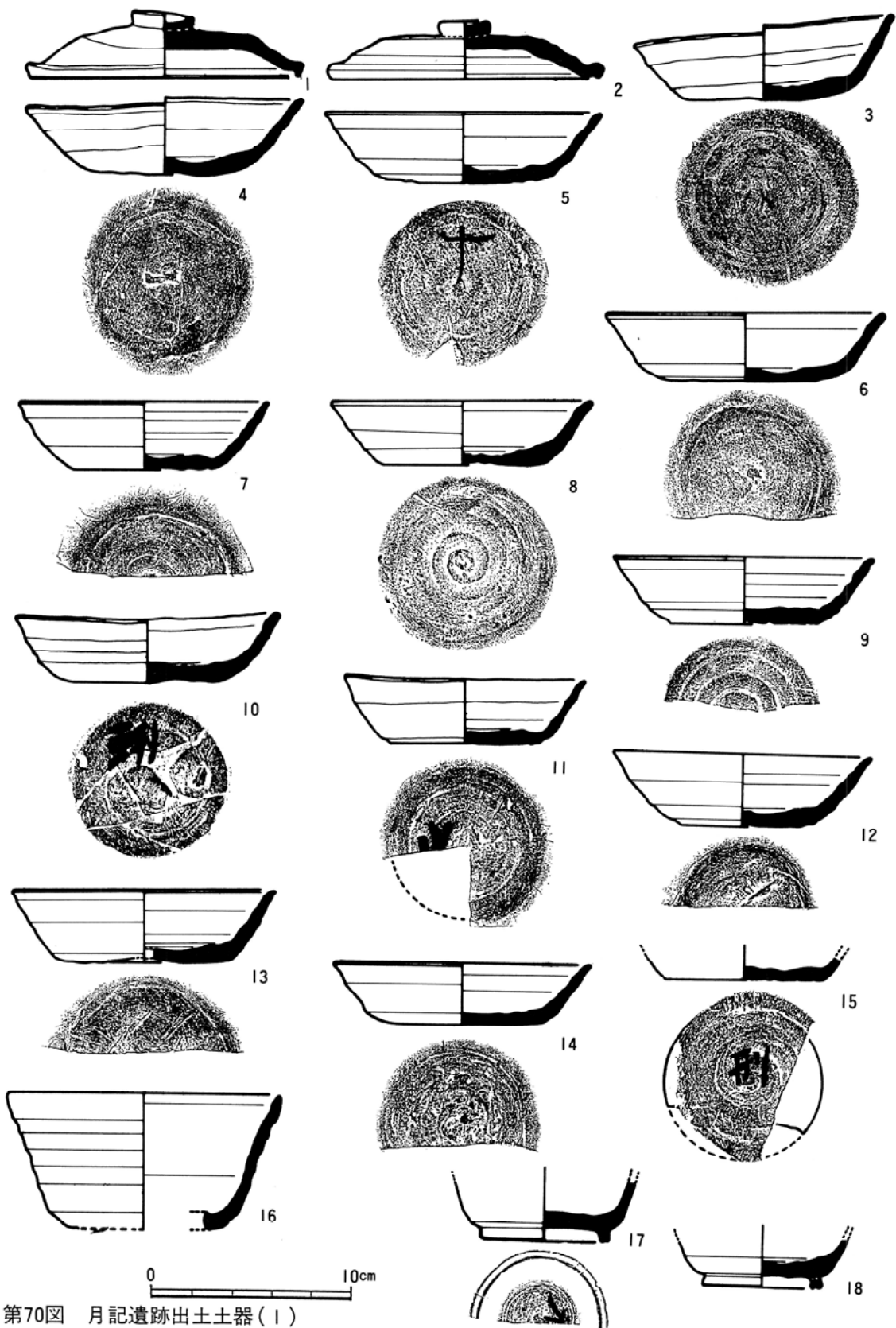
河川跡土層セクション（北西から）



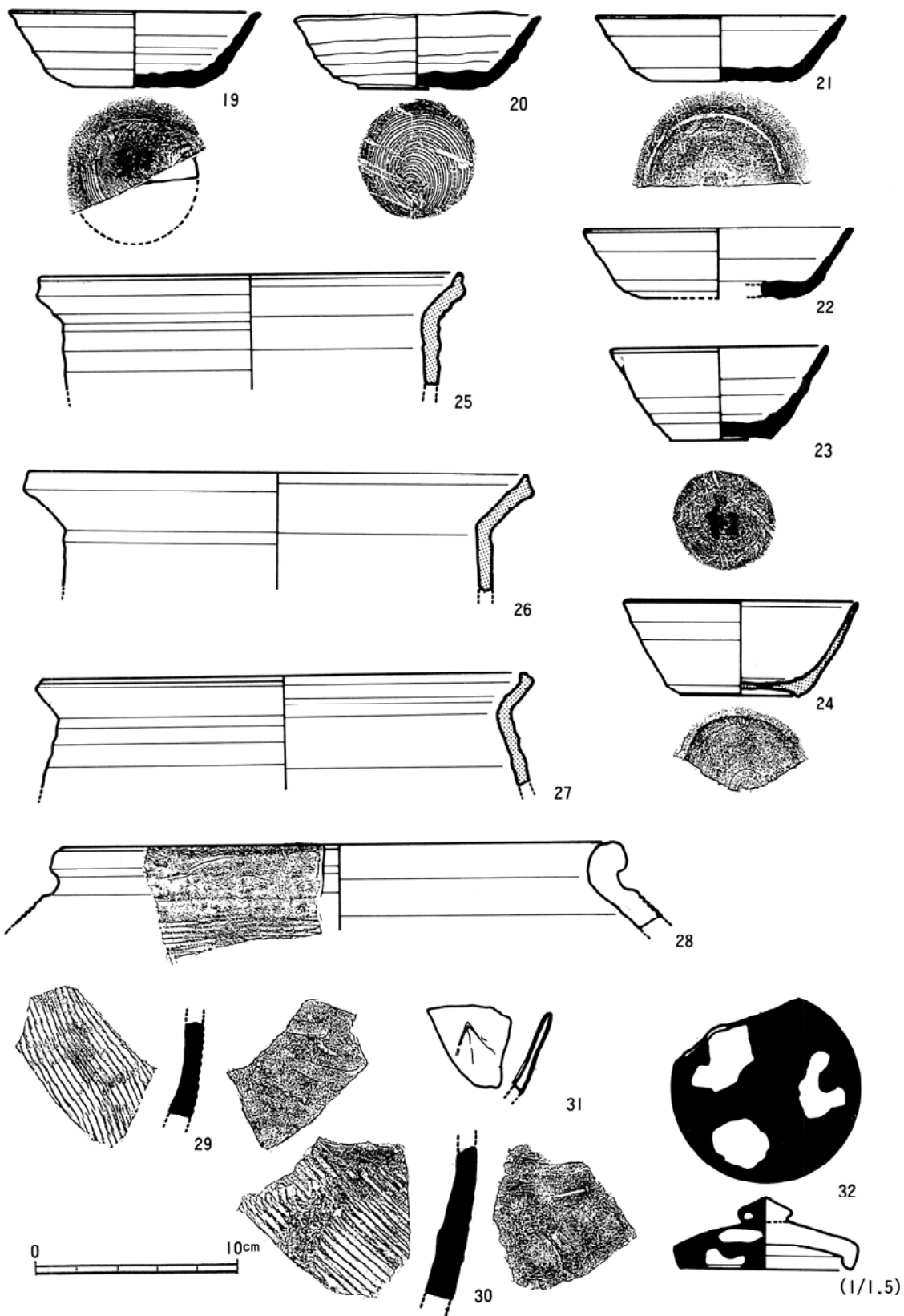
河川跡木材出土状況（北から）



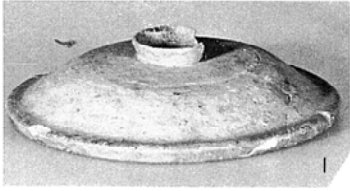
調査風景（東から）



第70図 月記遺跡出土土器(1)



第71図 月記遺跡出土土器(2)



1



2



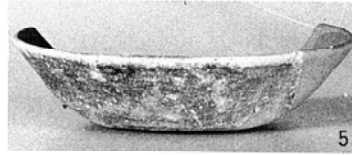
3



4



6



5



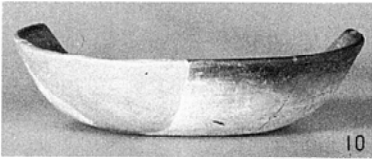
7



9



8



10



12



13



11



14



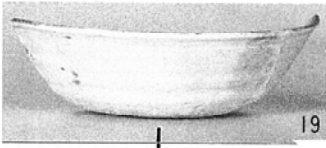
15



16



18



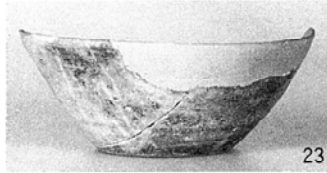
19



20



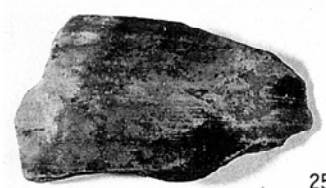
21



23



22



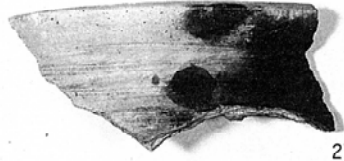
25



24



26



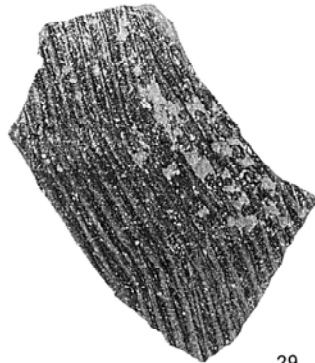
27



29



28



31



32



33
(1/1.5)



34
(1/1.5)



35
(1/1.5)

おのみち
(8) 大道下遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字寺田字大道下

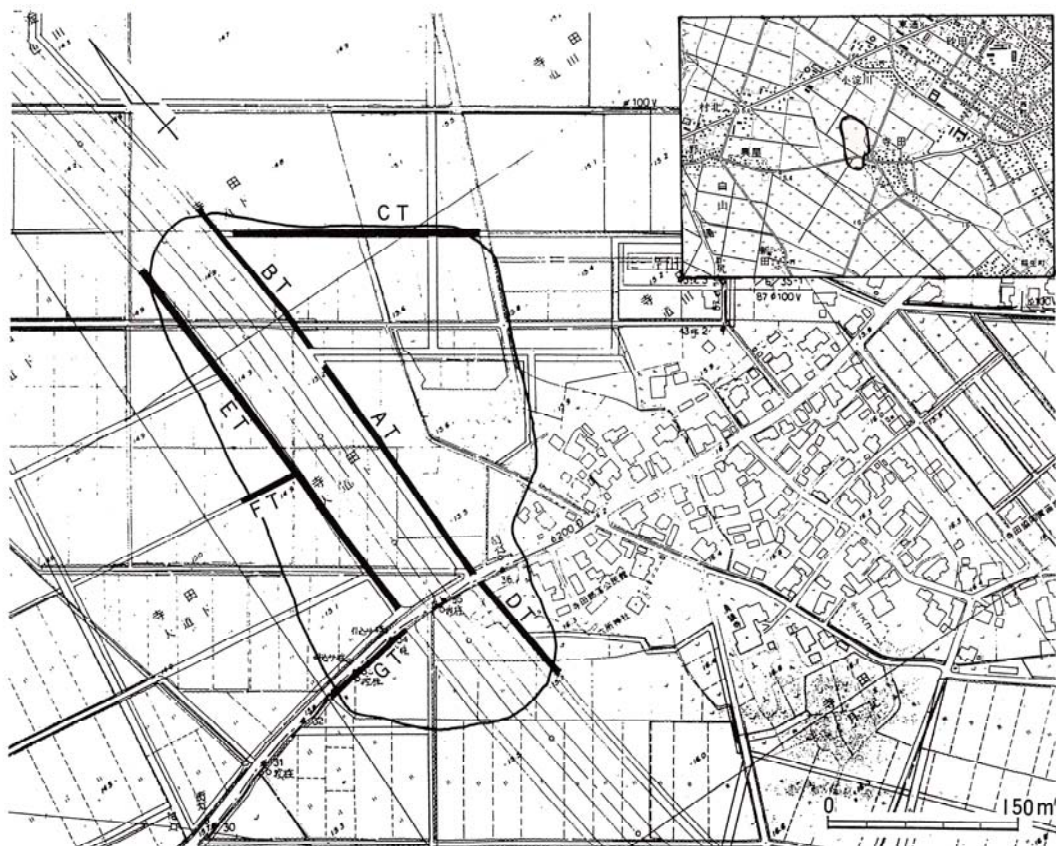
調査員 佐藤庄一 野尻 侃

調査期日 立会い調査 平成元年7月17~21日

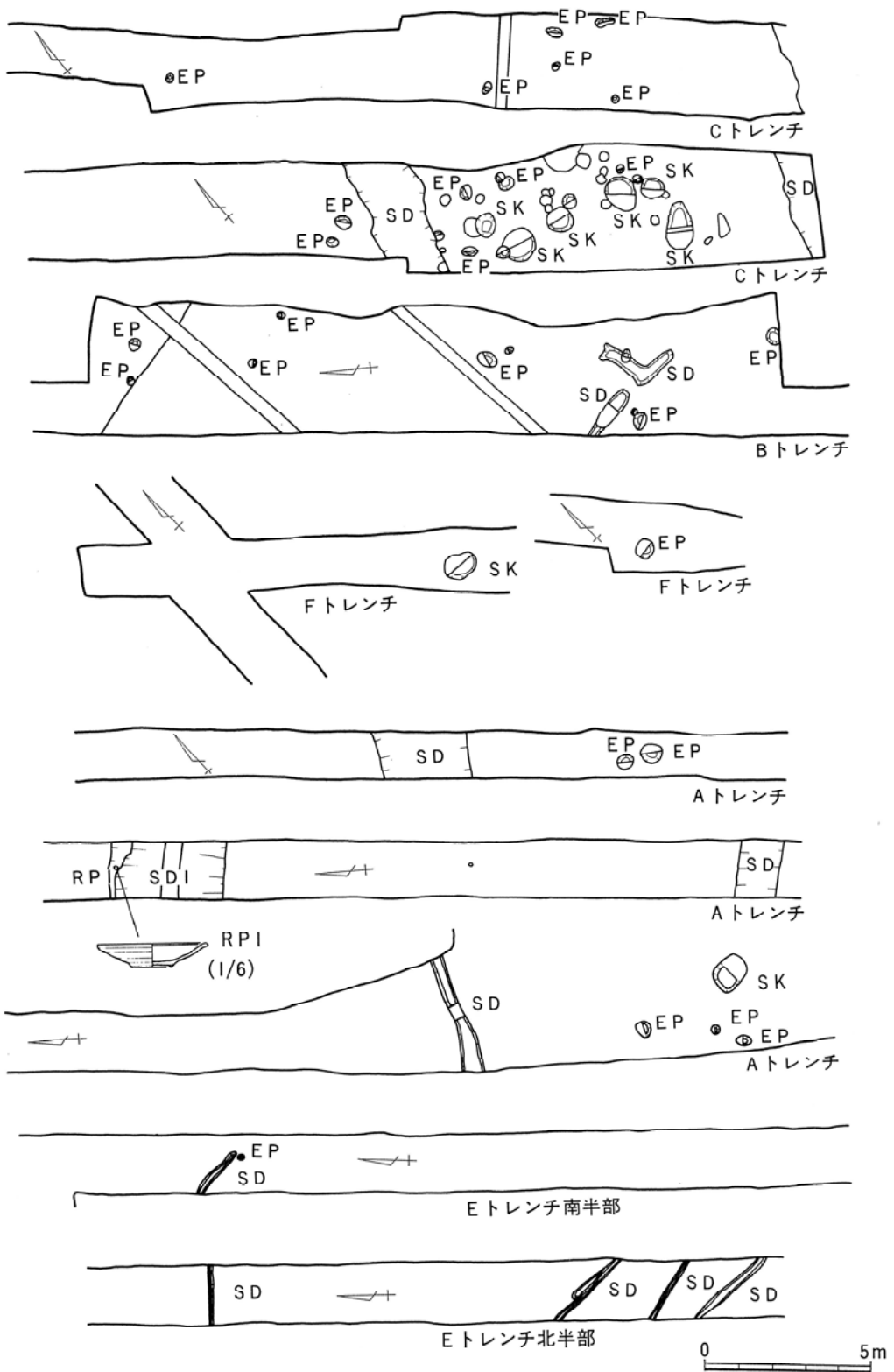
遺跡の概要 遺跡は鶴岡市街地の西端部に位置し、寺田集落に西接して北西から南西にかけて広がっている。周辺一帯は、沖積地の水田・畑地で、標高13~15mを測る。昭和63年に実施された東北横断自動車道酒田線(朝日~酒田間)に係る遺跡詳細分布調査によって新規に発見された。遺跡の範囲は推定 東西240m・南北400mの範囲内である。今回の調査は本遺跡を含む周辺地域に平成元年度県営は場整備事業が実施されることになり、排水路部分に限り立会い調査を実施し記録保存としたものである。

調査は、計画排水路内に幅 1.8m・深さ表土下25~40cmの7本のトレンチを配し、重機械によって粗掘調査を行った。各トレンチ内を面精査し、検出した遺構の精査と記録を実施した。

検出遺構 今回の調査で各トレンチから検出した遺構は、柱穴41・土壌8・溝状遺構12等がある。柱穴は隅丸方形や円形を呈し、Cトレンチの東側に集中している。柱穴の中には柱根が残存しているものがあり、一辺28cmの角柱である。建物跡を構成する柱穴と考えら



第72図 大道下遺跡概要図



第73図 大道下遺跡検出遺構

れたが、構成する他の柱穴は確認できなかった。柱穴の規模は、径20～38cm・深さ15～45cmを測る。土壌はA・C・Hトレンチで確認されている。径60～110cm・深さ45～70cmの大型の土壌がCトレンチで集中して検出された。断面形では方形や楕円状になるもので、覆土は1～3層の濁青灰色粘質土を基本としており、短期間に埋まったものとする。覆土中からは木片や有機物が充満している。土器等の出土は少なく、磨滅が著しく図示できるものはなかった。溝状遺構は各トレンチ内に東西あるいは南北方向に確認され、Eトレンチにはやや東西に走る3条の溝状遺構が同間隔で確認された。溝状遺構は、A・Bトレンチで幅の広いものと、A・Eトレンチでは狭い溝状遺構が検出されている。幅の広い溝状遺構の規模は、確認上面幅130～350cm・下面幅15～50cm・深さ25～45cmを測り、断面形もU字形やV字形を呈している。幅の狭い溝状遺構は、上面15～40cm・深さ10～15cmを測り、断面形はU字形である。覆土中からは赤焼土器、須恵器、中・近世陶磁器片が出土している。Aトレンチの幅広の溝状遺構からは第73図の赤焼土器皿が壁面に付着して出土した。

出土遺物 調査で出土した遺物は土器片だけである。ほとんどが遺構内からの出土である。器種は須恵器、赤焼土器、中・近世陶磁器片で、磨滅が著しく、Aトレンチの溝状遺構出土の赤焼土器皿が図示できるものである。口径134mm・高さ27mmで、底部に低い高台がつく。底部から口縁にかけて大きく外反する。



Aトレンチ調査状況（南から）



Aトレンチ SD | 溝跡層序



Aトレンチ SD | 溝跡土器出土状況



Aトレンチ SD出土土器

図版78 大道下遺跡(1)



B トレンチ調査状況 (北から)



C トレンチ調査状況 (東から)



E トレンチ調査状況 (北から)



E トレンチ南半部調査状況 (北から)



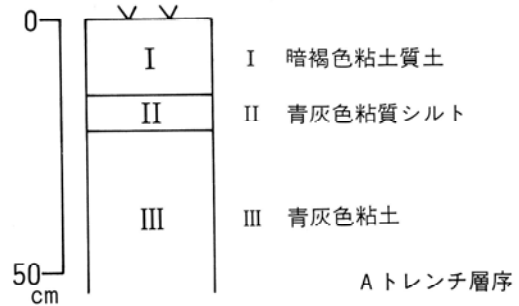
E トレンチ層序



F トレンチ調査状況 (東から)



G トレンチ調査状況 (東から)



(9) 畑田遺跡 (昭和63年度登録)

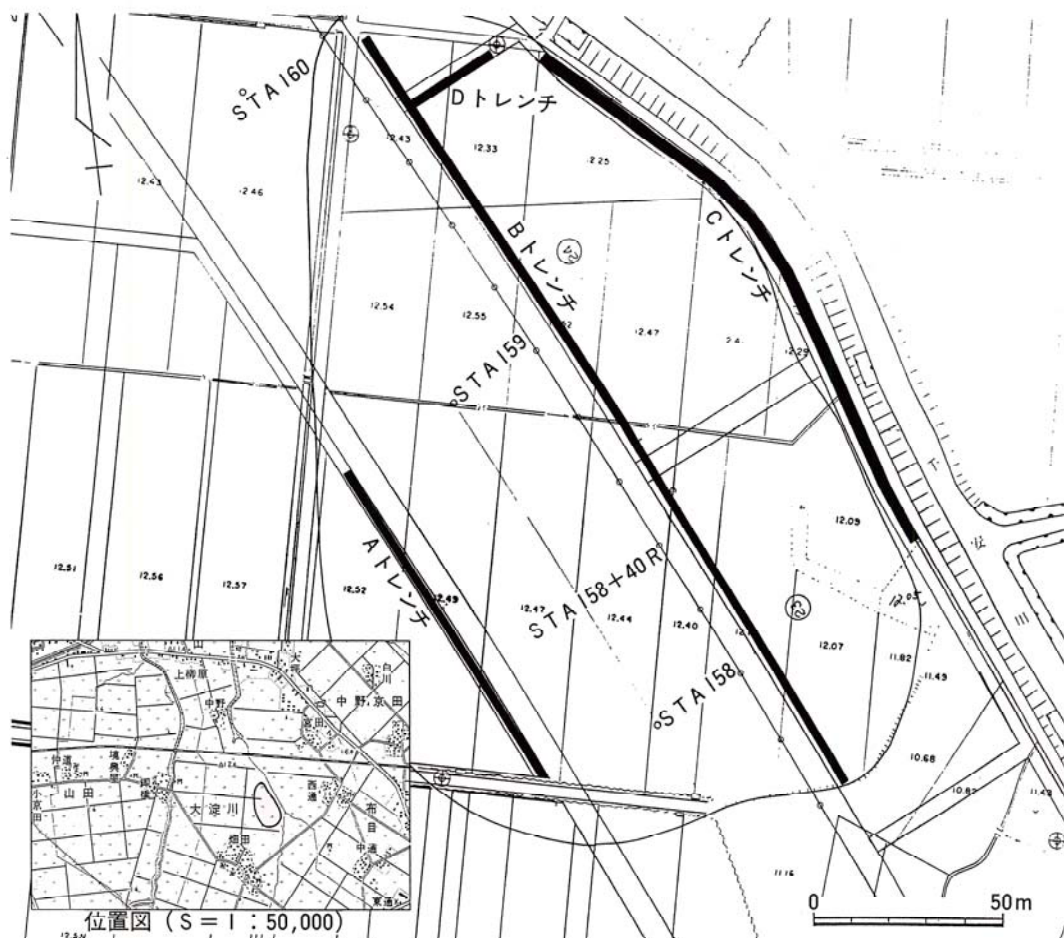
所在地 山形県鶴岡市大字大淀川字畑田

調査員 佐々木洋治 阿部明彦

調査期日 立会い調査 平成元年8月24・25日

遺跡の概要 遺跡は鶴岡市大字鎌橋の東方 約500m、千安川左岸の自然堤防上に位置し、地目は大半が畑地である。標高は12mを測る。

調査は隣接の中野遺跡同様、平成元年度に施工される県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)との調整に資する目的から実施したもので、昭和63年秋に試掘調査(B)を行って概要の確認を行っている。今次調査は水路部分に限定した立会い調査であり、高速道路用地境に沿って計画された排水路およびパイプ埋設予定地部分にトレンチ(幅2m)4本(A~Dトレンチ)を設定して、遺構・遺物の確認を行っている。その結果、Bトレンチ中ほどから南東部分(S T A 158+20R~60R)にかけて遺構・遺物の集中する地点が把握され、溝跡を中心とする遺構内から古式土師器を主体とするややまとまった遺物群を検出できた。



第74図 畑田遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



A トレンチ近景（南から）



B トレンチ調査風景（北から）



B トレンチ調査風景（北から）



B トレンチ遺構プラン検出状況

検出遺構 遺構はS T A158+35R～55R区間の約20mの中に、S D 1～S D 6までの6基が集中的に検出され、S D 4・6等は矩形に曲がる様子などから住居跡の周溝になる可能性も考えられた。しかし、調査規模の制約などから詳細は明らかでない。以下に概要を述べる。

S D 1：南西から南東方向に走る溝跡で中央部上幅1.8m、確認面からの深さ23cmを測る。覆土は全体に砂質で遺物・炭化物を多く含み、南東斜面を中心としてR P 1～5 他のもたまった遺物が認められた。中でも北東壁近くの底面付近から出土した三孔をもつ器台(R P 1)が注目される。S K 2：東西方向に長い楕円形状を呈すと考えられる大型の土壌跡で、トレンチには東半部分の南北3.2m・東西1.6mほどが係っている。なお、確認面からの深さは20cm内外と浅く、壁の傾斜も緩い。遺物ではR P 6～9として取り上げた甕を主とする土師器があり、口唇部の造作ほか幾つかで特徴と多様性が認められた。S D 3：東西方向に走る上幅1.8m・深さ15cm内外規模のやや大型の溝跡で、覆土上部からR P 10ほかの甕・小型壺などが出土している。その他、東南方から幅30～70cmほどで延びる溝跡がトレンチ中ほどでほぼ直角に折れるS D 4・6と、走向の直線的なS D 5があり、S D 4からは土師器甕(R P 11)のほか、小破片ながら古式須恵器の^{はき}礎と思われる体部資料1点が出土している。時期差がS D 1・S K 2などとの間にあるものと推察される。



SD 3 溝跡完掘状況



SK 2 土壌プラン検出状況

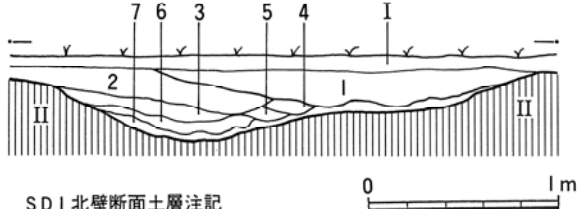
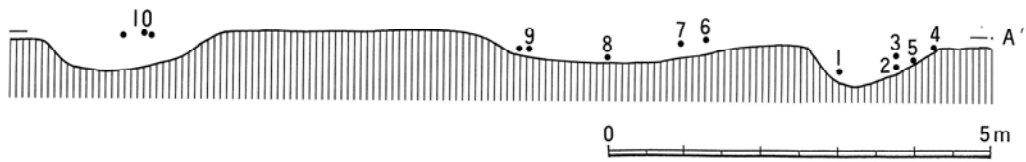
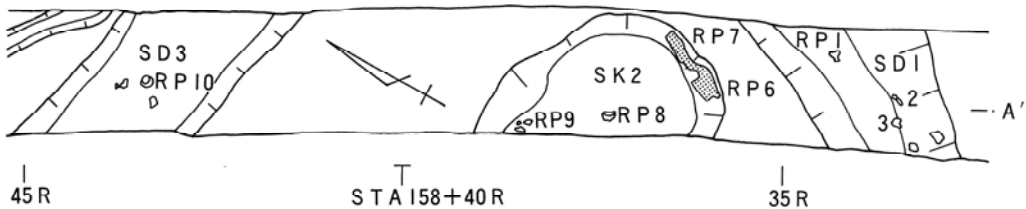
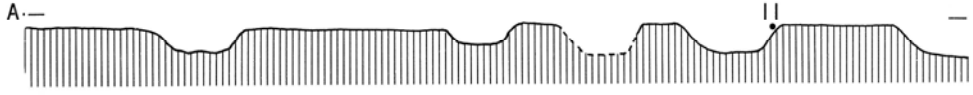
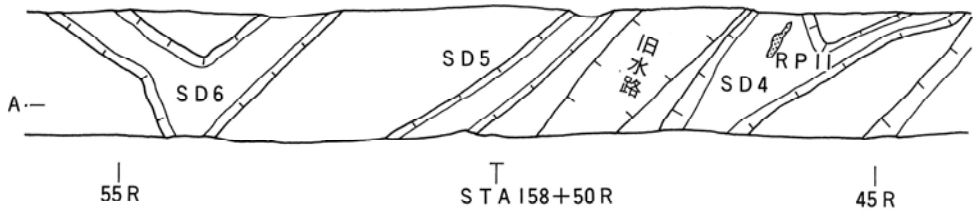


SD 6 溝跡完掘状況



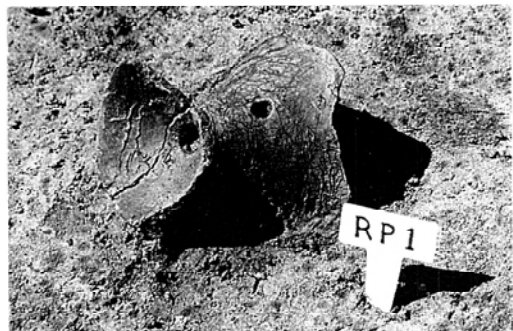
B トレンチ調査風景 (北から)

図版81 畑田遺跡(2)



SD1北壁断面土層注記

- 1 暗褐色微砂質土 (耕作土)
- 2 暗黄褐色砂質土 (微細な炭化物・遺物破片を含む)
- 3 暗灰黄色砂質土 (炭化物の粒子が豆粒大で、遺物を主体的に含む)
- 4 暗褐色砂質土 (F6層の立ち上がり部分)
- 5 暗褐色砂質土
- 6 黒褐色砂質土 (黄褐色砂がブロックで入り、大形の遺物を含む)



SD1・RP1出土状況

第75図 畑田遺跡・Bトレンチ検出遺構



SK2・RP8出土状況



SK2・RP6・7出土状況

図版82 畑田遺跡(3)

出土遺物 遺物は整理箱にして3箱程度であり、それほど多いものではない。しかし、調査方法・規模等を考え合わせれば古墳時代前期にかかわる比較的まとまった資料と認識でき、特に従来の資料がほとんどない「庄内地方での発見」といった意義は深い。器種的には高坏・器台・坏(鉢)・壺(埴)・甕などが認められ、ほぼ完備された内容が認められる。但し器種組成、その他の問題は調査規模の制約から明らかでない。

高坏はSD1に大形の脚部破片があり、内外面の丁寧なミガキ調整やほぼ当間隔で穿たれる円孔(8個?)に特徴が窺える。なお、接合までには至らなかったが、その坏部資料と目される破片も出土している。器台は器形の復元できたRP1の他に、脚部等部分の資料若干が散見される。坏あるいは小型の「鉢形土器」は器形の判明する資料2個体があり、いずれも器台(RP1)と同じSD1の覆土から出土している。形態的に深身(5)と浅身(4)に区別できるほか、調整の点でもハケメとミガキの手法で類別できる。壺(埴)は大型で複合口縁をもつもの(18)と、小型で球形の体部から口縁部が直線的に開いて立つ類型(6)が認められ、小型のものでミガキ調整等、つくりが丁寧である。甕は口縁・口唇部のつくり、および器面の調整などから細分が可能であり、多様な様相と窺えた。形態では口唇をつまみ上げる一群が目につき時期的、地域的な特徴として注目できる。

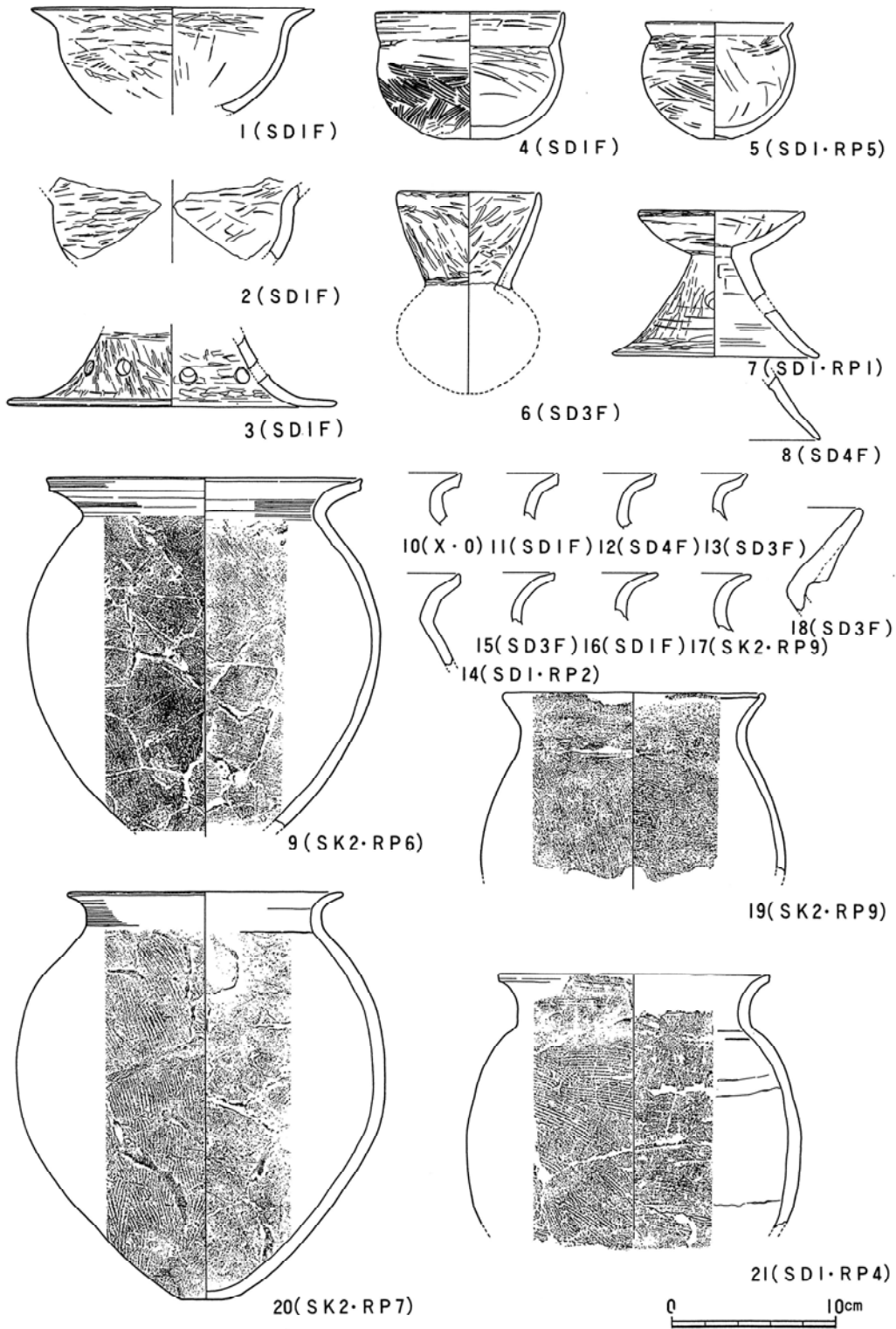
まとめ 調査の結果、高速道路側道に沿う県営ほ場整備事業の計画排水路他の関連のトレンチから古墳時代前・中期の遺構と遺物が検出された。しかし、従前の関係資料が地域内にほとんどなく、内容の比較検討は困難である。また、報告のスペースも限られることから、以下では北陸の編年に照らして、大方の型式的位置づけを試みるに止めておく。復元できた器台・甕・小型土器(鉢・坏)の形態からは、古府クルビ式～高畠式に関連し、漆町編年では7～9群土器が最も近いかと推察される。一方、地域的に近い新潟域の資料では山三賀遺跡の古墳I期に一部並行するかあるいはやや古く、より高塩B遺跡の土器に近いと思われた。



SK 2・RP 9 出土状況



SD 1・RP 3・4・5 出土状況



第76図 畑田遺跡出土土師器実測図



△甕 (SK 2・RP 6)

9



△甕 (SK 2・RP 9) 19 a



△同上内面 19 b



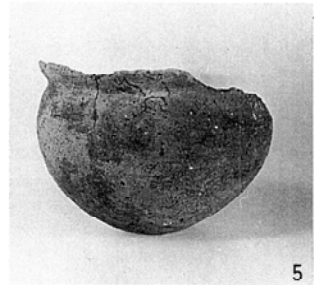
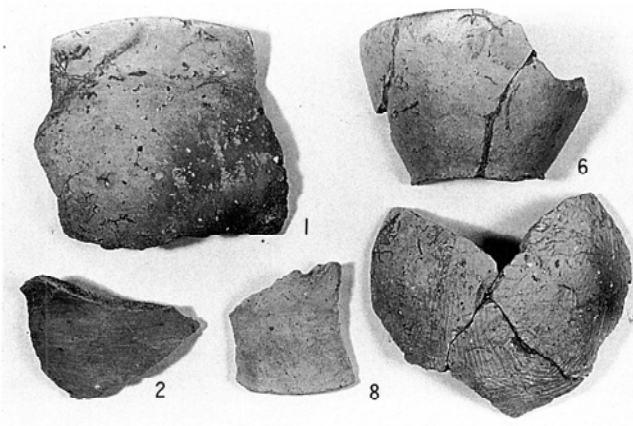
△甕 (SK 2・RP 7)

20



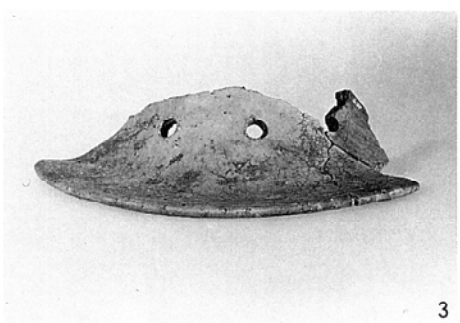
△同左 甕底部

※ 1-21の番号は実測図番号と同じ



5
△小型鉢形土器 (SD I · RP 5)

▽坏身 · 坏 · 器台



3
△器台 (?) SD I F



21
△甕 (SD I - RP 4)

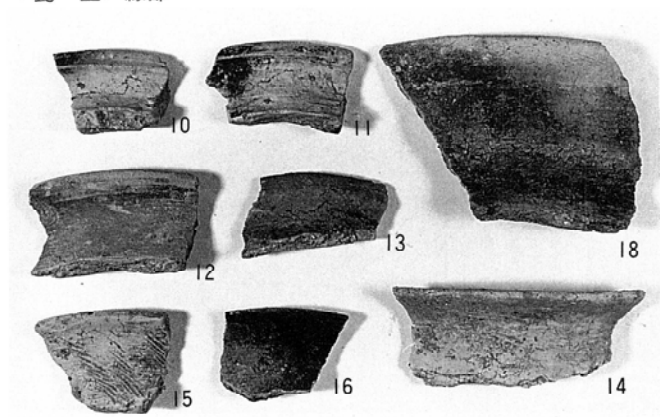


4
△小型鉢形土器 (SD I F)

▽甕 · 壺口縁部



7
△器台 (SD I · RP 1)



図版85 畑田遺跡(6)

(10) ^{なかの}中野遺跡 (昭和63年度登録)

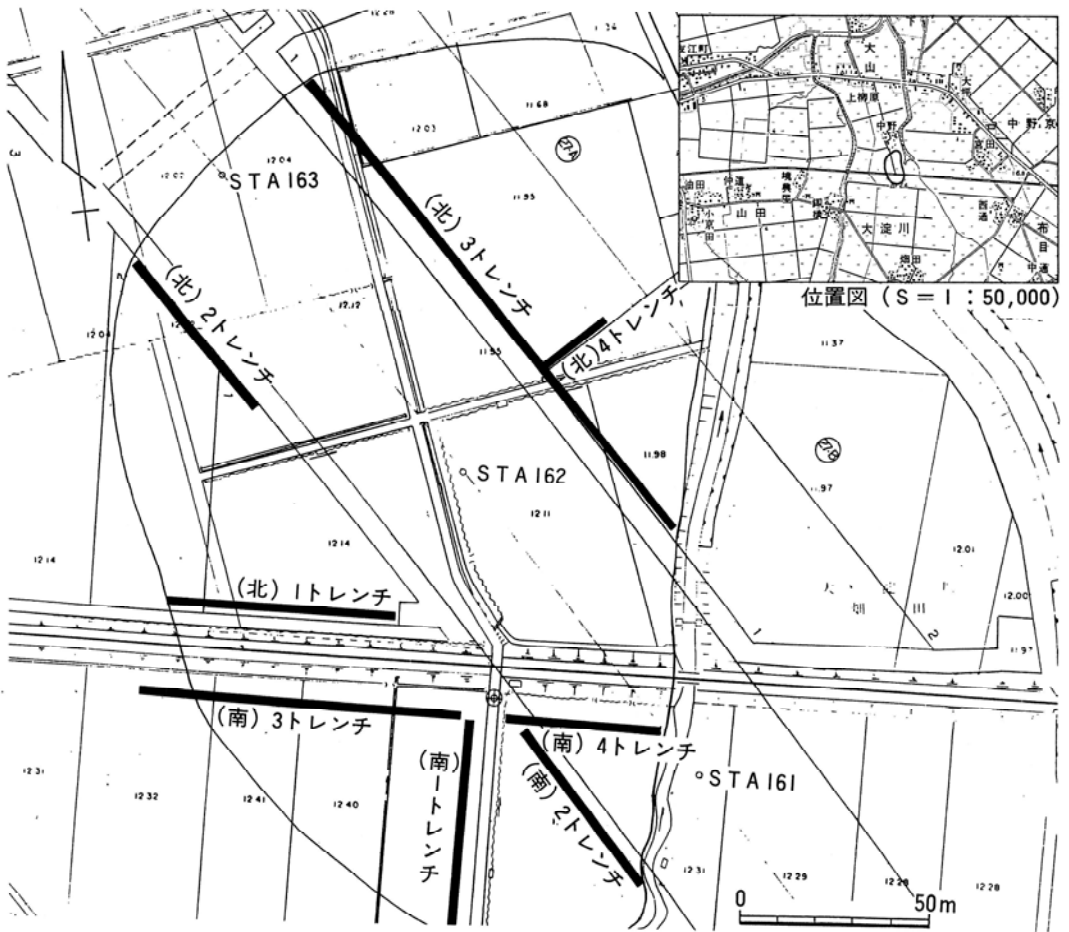
所在地 山形県鶴岡市大字大淀川字畑田・中野

調査員 佐々木洋治 阿部明彦

調査期日 立会い調査 平成元年8月22・23日

遺跡の概要 遺跡は鶴岡市大字大淀川字中野の南方、JR羽越線を挟んだ水田中に拡がり地目は大半が水田である。標高は12mを測る。

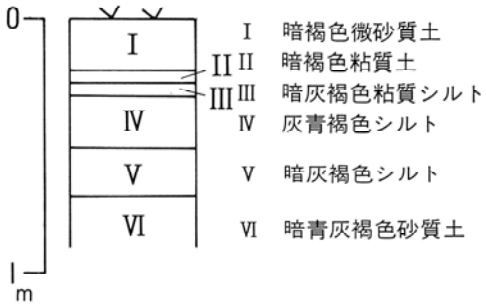
調査は平成元年度に施工される県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)との調整に資する目的から実施したもので、昭和63年秋に試掘調査を行って内容確認を行い、それを下にした保存協議ほかを関係者間で継続してきた経過がある。その結果、掘削の深くなる水路部分に限定した立会い調査を行って記録保存を図る方向で合意されたものであった。従って、今次調査では計画排水路・パイプ埋設予定地に沿うトレンチ(幅2m)8本を入れ、遺構・遺物の確認を行ったが、若干の土師器・須恵器・近世陶器類の遺物と小柱穴2基、溝跡1条などを(南)3トレンチで検出したに止まり、遺物の在り方も二次的状況と判断された。



第77図 中野遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



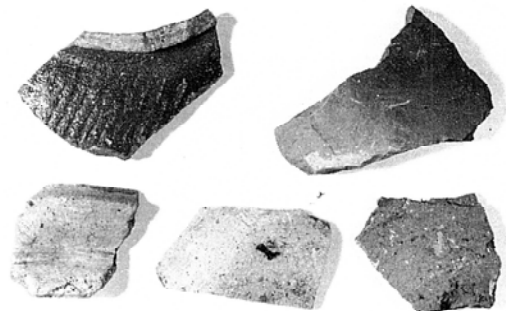
TP土層柱状図



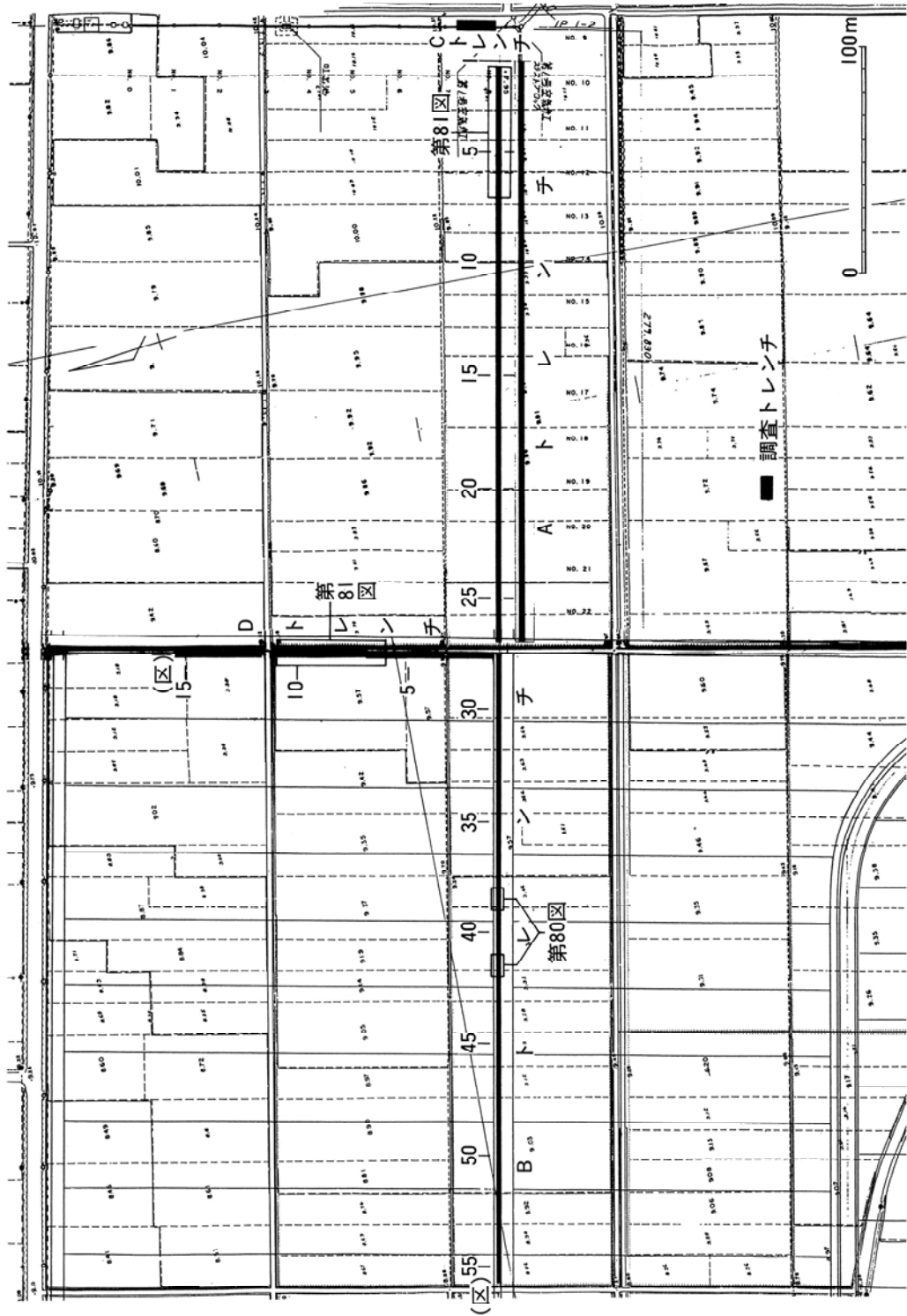
(北) Iトレンチ調査風景（東から）



(南) IトレンチTP土層状況

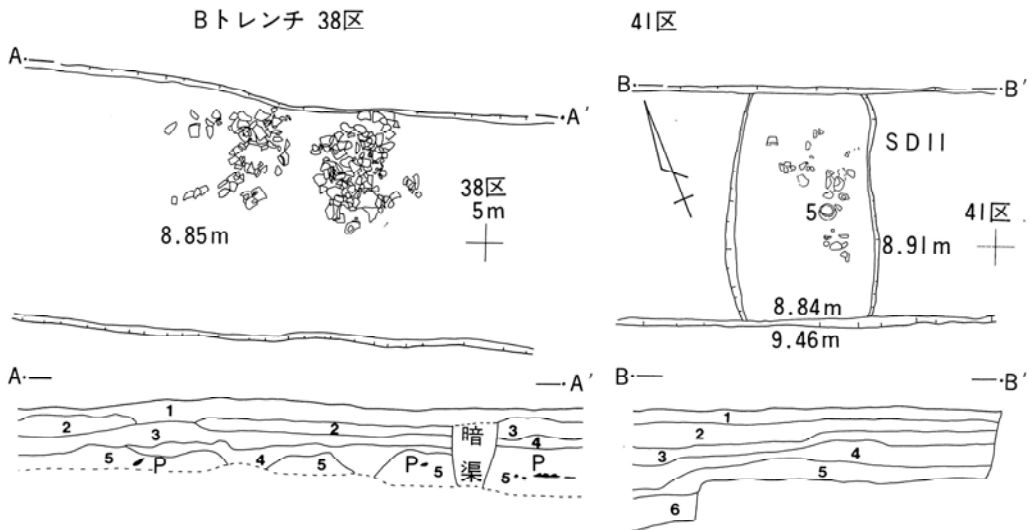


出土遺物

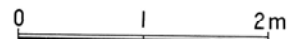


第79図 東田遺跡概要図

検出遺構 調査区は、A～Dの4本のトレンチを設定し重機による粗掘後、面整理を行い遺構を検出した。Aトレンチでは、遺物は比較的多数出土しているが遺構は検出されていない。Cトレンチでは、10数基の柱穴が検出されたが、建物跡は確認できなかった。Bトレンチでは、溝状遺構3条・柱穴10基・性格不明遺構3基が検出された。特に38区では第80図に示したように、須恵器が多数集積した状態で検出された。これらは遺構に伴うものではなく、遺物包含層(第80図5層)よりの出土である。また、41区では南北方向に延びるSD11が検出された。SD11は幅1.2m・深さ7cmほどの底面が平坦な溝である。この溝内よりは第78図1の土師器、5の赤焼土器等が検出されている。この他に1区～6区では、SD1・2、SX3・4、柱穴等が検出され、この地区での出土遺物も多い。遺構の覆土は青灰色ないしは暗青灰色のシルト質粘土で、木炭粒を混入する。木炭粒を混入するほかは地山と酷似している。検出された遺構はほとんどが5～10cmと浅いが、遺物は多数検出され、特にSX3からは第80図2が完形で出土している。また、このSX3の東側では、木炭と焼土が集中する地点が検出された。Dトレンチでは、土壇4基・溝状遺構2条が検出され、SD9からは第80図4が出土し、5区より3区が出土している。これらの遺構の掘り込みは5～10cmと浅く、遺物の出土量も少量である。

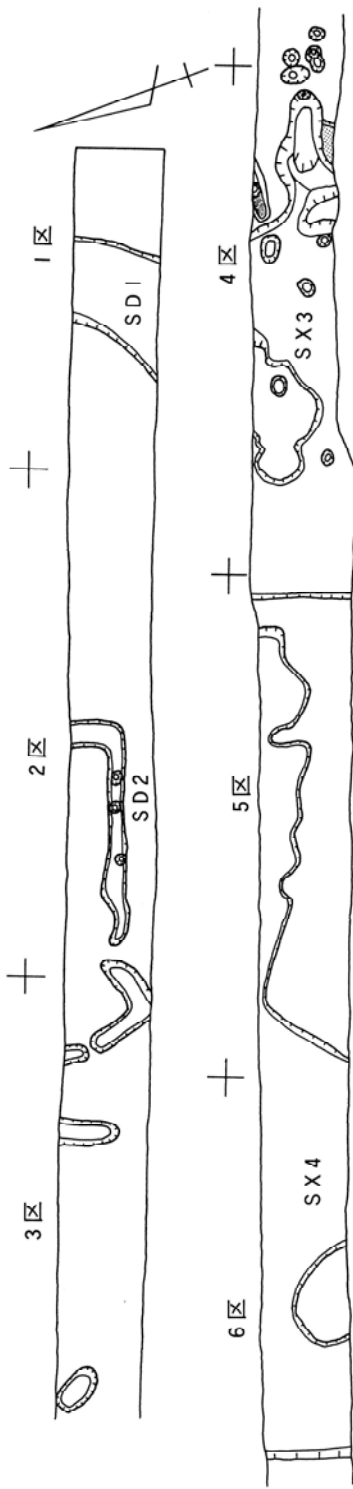


- 1 暗褐色粘土質シルト：耕作土。青灰色化(グライ化)したところが部分的にみられる。粘性やや強い。
- 2 暗褐色粗砂：暗灰褐色粘土と互層をなす。粗砂は下部で酸化鉄を多く含む。かたくしまっている。
- 3 黒褐色粘土：炭化粒を含む。粘性強く、かたくしまっている。
- 4 暗褐色シルト質粘土：第3層を塊状に含む。炭化粒と遺物を包含。粘性強く、かたくしまっている。
- 5 暗灰褐色シルト質粘土：炭化粒を含む。土器片多量。暗渠付近では、明褐色粘土に漸移する。東側下部でグライ化する。
- 6 暗青灰色細砂：若干の炭化粒を含む。粘性は弱く、しまりなく軟い。

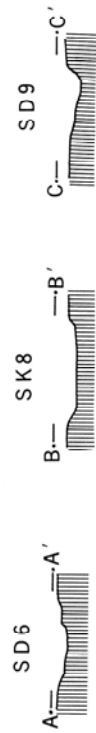
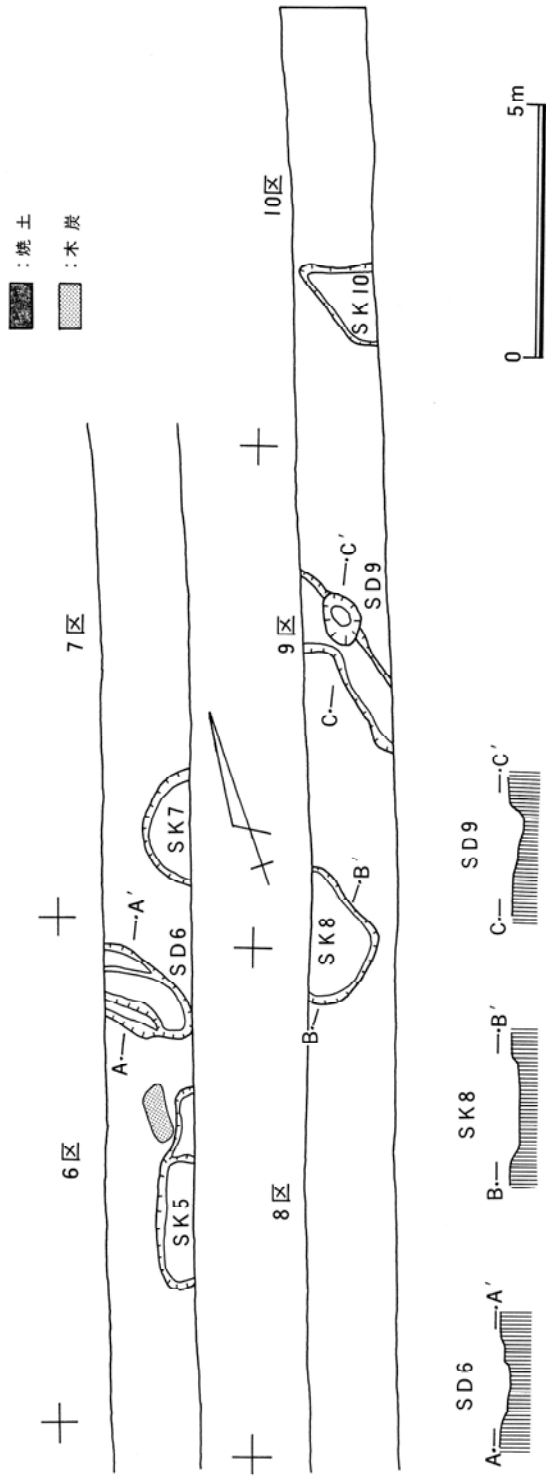


第80図 東田遺跡Bトレンチ 38・41区 出土土器集中部および土層断面図

Bトレンチ



Dトレンチ

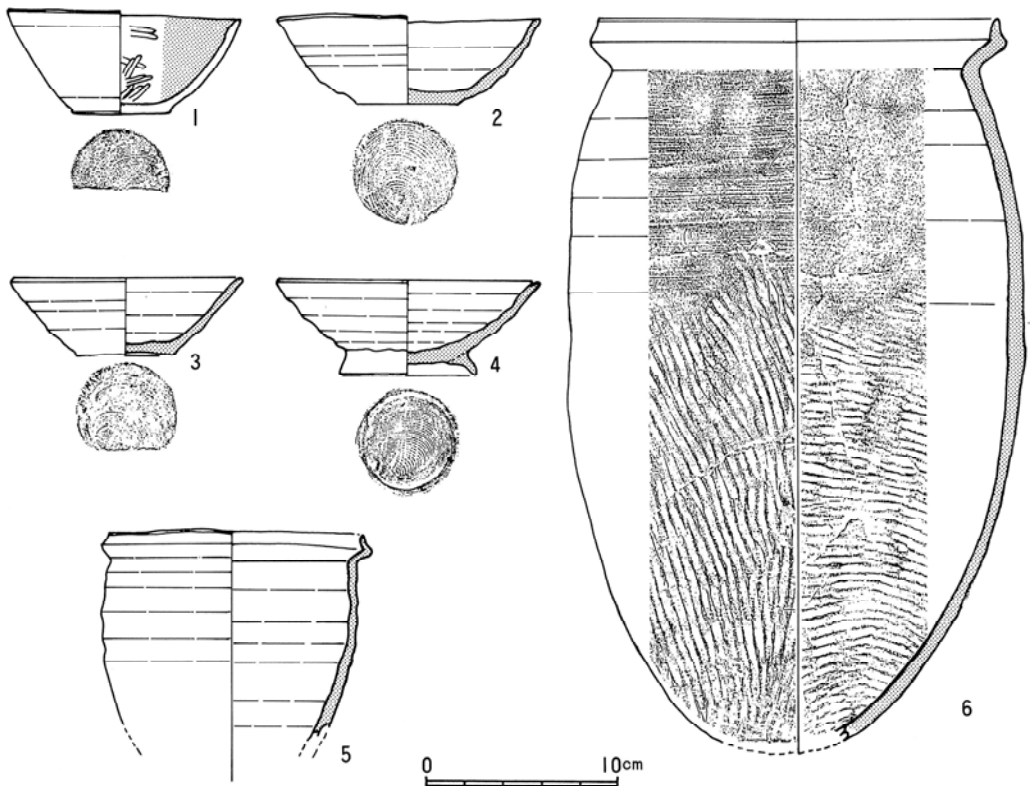


第81図 東田遺跡 B・Dトレンチ遺構全体図

出土遺物 遺物は整理箱にして約10箱分ほどが出土し、その分布ではAトレンチの6～7、14区、Bトレンチの2～8区、38・41区、およびCトレンチで量的にまとまっていた。種別では須恵器・赤焼土器・内黒土器の三種が主体となる。中でも、赤焼土器が供膳具・煮沸具で多く、内黒土器は供膳具の無台碗にほぼ限られていた。一方、須恵器は貯蔵具の壺・甕などの器種に認められ、供膳具ではほとんどみない。こうした傾向は、概ね9世紀後半代の様相と受けとめられる。以下に遺構内等から出土した器形の判明する土器を中心として種別毎に概略を記す。

赤焼土器供膳具では無台の坏(2)と有台の坏(4)とが認められ、後者は本遺跡で一般的な前者の胎土・色調他と大きく異っている。また、器形は明らかに灰釉写しと認められることから、モデルとなる灰釉陶器を勘案して10世紀末葉頃の所産と判断できる。

甕はロクロ整形の小型甕(5)と、ロクロ→タタキ→ケズリ手法により成・整形される長胴・丸底形態があり、煤ないし炭化物を付着する様子から煮炊具として使用されたことは疑いない。共伴と捉えられる須恵器の無台坏は小破片ながら底部の切り離しが回転ヘラ切りのものであり、これに限って言えば、年代的に9世紀後半を下らない時期が想定される。内黒土器の無台坏は量的に少ないながら(1)の赤焼土器に共伴している。



第82図 東田遺跡出土遺物



遺跡遠景（南から）



A トレンチ調査風景（北東から）



A トレンチ（東から）



B トレンチ（西から）



C トレンチ（南から）



Dトレンチ (南から)



Bトレンチ遺構検出状況 (南西から)



Bトレンチ遺構完掘状況 (西から)



Dトレンチ調査状況 (南から)



Bトレンチ SX3 遺物出土状況 (西から)



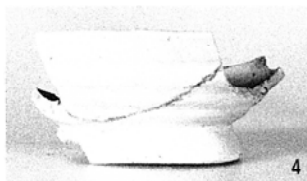
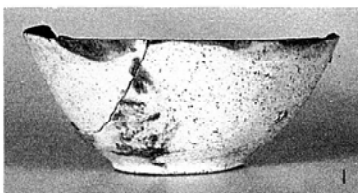
Cトレンチ遺物出土状況 (北から)



Bトレンチ4I区遺物出土状況 (南から)



BトレンチSDII遺物出土状況 (南から)



- 1 : Bトレンチ4I区SD11F
2 : Bトレンチ4区SX3F
3 : Dトレンチ5区II層
4 : Dトレンチ9区SD9F
5 : Bトレンチ4I区SD11F
6 : CトレンチI区III層

6
出土遺物

Ⅲ ま と め

平成元年度遺跡詳細分布調査は、平成2年度以降に予定されている開発事業計画に先行して遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業計画との調整をとることを主目的とするもので、一部記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査を実施した。

調査遺跡は115箇所(113遺跡)を数え、うち43遺跡は新たに発見され、登録した遺跡である。調査方法別ではA調査が102箇所、B調査23箇所、C調査3箇所、立会い調査9箇所である。

B調査を実施した23箇所(21遺跡)のうち、関係機関との調整により、平成元年度に緊急発掘調査を実施して記録保存となったものが2遺跡、同じく分布調査で記録保存としたもの2遺跡(3箇所)、遺構・遺物がほとんどなかったものが5遺跡であった。残る遺跡について、山形県教育委員会では、遺跡をでき得るかぎり現状保存するとの立場で関係機関との調整を進め、特に県営ほ場整備事業にかかわる遺跡では、面工事で破壊される面積を最小限に食い止めることができたほか、土木事業関係でも、遺跡の中心部をはずすなどの配慮をいただいた。

参 考 文 献

長橋 至 渋谷孝雄(1985)『高阿弥田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第86集

名和達朗 太田 優 斎藤克典(1988)『手蔵田10・11遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第124集

山形県埋蔵文化財調査報告書第148集
分布調査報告書(17)

平成元年度以降農林土木事業他関係遺跡
国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡
埋蔵文化財包蔵地基礎調査

平成2年3月29日 印刷

平成2年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
